

第5章 発掘調査の成果

第1節 遺構と遺物の概要

各山城の調査位置 発掘調査の位置は、測量調査で想定された城郭遺構の性格を考慮して決定した。古川城跡・小島城跡では虎口の通路及び切岸・主郭と想定された平坦地を、野口城跡では主郭と想定された平坦地と畝状堅堀群を、小鷹利城跡・向小島城跡では主郭と想定された平坦地を調査対象とした。調査面積は古川城跡 131.3 m²、小島城跡 70.2 m²、野口城跡 90.1 m²、小鷹利城跡 128.7 m²、向小島城跡 59.3 m²である。調査は遺構面を把握し、その構築土層の出土遺物から変遷を検討することを共通の目的とした。

遺構の概要 各山城で複数の遺構面と、各遺構面で礎石建物・掘立柱建物などの遺構を確認した（第42表）。各山城での遺構と遺物は、歴史的な流れに沿うため、下層の古い時代の調査成果から報告する。

古川城跡では虎口通路・切岸で2面、平坦地で4面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で礎石建物・土坑・柱穴等を確認した。小島城跡では虎口通路で1面・平坦地で2面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で礎石・盛土遺構・石垣・土坑を確認した。野口城跡では平坦地で2面・畝状堅堀群で1面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で掘立柱建物・柵列・柱穴・土坑・土塁・連続する土塁と堀を確認した。小鷹利城跡では平坦地で2面の遺構面を確認し、それぞれの遺構面で礎石建物・柱穴を確認した。向小島城跡では平坦地で1面の遺構面を確認し、掘立柱建物・柱穴・土留め石垣を確認した。遺構番号は原則検出順である。

礎石建物・掘立柱建物・柵列等の計測は、構成する礎石や柱穴の中心同士の長さとした。掘立柱建物と柵列は、3つ以上の柱穴列が直線的に並ぶものか、曲輪上端に沿ったものを認定した。柱穴・土坑・不明遺構・礎石抜き取り穴の計測は、最大幅を長軸とし、それに直交する軸を短軸とした。深さは、最も深い位置で計測した。また、堆積状況・断面形態・平面形態・底面形態を統一事項として観察した。堆積状況は、単層・水平堆積・中央が凹む堆積・窪みの位置が片方の壁に偏る堆積・柱痕跡を持つ堆積

第42表 遺構一覧表

山城名	調査地点	遺構面	遺構
古川城跡	虎口通路・切岸	第2遺構面	石垣（裏込め土あり）・土留め石垣（裏込め無し）
		第1遺構面	石垣（石材幅1m前後、裏込め土あり）・スロープ・柱穴
	最高所の平坦地	第4遺構面	土坑
		第3遺構面	柱穴
		第2遺構面	礎石建物
		第1遺構面	礎石建物・礎石・石列
小島城跡	虎口通路	第1遺構面	石垣（裏込め土あり）・通路
		第2遺構面	土坑
	最高所の平坦地	第1遺構面	石垣（裏込め土・間詰石あり）・盛土遺構
野口城跡	最も広い平坦地	第2遺構面	土塁・柱穴・土坑
		第1遺構面	柵列を伴う土塁・掘立柱建物・柱穴・土坑
	畝状堅堀群	第1遺構面	連続する土塁と堀
小鷹利城跡	最も広い平坦地	第2遺構面	柱穴
		第1遺構面	L字を呈する礎石建物
向小島城跡	最も広い平坦地	第1遺構面	掘立柱建物・柱穴・土坑・土留め石垣

に分類した。断面形態は、土坑・不明遺構については半円形・方形・逆三角形に、柱穴については平坦か擂鉢形状かに分類した。平面形態・底面形態は、円形・方形・不定形に分類とした。また、古川城跡・小島城跡の礎石は最大幅を長軸とし、それに直交する軸を短軸として計測した。

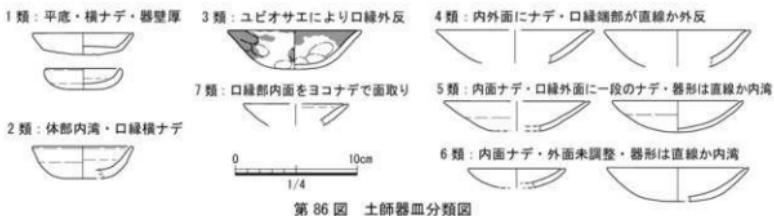
遺物の概要 遺物は、古川城跡で 95 点、小島城跡で 37 点、野口城跡で 190 点、小鷹利城跡で 67 点、向小島城跡で 14 点、合計 403 点を確認した。陶器や磁器、産地等の種別分類では、土師器皿 265 点、瀬戸美濃焼 38 点、珠洲焼 44 点、青磁 9 点、白磁 9 点、中国製染付磁器 7 点、金属製品 17 点、その他 8 点となった（第 43 表）。次に以下の分類で、碗や皿等の器種分類、器形等の細分類を行った。

最も多い土師器皿は、全て手づくねである。器形やナデを基準に、古川町内の遺跡で見つかるものを 7 分類している（第 86 図）（三好清超 2021）。1 類は平底を呈し、ヨコナデにより体部が短く立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げる。器壁は厚めで、径は小さい。2 類は体部が緩く内湾し、口縁部がヨコナデにより外傾する。3 類はナデかユビオサエにより、口縁を外反させる。4 類は内外面にナデを施し、口縁端部が直線か外反する。5 類は内面にナデを施し、口縁端部が直線か外反する。6 類は内面にナデを施し、外面は未調整である。7 類は口縁部内面をヨコナデにより面取りし、直線的に開く器形である。

次に多いのは、珠洲焼 44 点、全て甕の破片である。生産地の分類に従った（吉岡康暢 1994）。次いで、瀬戸美濃焼 38 点が出土している。丸皿・端反皿・天目茶碗・すり鉢が複数個体出土した。これも生産地の分類に従った（藤澤良祐 2008）。中国製陶器では、青磁・白磁・中国製染付磁器が出土した。これらは国立歴史民俗博物館の分類に従った（国立歴史民俗博物館 1993）。金属製品では、金槌・釘の他、小刀の柄が古川城跡・向小島城跡で出土した。この中から、遺構や造成土に伴うこと、口縁部が残存して分類可能なこと、遺跡や遺構の時期決定資料となることを基準に 187 点を抽出し、図化した。

第 43 表 遺物一覧表

	古川城跡			小島城跡			野口城跡			小鷹利城跡			向小島城跡			総計
	虎口通路 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	虎口通路 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	合計 (点数)	
須恵器	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
灰釉陶器	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
土師器	12	51	63	0	9	10	19	178	4	2	2	10	4	37	266	
瀬戸美濃焼	3	9	12	4	3	2	9	2	10	4	6	1	39	1	44	
珠洲焼	0	0	0	0	0	3	3	1	0	2	6	1	9	0	9	
青磁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
白磁	1	4	5	1	0	0	1	0	2	1	0	2	1	0	9	
中国製染付磁器	0	1	1	0	0	0	0	0	4	2	0	4	2	0	7	
金属製品	0	6	6	1	2	1	4	5	2	1	1	2	1	1	18	
その他	2	1	3	1	0	0	1	2	0	2	0	2	0	2	8	
合計	18	77	95	7	14	16	35	190	67	14	14	67	14	403		



第 86 図 土師器皿分類図

第2節 古川城跡

1 調査の目的

測量調査で想定した城郭遺構の性格をもとに、石の散乱が認められる切岸において石垣の有無、虎口の可能性がある地点の石垣構造、主郭の櫓台と考えられた最高所の平坦地において建物の有無や変遷の確認を目的に、トレンチを設定した。

2 石垣と平坦地の調査

(1) 調査の概要

2018年度、2020年度と2次にわたり、古川城跡で石の散布が認められる斜面から下段の通路状の平坦地と、石垣が地表面に露出する斜面とその上段の平坦地の一部を対象に調査を実施した。ここでは、上段の平坦地を平坦地3、下段の通路状の平坦地を平坦地4、地表面に露出する石垣で規定される平坦地3から平坦地4への通路を通路5として記述する（第87図）。

2018年度には石の散布が認められる斜面から下段の平坦地4にかけて1号トレンチを設定した。目的は、散乱する石が石垣であったかを確認するためである。上層より腐葉土・崩落土・地山を確認した。腐葉土と崩落土に混じる石材を撤去しつつ作業を進めたところ、斜面地の下半のみ石垣4を有することを確認した。石垣が残存するのを確認したものの、その前面に1m大の礫が厚く堆積して掘削に制約があり、構造を確認することはできなかった。

次に、地表面に石垣1が露出し、平坦地3と4の高低差が最も少なくなる通路5において、石垣1の構造と構築年代を明らかにすることを目的に、2～7号トレンチを設定した。埋もれていた石垣1を検出し、L字を呈するという状況は明らかとなったものの、その構造や出土遺物による年代観についての知見を得ることができなかった。このため、石垣背面に掘削深度を地山までとするサブトレンチを延長させる追加調査を、2020年度に実施した。

調査では、上層より腐葉土・崩落土・路面造成土・スロープ造成土・石垣1裏込め土・石垣1据付埋土・通路造成土・石垣2裏込め土・曲輪造成土・地山の順で堆積することを確認した。

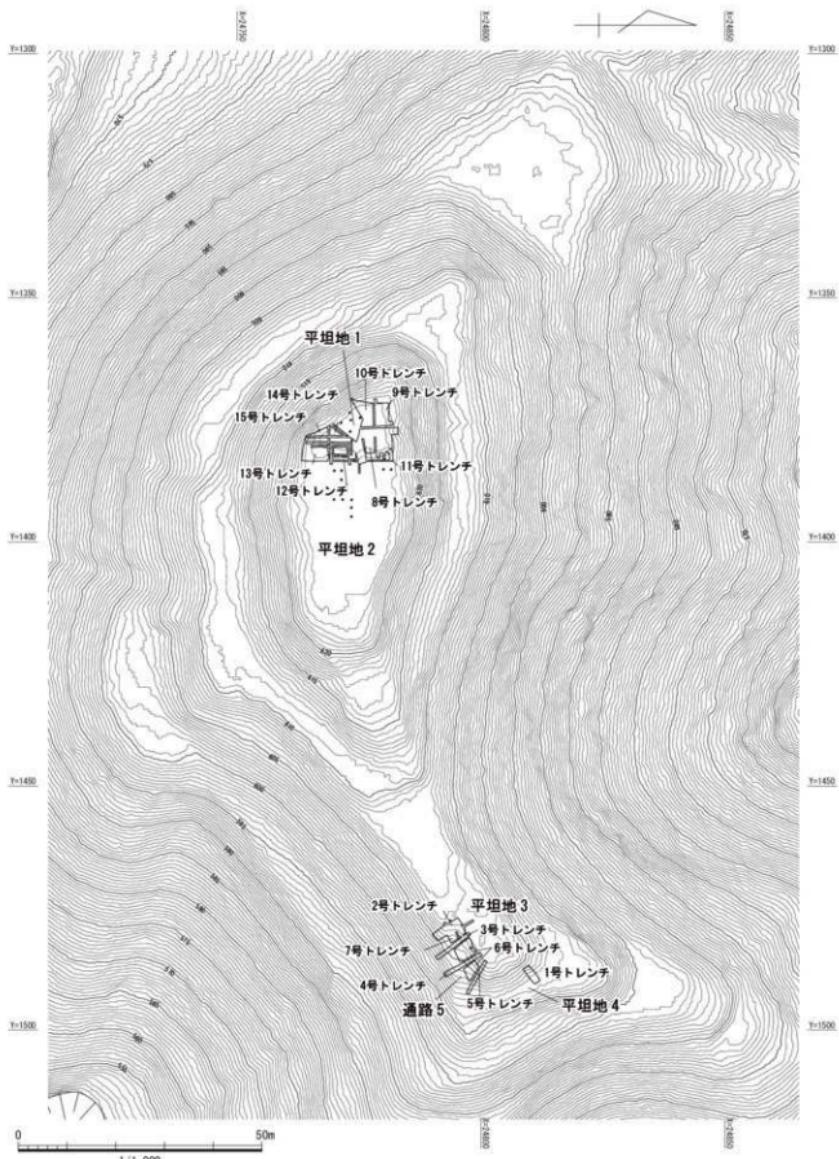
石垣1の積み方は2種類が認められた。石垣西半部は拳大の礫を敷いた上に石を据えていた。石垣東半部は、地山直上に石を据えている状況を確認した。また、石垣が無い部分では、裏込め土が残り元々石垣があったと想定された場所と、裏込め土がなく石垣を据えていなかった可能性のある場所が認められた。さらに、石垣の裏込め側にも礫が積まれている状況を確認し、平坦地3の曲輪造成土を土留めするための石垣2とした。

(2) 基本層序（第88図）

腐葉土 平坦地3、平坦地4、通路5、それらの間の斜面を覆う腐葉土である。現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地4及び通路5の斜面下に堆積する崩落土である。拳大から人頭大の礫が混じる。また、1mを越える礫も混入し、石垣とその裏込め土が崩落したものと考えられる。

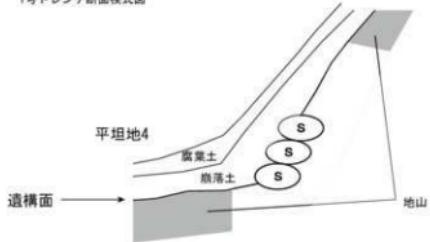
路面造成土 通路5は虎口内の通路と想定され、その上面を舗装したと考えられる土層である。通路造成土及び地山上面に薄く堆積する。地表面に露出する石垣1を埋め、また地山の低い部分を埋める。



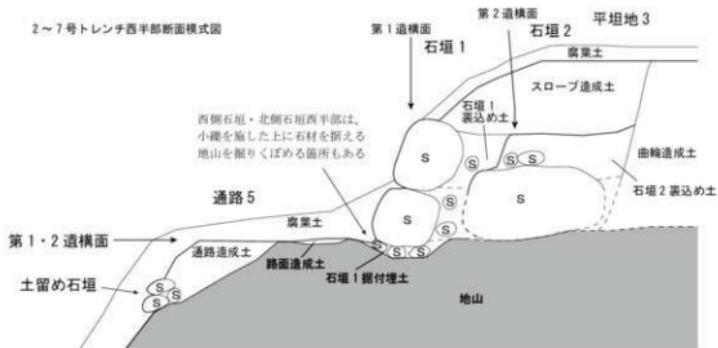
第87図 古川城跡 トレンチ位置図

平坦地3

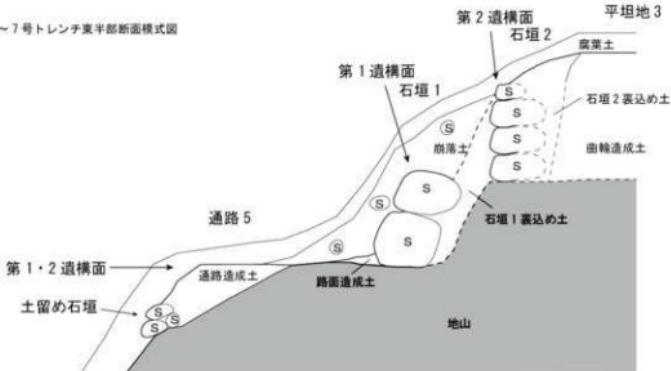
1号トレンチ断面模式図



2~7号トレンチ西半部断面模式図



2~7号トレンチ東半部断面模式図



第88図 古川城跡 1~7号トレンチ断面模式図

このため、スロープ造成土とともに、当層の上面も第1遺構面として調査を行った。

スロープ造成土 石垣1北側の西隅部石垣の上部を覆う造成土である。この上面を第1遺構面として調査を行った。

石垣1裏込め土 1m前後の、地表面に露出する石垣1を据えるための裏込め土である。拳大の礫が混じる。1m前後の石材を据えるための土層である。

石垣1据付埋土 石垣1のうち西側石垣及び北側石垣の西半部で確認した、地山を掘り込んだ後に小礫を置いて石材を据えた土層である。

通路造成土 通路と考えられる平坦地4全面を覆う黄褐色系の土層である。自然傾斜地に平坦地4を造るために施した盛土層である。南側斜面の地山と接するところには、礫群が認められ、土留め石垣として機能していたと考えられる。当層は石垣1及び石垣2と直接的な土層の繋がりが認められない。ここでは、土留め石垣の在り方が石垣2と近似するため、第2遺構面と認識した。

石垣2裏込め土 サブトレンチにて、地表面に露出する石垣1の裏込め土を掘削したところ、その下層から石垣2を検出した。平坦地3の曲輪造成土の土留めも兼ねるものと考えられた。当層の上面を第2遺構面とした。

曲輪造成土 平坦地3を造るために盛り土した土層である。

地山 この山の一帯の基盤層で、黄橙色の砂礫である。上面から掘り込む土坑を断面A-A'で確認した。

(3) 1号トレンチの遺構（第89図、第44表）

上層より、腐葉土、崩落土、地山を確認した。崩落土には、50cm大の礫が厚く堆積し、また1mを越える礫も混在する状況であった。このため、崩落土を全て除去することができなかつた。

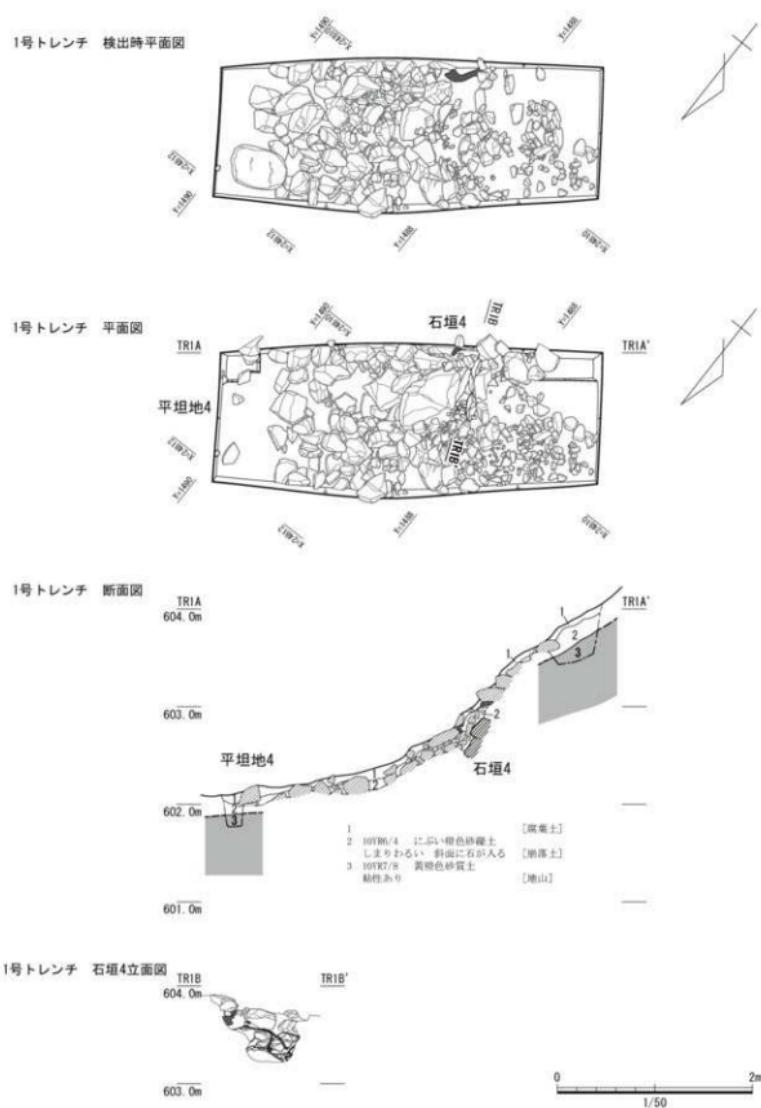
腐葉土と可能な限りの崩落土を除去したところ、その下層より、整然と積まれた石垣4を検出した。検出幅は0.7m、高さ0.3mで2段分である。これ以上の掘削をすることができず、裏込め土の有無・石材の大きさを確認することができなかつた。平坦地3を囲む斜面に位置するため、後述する石垣1と接続するものと想定される。

(4) 2～7号トレンチの遺構（第90～95図、第44表）

①第2遺構面の遺構

D-D'断面では、地表面に露出する石垣の下層に、1mを超える礫とそれを埋める土層24・25層を確認した。この24・25層は、平坦地3の曲輪造成土を切った後に礫を据えた層と観察できるため、地表面に露出する石垣1とは時間差があると想定した。E-E'断面でも8層が同様の土層と確認した。F-F'断面では、上方で崩落土の下層にほぼ垂直に立ち上がる7層に、人頭大の礫が混入する状況を確認した。この7層は、平坦地3の曲輪造成土8～10層を切った後に盛り土されている。G-G'断面では、ほぼ垂直に立ち上がる土層9層に礫が混入する状況を確認した。この9層も平坦地3の曲輪造成土11・12層を切った後に盛り土されている。これらを石垣2として報告する。

石垣2 地表面に露出する石垣1の下層で、平坦地3の曲輪造成土より上層に位置する。傾斜角75°～80°で立ち上がる土層に、礫が積まれ、また混入する。調査で確認した範囲で、全長8.0m、高さ1.4mを測る。石材の大きさは、D-D'断面のものが突出して大きく、幅50cm以上、奥行き80cm、高さ15cm以上を測る。F-F'断面及びG-G'断面で確認したものでは、幅44cm、高さ18cmのものが



第89図 古川城跡 1号トレンチ造構図

第44表 古川城跡1～7号トレンチ石垣計測表

遺構名	位置	遺構面	全長	高さ	傾斜角	裏込め	間詰石	備考
石垣1_北面	虎口	第1	14.4	(1.0)	65～70°	裏込め土	有	裏込め土に礫含む
石垣1_西面			2.4	(0.9)				
石垣2	虎口か	第2	(8.0)	(1.4)	75～80°	裏込め土	無	-
石垣4	平坦地3の切岸	-	(0.7)	(0.3)	60°	無	無	-
土留め石垣	虎口通路切岸	第2	(4.8)	(1.0)	60°	無	無	-

※() 数値は検出長を示す

最大である。小さいものは10cm程度である。石材は濃飛流紋岩である。平坦地3の曲輪造成土を土留める役割を持つと考えられる。G-G'断面では、地山が水平に削って基礎とし、その上に当該土層の9層が位置する。裏込め土に礫は確認できない。

土留め石垣 3号トレンチと4号トレンチで確認した。D-D'断面では、通路5の上端から1.2m下に位置し、上端まで積まれない。通路造成土中に、礫が積まれて混入している状況であり、裏込めはない。傾斜角は60°である。調査で確認した範囲では、全長4.8m以上、高さ1.0mを測る。石材の大きさは、10～40cmと不揃いである。通路造成土の土留めの機能を持っているものと考えられる。

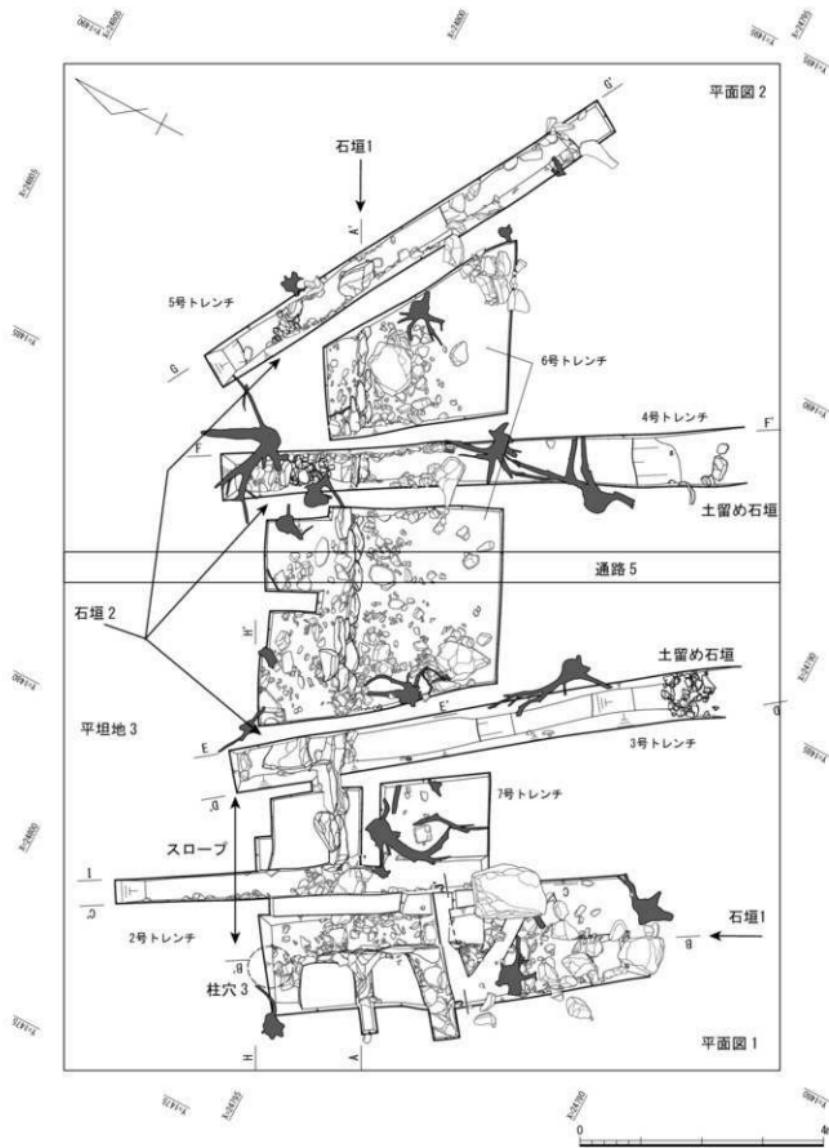
②第1遺構面の遺構

D-D'断面では、地表面に石垣が露出していた。これを追いかけ、検出した石垣の上面及びそれと接続するスロープ造成土・平坦地3を構築する曲輪造成土・通路5を構築する通路造成土上面が第1遺構面である。石垣は調査範囲全面で確認した。これを石垣1とする。また、H-H'断面では、この上面から掘り込む柱穴3を確認した。

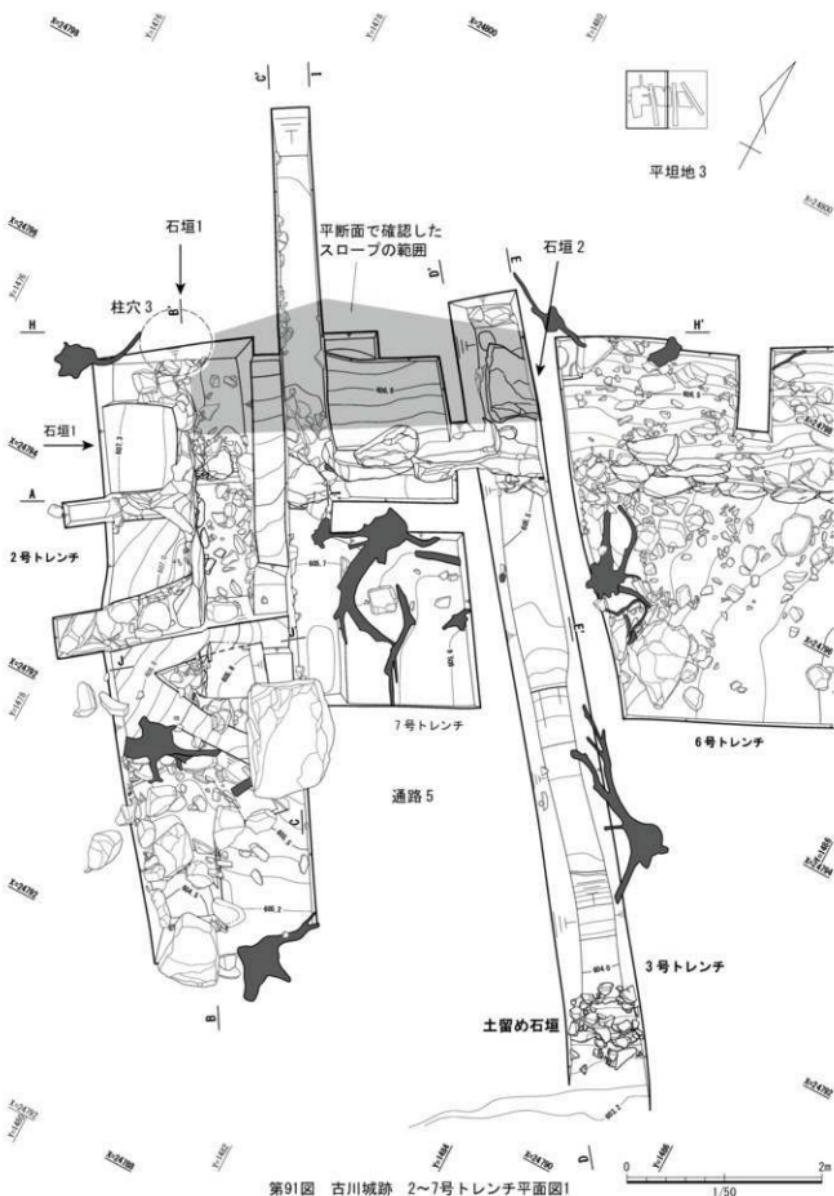
石垣1(第96図) 地表面に露出する石垣である。傾斜は65～70°を測る。調査では、L字状に屈曲し、枠形を呈することを確認した。調査した範囲で、北面石垣は全長14.4m、高さ1.0m以上を測り、最大4段分が残存する。西面石垣は全長2.4m、高さ0.9m以上を測り、1段分が残存する。石材の大きさは、西面石垣で北面石垣と接する地点のものが最大であり、幅1.1m、高さ0.9cmを測る。石材は濃飛流紋岩である。平面及びA-A'立面で、北面石垣の基底の石が西面石垣の下層に入り込んでいる状況を確認したため、北面石垣を構築後に西面石垣を構築したものと考えられる。

石垣の積み方は2種類がある。西面石垣及び北面石垣のE-E'断面より西側は、20cm大の小さい礫で根固めを施し、その上に1m大の礫を据える。根固めの礫はD-D'断面・立面A-A'・B-B'において、第1遺構面より高い位置にある。また、D-D'断面では、根固めの前に地山を掘り込む。対して、北面石垣のE-E'断面より東側では、地山に直接石材を置く。

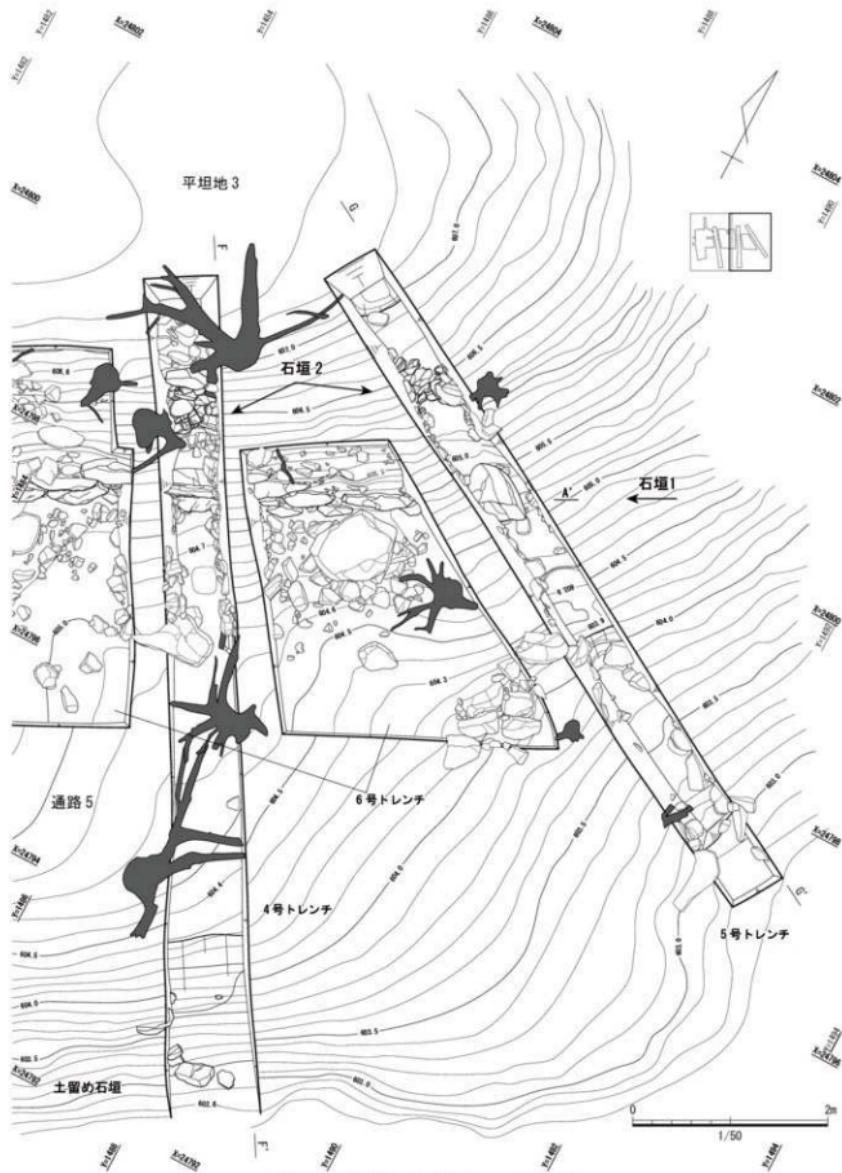
スロープ(第45表) 枠形を呈する石垣1の北面石垣では、E-E'断面より東側では、石垣上層で、石垣が裏込め土と共に崩落したと考えた崩落土を確認した。対して、D-D'断面より西側では、小礫が混入しない状況であった。このため、平坦地3まで石垣が達していなかったと想定し、この部分は通路5から平坦地3へ登るスロープとして造成されたものと考えられた。幅は3.8mである。通路5の幅はD-D'断面で3.8mであり、一致する。なお、スロープ造成土から掘り込む柱穴3は西面石垣の延長線上に位置し、スロープで登った位置にある遺構の可能性を想定した。しかし、対となる柱穴を確認することはできなかった。



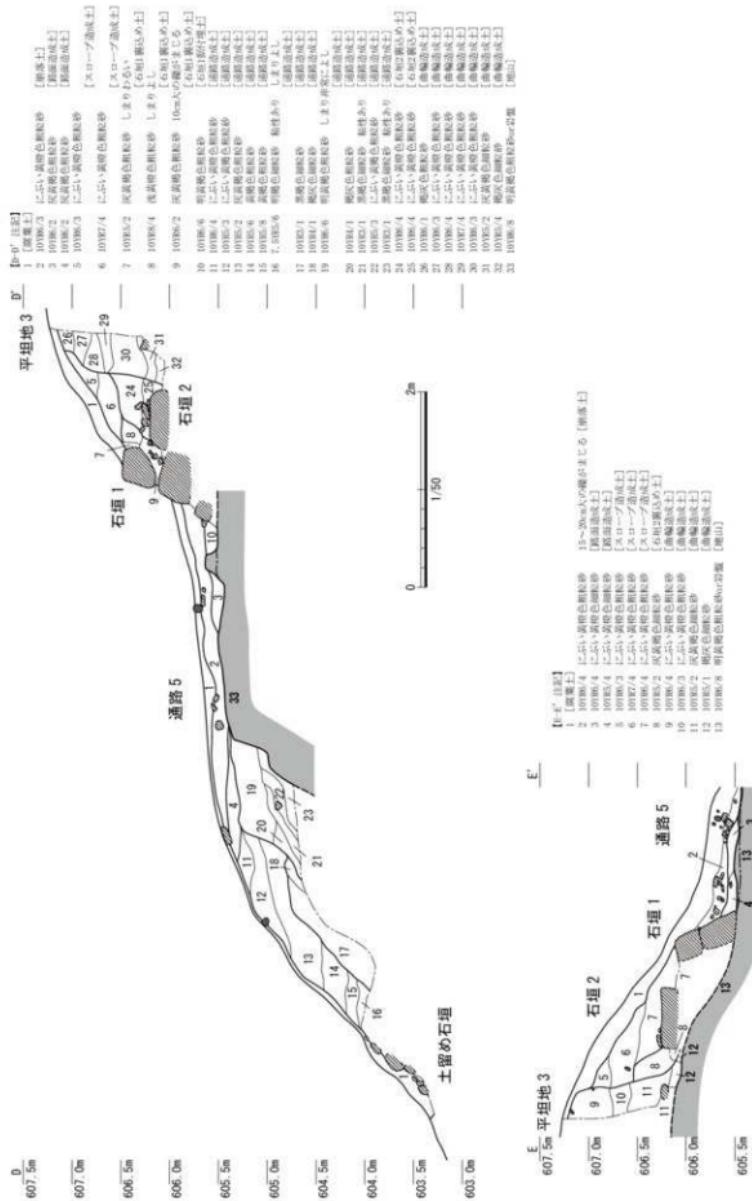
第90図 古川城跡 2~7号トレンチ平面割付図



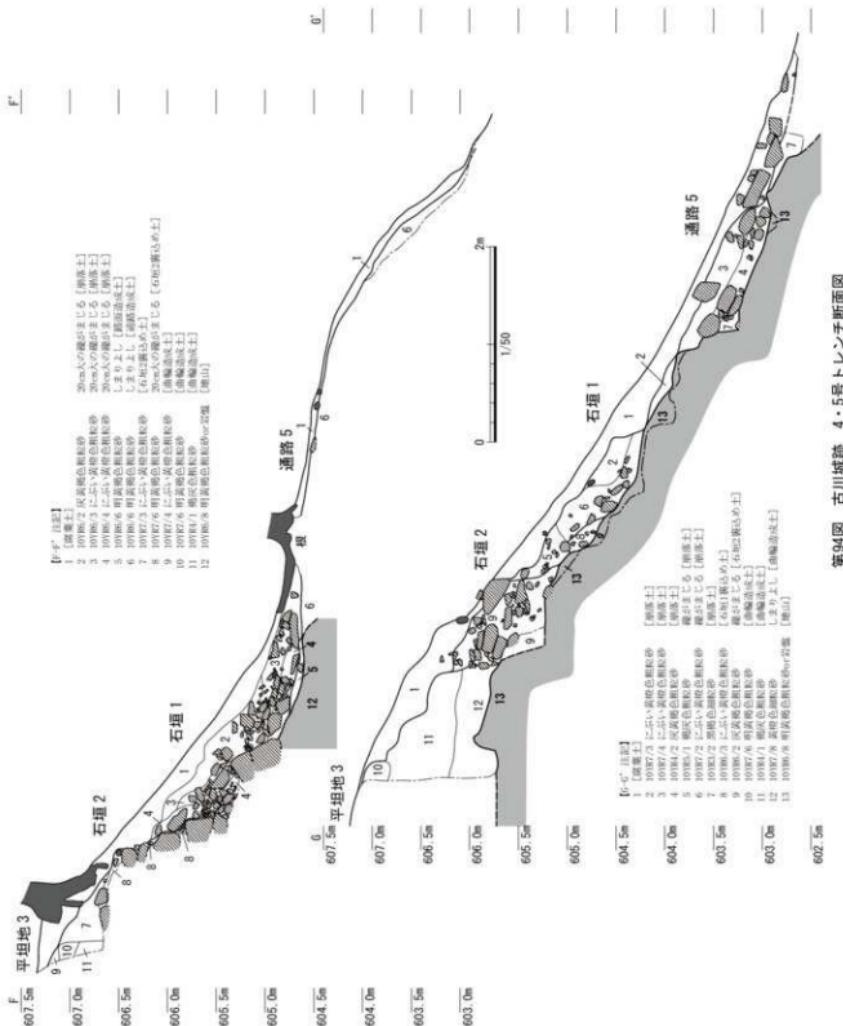
第91図 古川城跡 2~7号トレンチ平面図



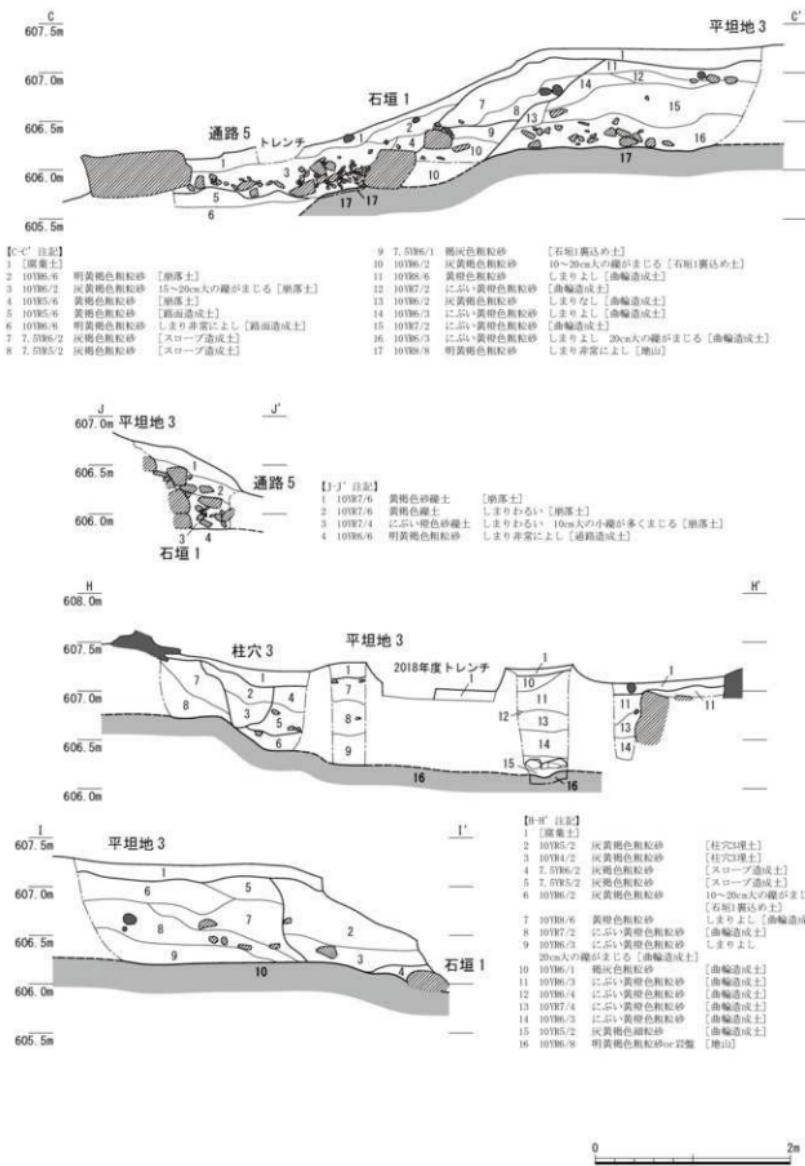
第92図 古川城跡 2～7号トレンチ平面図2

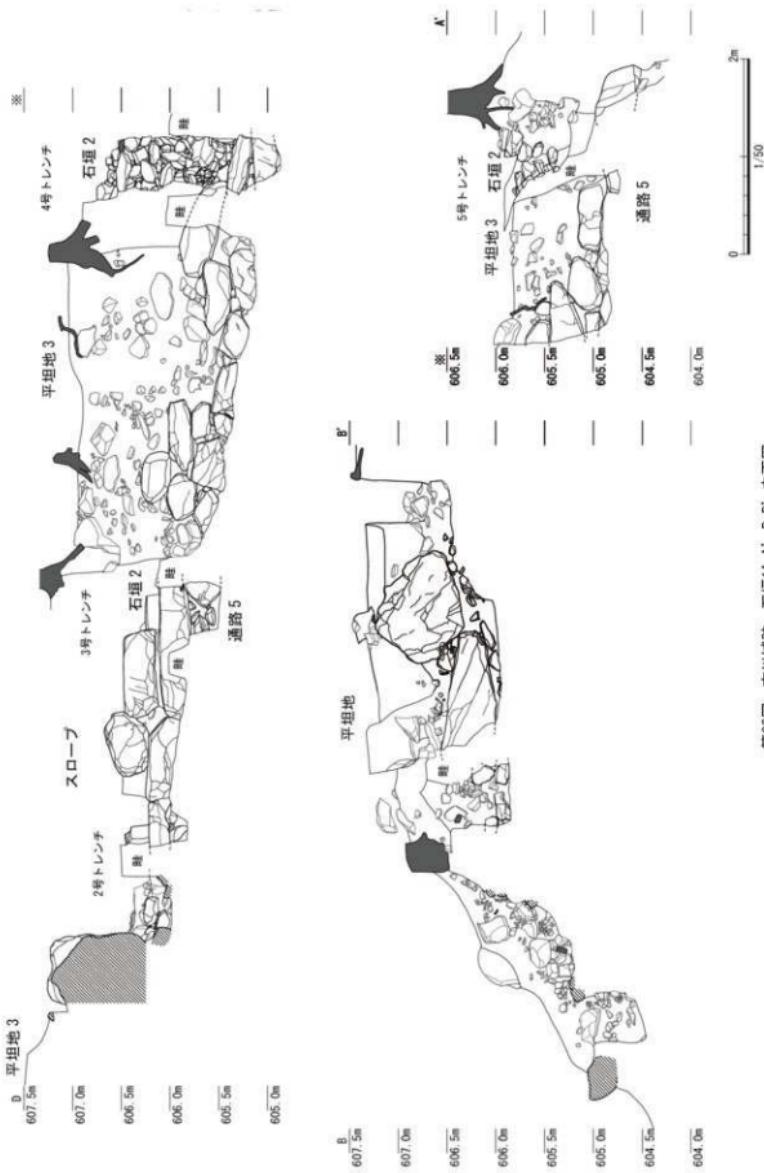


第33図 古川城跡 3号トレンチ断面図



第94図 古川城跡 4・5号トレンチ断面図





第96図 古川城跡 石垣1A'-B'・B-B' 立面図

第45表 古川城跡1～7号トレーナー柱穴一覧表

遺跡記号	地名	遺構種別	遺構番号	検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	法量(m)		埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)
								上端	下端		
AFR20	虎口	柱穴	3	曲輪造成土 (平坦地)	水平	右	-	0.73	-	0.62	灰黄色色粗粒砂 10YR5/2 10YR4/2

(5) 1～7号トレーナーの遺物（第97図、第46・47表）

① 1号トレーナー

崩落土

珠洲焼1点が出土した。1は甕の体部破片である。外面にタタキ、内面にオサエの痕跡がある。

② 2～7号トレーナー

曲輪造成土 土師器皿が6点、白磁が1点出土し、土師器皿3点、白磁1点を図示した。

2～4は土師器皿である。2は内外面にナデを施し、4類に属する。3・4は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。

5は白磁皿の口縁部破片である。体部が丸みを持って立ち上がり、端部は立つ。器形から白磁D類と考えられる。

石垣1裏込め土 土師器皿が1点、瀬戸美濃焼が1点出土し、図示した。

6は土師器皿である。内外面にナデを施し、4類に属する。7は瀬戸美濃焼の丸皿である。内外面に灰黄色の灰釉を施す。付高台が低く、体部は丸みを持たずに立ち上がる。器形から大窯第2段階のものと考えられる。

通路造成土 土師器皿が1点、金属製品が1点出土し、土師器皿1点を図示した。

8は土師器皿である。内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。

崩落土 土師器皿が1点、瀬戸美濃焼が2点、鉄釘が1点出土し、瀬戸美濃焼2点、鉄釘1点を図示した。9・10は瀬戸美濃焼の丸皿である。9は石垣1の直上で出土した。体部が丸みを持たずに立ち上がり、口縁部は直線的に開く。全体的に偏平な器形であり、器壁は厚めである。大窯第3～4段階のものと考えられる。10は体部が丸みを持たずに立ち上がり、口縁部は直線的に開く。灰白色の灰釉が施され、焼成不良のものと考えられる。器形から大窯第3段階のものと考えられる。

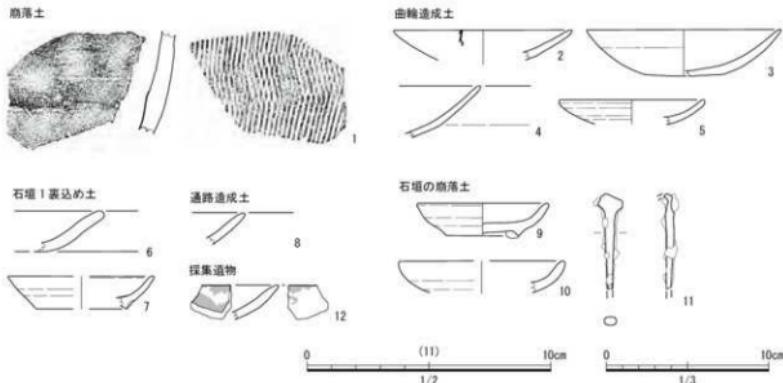
11は鉄釘である。先端部が欠損する。

採集遺物 土師器皿3点を採集し、1点を図示した。

12は土師器皿である。内外面にナデを施し、4類に属する。内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

(6) 特記事項

今回の調査では、2面の遺構面を確認した。下層にあたる第2面遺構面を構築する土層から、土師器皿4類、5類が出土する。第1遺構面を構築する土層からも大窯第2段階の丸皿7が出土するが、土師器皿6類が出土し、また石垣1直上より大窯第3～4段階の丸皿9が出土する。このため、第1面と第2面には時期差があると考えられる。



第97図 古川城跡 1~7号トレンチ出土遺物図

第46表 古川城跡1~7号トレンチ出土遺物一覧表

遺構番号	土層	土師器皿							瀬戸美濃				珠洲			白磁		染付		金属	その他	合計
		3類	4類	5類	6類	7類	その他	丸皿	壺反皿	天目茶碗	すり鉢	不明	要	硝	碗	皿	硝	金				
第2曲輪造成土	-	1	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7		
石垣1裏込め土	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2		
第2通路造成土	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2		
近世以前 崩落土	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4		
採集遺物	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3		
合計		4	2	2	1	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	18	
																	1					

第47表 古川城跡1~7号トレンチ出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレンチ	種類	器種	法量 (cm. 括弧内は推定)			色調			成形・文様等			接觸番号	固有番号	
					口径	底径	高さ	内面	外面	断面	外面平行タキナ 内面ナ ギオサナ	97	36			
1	崩落土	1	陶器焼	甕	-	-	-	10Y5/1灰白色	5Y4/1灰白色	7.5YR4/2灰褐色	外面平行タキナ 内面ナ ギオサナ	97	36			
2	曲輪造成土	7	土師器	瓶	(10.0)	-	1.8	2.5YR8/3淡黄色	2.5YR8/3淡黄色	2.5YR8/3淡黄色	内面凹模ナギ 外面凹模ナギ	97	-			
3	曲輪造成土	4	土師器	瓶	(12.0)	(5.0)	2.9	10YR7/3(2点)黄 褐色	10YR7/3(2点)黄 褐色	10YR7/3(2点)黄 褐色	外面凹模ナギ 下部丸 調整 内面ナギ ところ どころに擦痕 5個	97	36			
4	曲輪造成土	5	土師器	瓶	-	-	3.2	10YR7/3(2点)黄 褐色	10YR7/4(2点)黄 褐色	10YR4/1褐色灰 色	外表面凹模ナギ 体部 下部調整 内面模ナギ 5個	97	36			
5	曲輪造成土	5	白磁	瓶	(9.0)	-	1.5	10YR1/1灰白色	10YR1/1灰白色	2.5YR8/2灰白色	内各面凹模ナギ 施釉 D型	97	36			
6	石垣1裏込め土	2	土師器	瓶	-	-	2.5	7.5YR7/4(2点)黄 褐色	7.5YR7/6褐色	7.5YR7/6褐色	内各面凹模ナギ 内面斜 め方	97	-			
7	石垣3裏込め土	7	瀬戸美濃	丸皿	(8.9)	4.5	2.0	2.5YR8/2灰白色	2.5YR7/2灰白色	7.5YR7/4(2点)黄 褐色	内各面凹模ナギ 灰褐色 大型2	97	36			
8	通路造成土	3	土師器	瓶	-	-	1.7	7.5YR8/4浅黄色	7.5YR8/4浅黄色	7.5YR8/4浅黄色	外表面調整 内面ナギ 6個	97	-			
9	崩落土	6	瀬戸美濃	丸皿	8.1	4.5	2.0	5Y7/3浅黄色	5Y7/3浅黄色	10YR6/2灰褐色	内各面凹模ナギ 施釉 底部付土村青 大黒コメ	97	36			
10	崩落土	2	瀬戸美濃	丸皿	(10.2)	-	2.0	2.5YR8/2灰白色	2.5YR8/2灰白色	10YR8/3浅黄色	外表面凹模ナギ 从釉 灰褐色 大黒3	97	36			
11	崩落土	6	金鏡	針	(3.9)	1.2	0.3	-	-	-	-	-	97	36		
12	採集遺物	-	土師器	瓶	-	-	2.1	10YR8/3浅黄色	10YR7/3(2点)黄 褐色	10YR7/3(2点)黄 褐色	内各面保付着 外面ナギ 内面凹模ナギ	97	-			

3 最高所の平坦地及び最も広い平坦地の調査

(1) 調査の概要（第50表）

2018年度、2020年度と2次にわたり、古川城跡で最高所となる平坦地と、その東側の1mほど下がる斜面、最も広い平坦地の一部を対象に調査を実施した。ここでは、最高所の平坦地を平坦地1、最も広い平坦地を平坦地2として記述する。

2018年度には平坦地1の北半分及び平坦地2との間の斜面を調査対象とし、8～10号トレンチを設定した。礎石建物の存在を確認したが、その規模、造成土層の堆積と出土遺物による年代観についての知見を得ることができなかつた。このため、2020年度は平坦地1全面及び平坦地2の西辺、その間の斜面を調査対象にして11～15号トレンチを追加設定し、補足調査を実施した。

平坦地1の調査では、上層より腐葉土・崩落土・造成土A・造成土B・造成土C・斜面の造成土・地山の順で堆積することを確認した。2018年に確認した最も残りの良い礎石建物1は、5間×3間の規模であり、造成土Bを基礎とすることを確認した。また、その礎石建物1は造成土Aで覆われて新たな礎石建物が築かれたことを確認した。2020年度の調査で新たに掘削した平坦地の南半分では、平面的な掘削を造成土A上面までとした。礎石を確認したものの、全体形状は知りえなかつた。調査区南東部では、造成土Aでコの字状に据えられた石列を確認した。

平坦地2の調査では、上層より腐葉土・崩落土・曲輪造成土・地山の順で堆積することを確認した。平坦地1と2の間の斜面は、造成土A・造成土B・地山を同時に削って作出されているため、平坦地1の造成土Aと平坦地2の曲輪造成土が同時期と考えられた。平坦地2では、曲輪造成土を基礎とする礎石建物2を確認した。

(2) 基本層序（第98図）

腐葉土 平坦地1、平坦地2、その間の斜面を覆う腐葉土である。現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地1及び平坦地2周囲の斜面側に堆積する崩落土である。

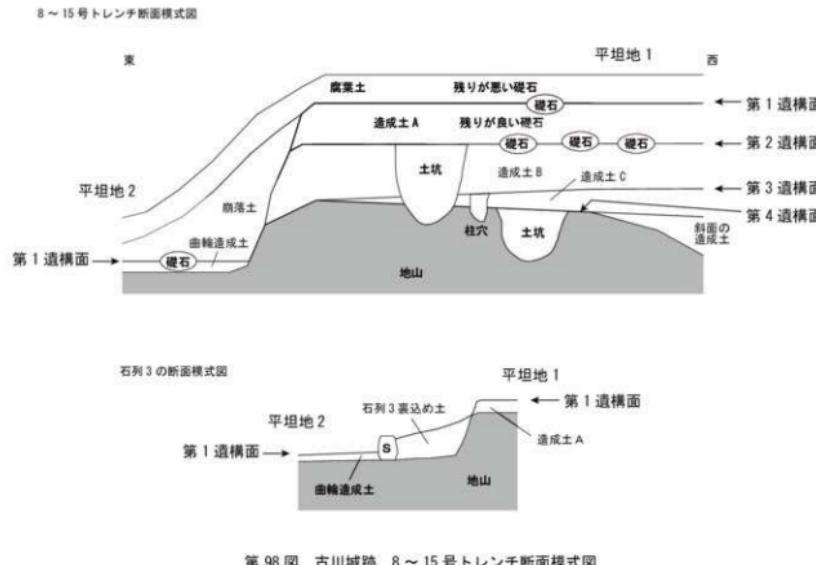
曲輪造成土 平坦地2の調査区で全面に確認される明黄褐色粗粒砂である。平坦地1と平坦地2の間の斜面直下から堆積する。この斜面は造成土A・造成土B・地山を削って作出されているため、曲輪造成土は造成土Aと同時期のものと考えられる。このため、当層の上面も第1遺構面として調査を行つた。

石列3裏込め土 調査範囲の南東側、平坦地2の南西に位置する石列3を据える土層である。平坦地1の造成土Aとは切り合いが認められない。石列3の前面には曲輪造成土が施されるため、当面の上層も第1遺構面として調査を行つた。

造成土A 平坦地1全面を覆う褐色の細粒砂である。据えられた礎石が分布する。残りが悪いものの、礎石建物の基礎となった土層と考えられる。当層の上面を第1遺構面として調査を行つた。

造成土B 平坦地全面のトレンチ断面で確認できる、にぶい黄褐色の細粒砂である。残りが良い礎石建物を確認でき、その基礎となった土層と考えられる。また、土坑1基が掘り込まれるのを断面B-B'で確認できる。当層の上面を第2遺構面として調査を行つた。

造成土C 平坦地西側を中心に厚く堆積する、暗褐色を基本とするしまりがよい砂粒砂である。断面A-A'では、橙色と黒褐色の土層が互層となるところがある。また、この上面から柱穴が掘り込まれるのを断面A-A'で確認できる。当層の上面を第3遺構面として調査を行つた。



第98図 古川城跡 8～15号トレンチ断面模式図

斜面の造成土 山の斜面に対して、平坦地を造るために盛土を施した土層である。しまりはふつうである。当層の上面から掘り込む遺構は無い。造成土Cで平坦地を造成する前に自然傾斜地に盛土した土層と想定され、造成土Cと同時期と考えられる。

地山 この山の一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫である。上面から掘り込む土坑を断面A-A'で確認した。当層の上面を第4遺構面として調査を行った。

以下、確認した遺構と遺物について、歴史的な流れに沿って、下層から順に古い時代の調査成果から報告する。

(3) 遺構

①第4遺構面の遺構（第99・100図）

第4遺構面は地山上面である。土坑4を断面A-A'（14層）において確認した。伴う遺物は確認しなかつたが、当調査において須恵器No.26や灰釉陶器（未掲載）が出土しているため、中世以前に属する可能性がある。

②第3遺構面の遺構（第99・100図）

第3遺構面は、造成土C上面である。遺構は、柱穴7を断面A-A'（9層）において確認した。

③第2遺構面の遺構（第99～101図、第48表）

第2遺構面は、造成土B上面である。遺構は、河原円礎の礎石11～37、礎石抜き取り穴10で構成

される礎石建物1を平面的に検出し、土坑5を断面A-A'（6層）、土坑9を断面B-B'（9層）、柱穴6を断面A-A'（7層）で確認した。また、礎石13に南接する礎石56、礎石19に南接する礎石57は山石である。並びに不明であるが、造成土Bを基礎としており、礎石になる可能性が想定される。

礎石建物1（第102～104図）平坦地1の北半分に位置する。桁行5間（9.30m）、梁行3間（5.58m）の東西棟の建物である。造成土Bを基礎とする。桁行柱間は1.86m等間であるが、北辺・南辺・西辺及び南西側の2間×1間の範囲は、その半分の間隔で礎石が並ぶ。東辺は礎石38・39が遺存するが、下層に造成土Aが認められ、現位置を留めていないと判断された。また、南西隅の礎石32も斜面側に動いていると判断された。主軸はN-0°-Wを測る。礎石に根石は伴わない。

④第1遺構面の遺構（第99～101図、第48表）

第1遺構面は、平坦地1の造成土A上面及び平坦地2の曲輪造成土上面である。河原円礫の40・46・47・48は造成土Aを基礎として上面を水平に据えられたため礎石と考えられたが、建物としての全体形状は知りえない。平坦地1の南東部で確認された石列3は造成土Aにて据えられる。造成土A上面から掘り込む遺構は確認しなかった。平坦地北辺中央より外側の切岸に、偏平な河原円礫の集石が認められる。断面B-B'では造成土Aより上層の崩落土に含まれる。このため、造成土Aを基礎とした礎石建物の礎石であった可能性が想定される。

平坦地2においても、曲輪造成土を基礎として河原円礫の41～45・49～54が据えられたため礎石と考えられた。礎石41・42・49～51は、平坦地2の西端に据えられているため、平坦地1と密接に関係する建物の礎石と想定される。

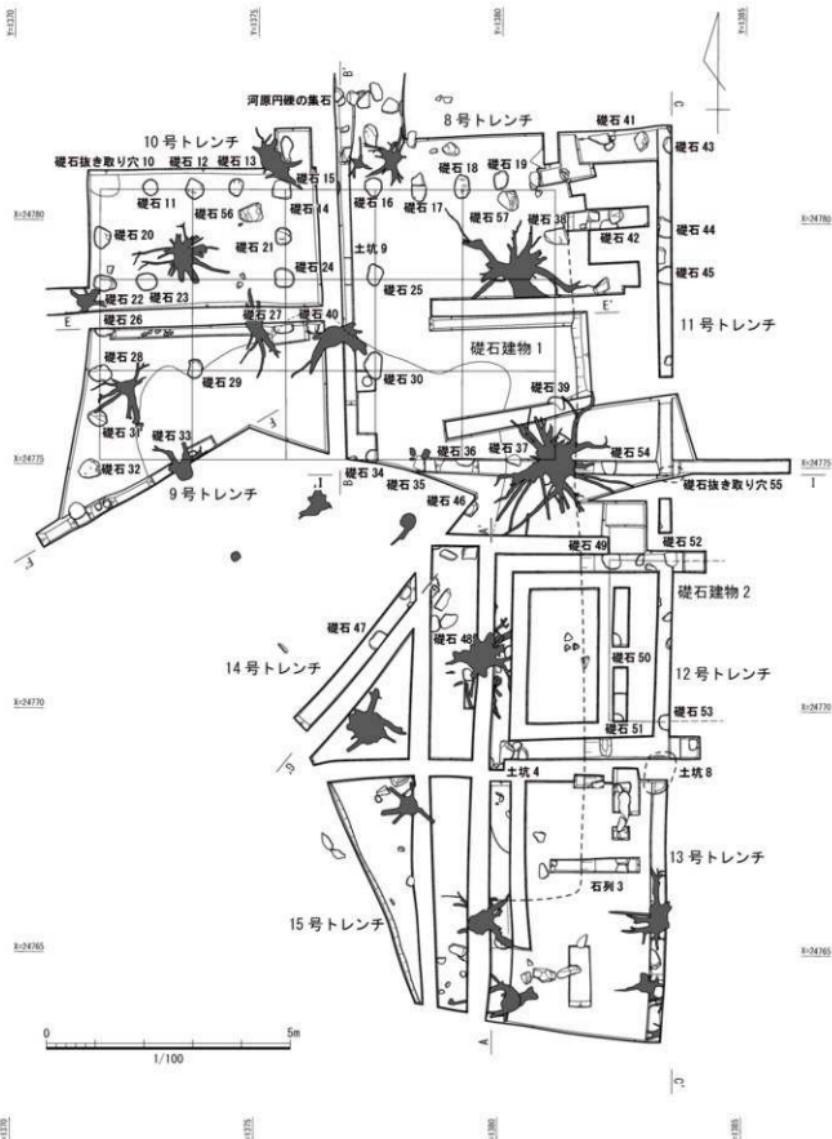
断面C-C'では、礎石44・45は掘り込まれて2層・3層で埋められ、礎石52・53は曲輪造成土5層で据えられ、礎石43は曲輪造成土7層で据えられている。時期差か建物の性格による違いなのかは判断できなかった。ここでは、曲輪造成土を基礎とし、柱間隔が一定である礎石49～53を、礎石建物2として報告する。

礎石建物2（第106図）平坦地2に位置する。トレンチにて礎石49～53を確認したものの、全体形状を知りえない。造成土Aと同時期と考えられる曲輪造成土を基礎とする。柱間は1.65m等間である。主軸はN-0°-Wを測る。礎石に根石は伴わない。

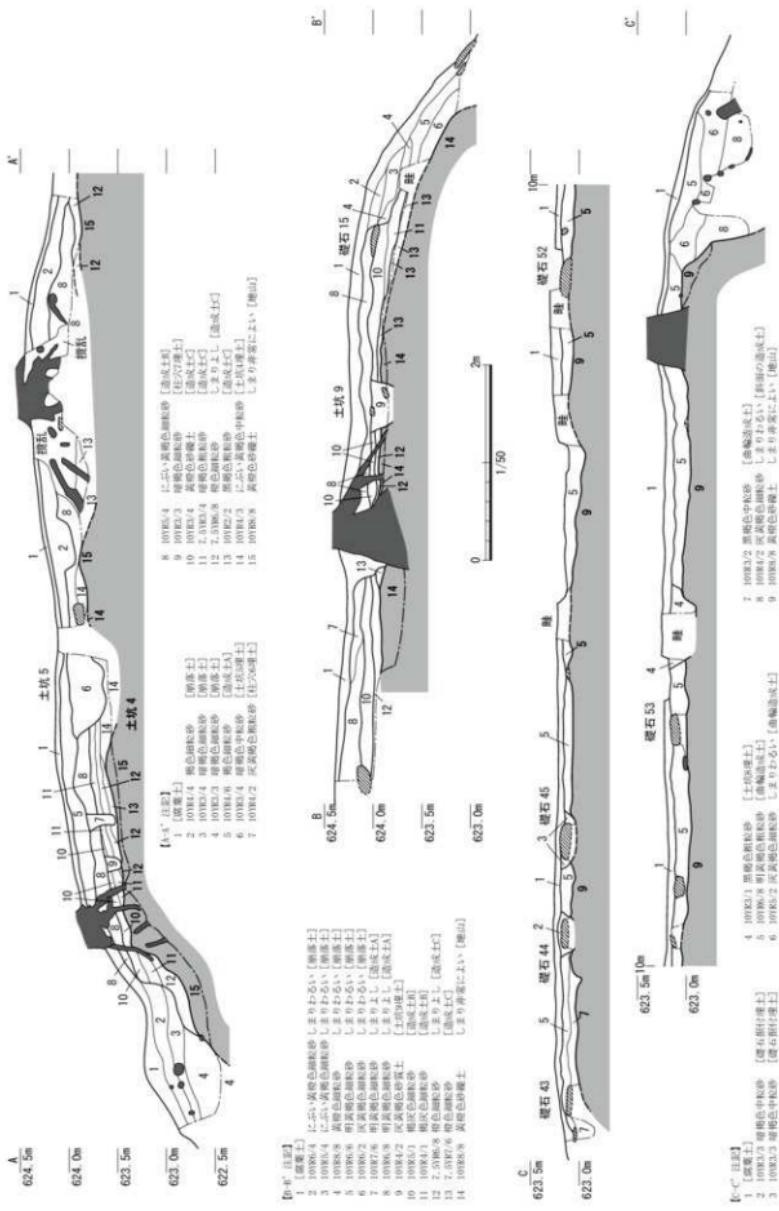
石列3（第105図）平坦地2の南西部に位置する。平坦地1と平坦地2の間の斜面直下から裏込め土を施し、50cm大の横長の礫が据えられる。裏込め土は平坦地1へ向かって高くなるように盛土されている。N-N'断面・M-M'断面では、石材の前面に平坦地2の曲輪造成土が施される。S-S'立面では北側に、0-0'立面では東側に直線的に面を持つように据えられ、隅部も直角である。また、0-0'立面では高さを揃えて据えられる。素材は河原石である。対して、R-R'立面では凹凸が認められ、高さが揃っていない。また、平面では弧状となる。素材は山石である。このような相違点があるため別遺構の可能性を想定したが、Q-Q'断面の5・6層とN-N'断面の4・5層の違いを認識できなかつたため、ここでは同一遺構として報告する。

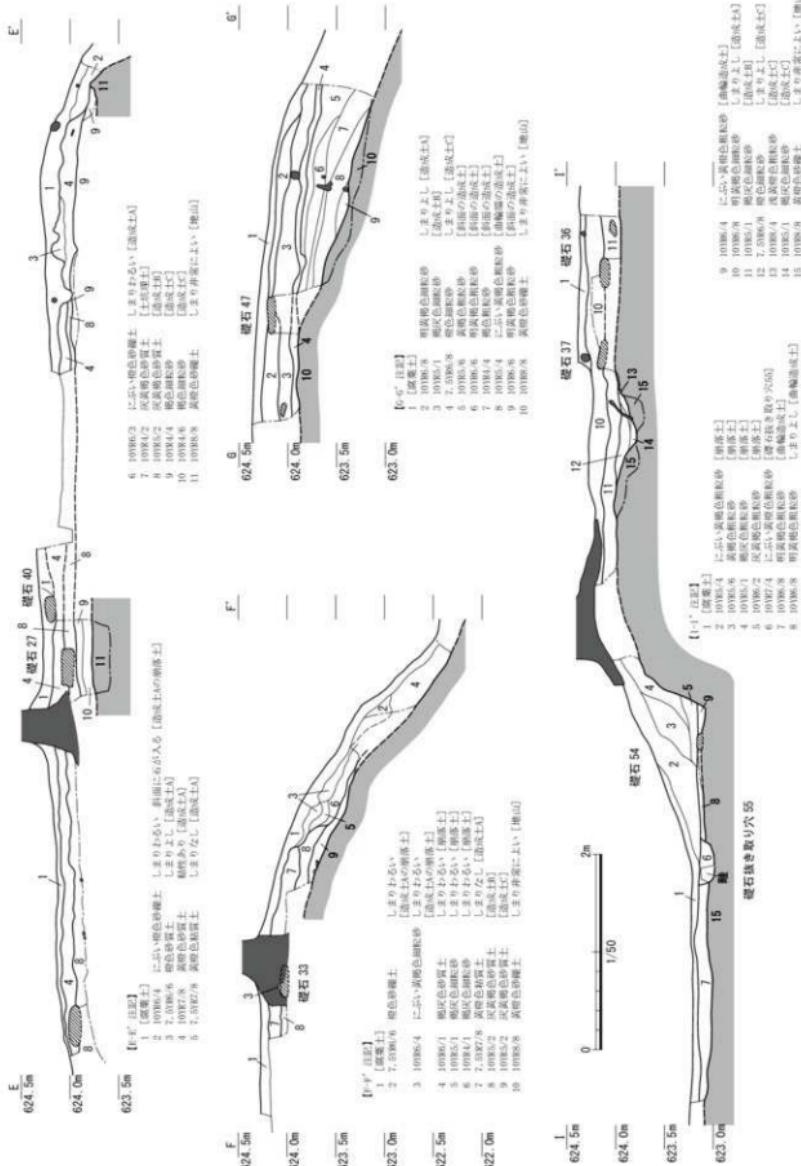
第48表 古川城跡8～15号トレンチ建物計測表

遺構名	遺構面	桁行柱間	桁行(m)	梁行柱間	梁行(m)	主軸	備考
礎石建物1	第2	5	9.30	3	5.58	N-0°-W	根石が伴わない
礎石建物2	第1	-	-	-	-	N-0°-W	根石が伴わない

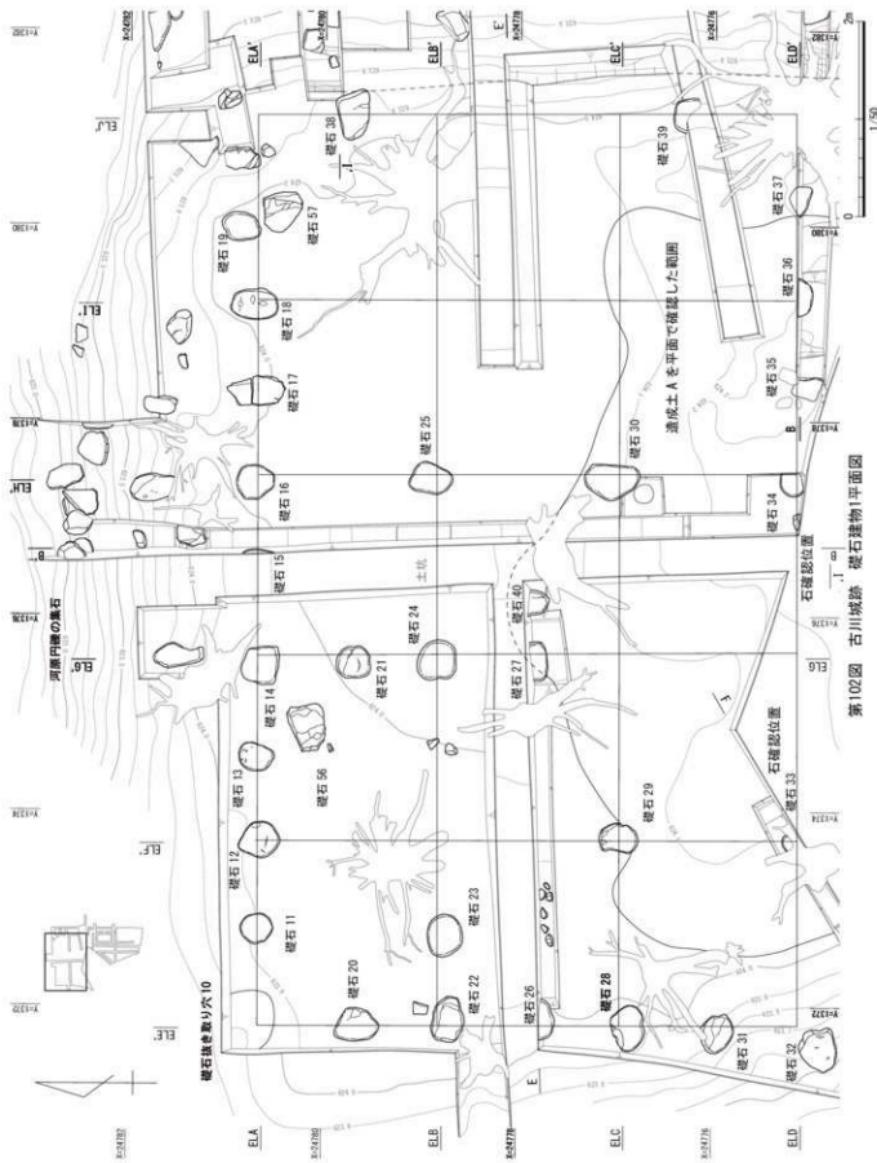


第99図 古川城跡 8～15号トレンチ平面図

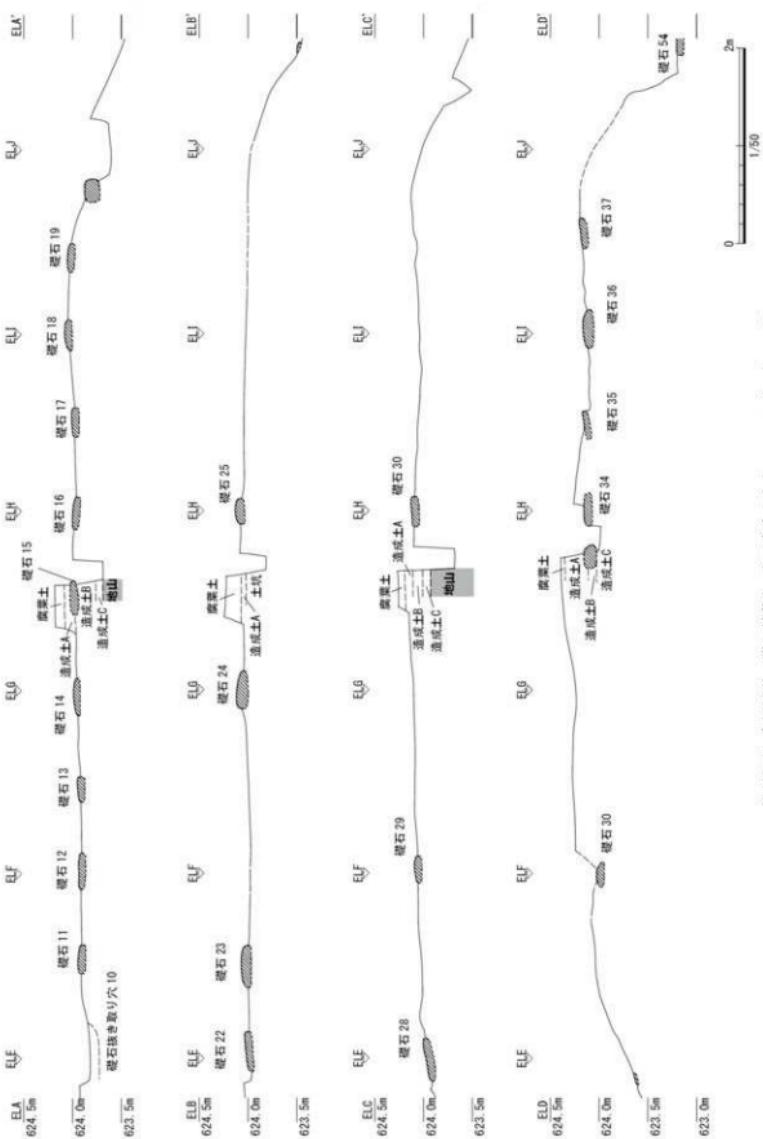


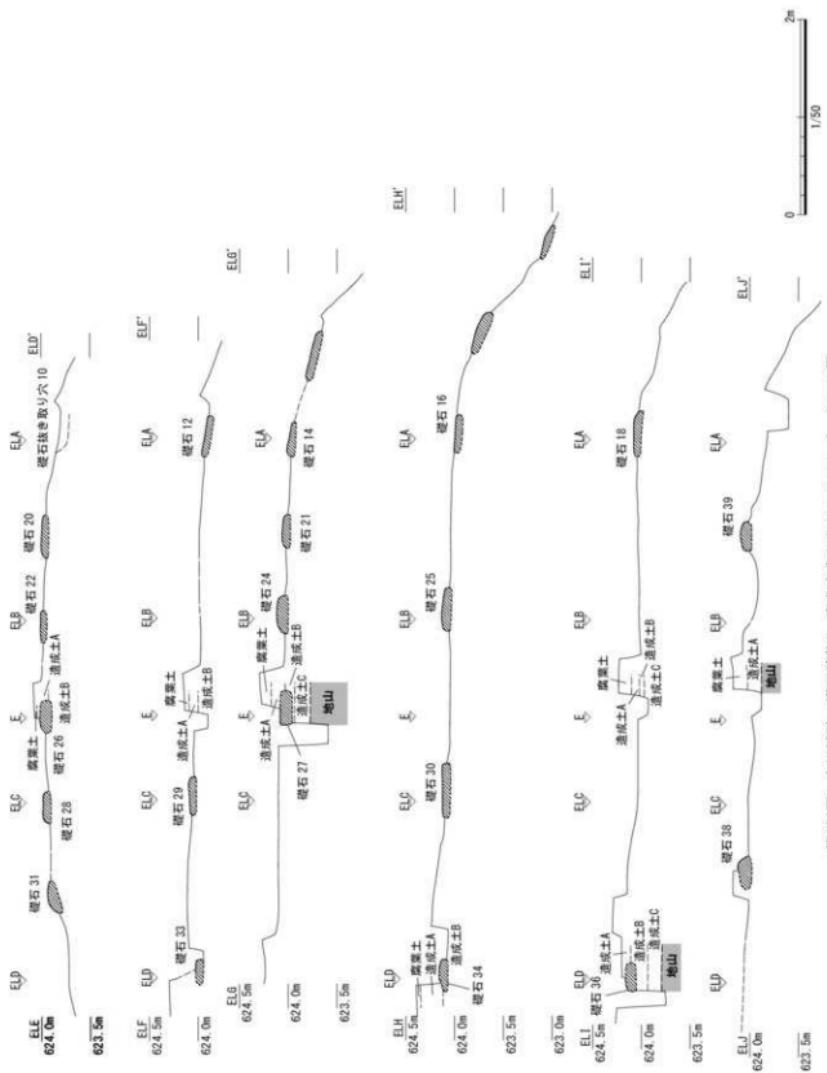


第101図 古川城跡 東西方向セクション断面図

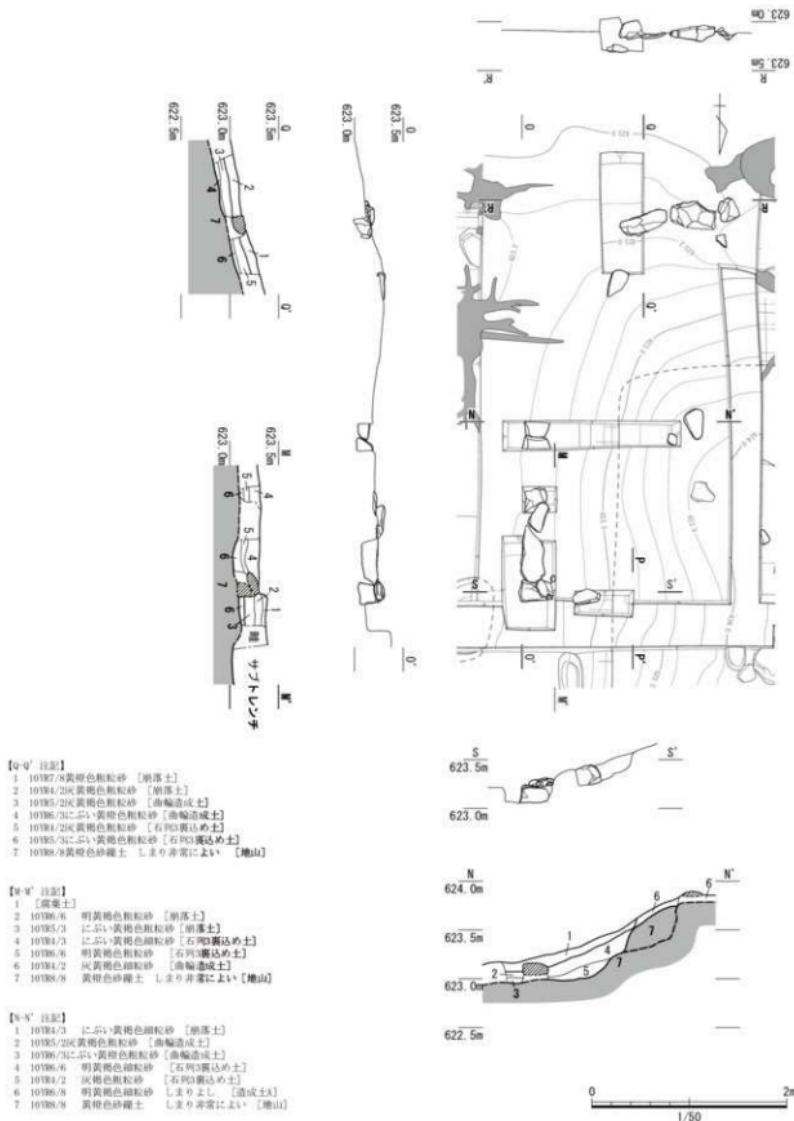


第102図 古川城跡 石垣遺物1平面図

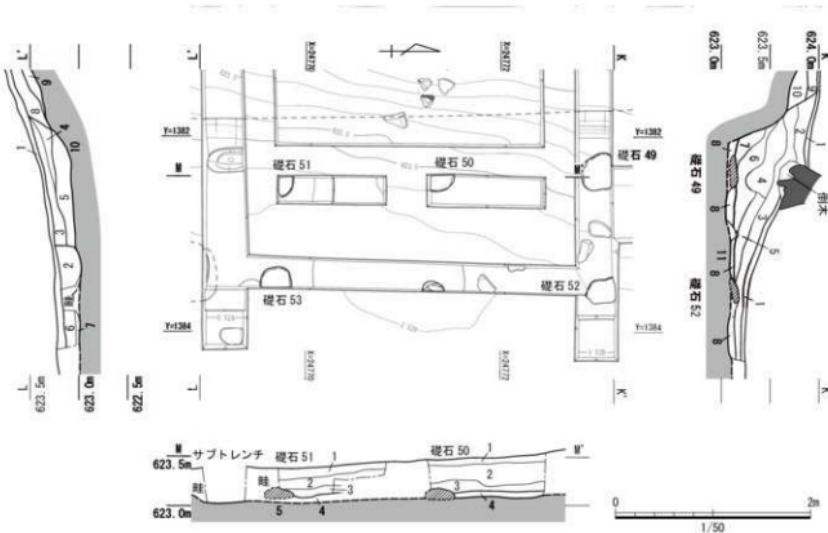




第104図 古川城跡 碓石建物1 南北方向セクションエレベーション図



第105図 古川城跡 石列3造構図



[L-L' 注記]	[M-M' 注記]	[K-K' 注記]
1 [底盤土]	1 [底盤土]	1 [底盤土]
2 107R6/6 黄褐色粗粒砂 [土壌砂礫土]	2 107R6/6 明黄褐色粗粒砂 [礎底土]	2 107R6/6 にじむ黄褐色粗粒砂 [礎底土]
3 107R4/2 にじむ黄褐色細粒砂 [崩落土]	3 107R5/6 黄褐色粗粒砂 [崩落土]	3 107R7/4 にじむ黄褐色粗粒砂 しまりわらい [崩落土]
4 107R6/6 明黄褐色細粒砂 [崩落土]	4 107R6/6 明黄褐色粗粒砂 [崩落土]	4 107R6/6 明黄褐色粗粒砂 [崩落土]
5 107R4/2 深黄褐色細粒砂 [曲輪造成土]	5 107R5/6 黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]	5 107R7/3 にじむ黄褐色粗粒砂 [崩落土]
6 107R6/8 明黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]	6 107R6/8 黄褐色粗粒砂 [崩落土]	6 107R5/6 黄褐色粗粒砂 [崩落土]
7 107R4/2 暗灰褐色細粒砂 [曲輪造成土]	7 107R4/3 にじむ黄褐色粗粒砂 しまりよし [崩落土]	7 107R4/3 にじむ黄褐色粗粒砂 しまりよし [崩落土]
8 107R4/2 暗黄褐色細粒砂 [造成土]	8 107R6/8 明黄褐色粗粒砂 [曲輪造成土]	8 107R6/8 明黄褐色粗粒砂 [造成土]
9 107R5/6 黄褐色細粒砂 [造成土]	9 107R6/6 黄褐色粗粒砂 しまりよし [地山]	9 107R6/6 明黄褐色細粒砂 しまりよし [造成土]
10 107R8/8 黄褐色砂礫土 しまり非常によい [地山]	10 107R5/1 地灰色細粒砂 [造成土]	10 107R5/1 地灰色細粒砂 [造成土]
	11 107R8/8 黄褐色砂礫土 しまり非常によい [地山]	11 107R8/8 黄褐色砂礫土 しまり非常によい [地山]

第106図 古川城跡 硙石建物2構造図

(4) 遺物 (第107図、第49・51表)

斜面の造成土 土師器皿が2点出土し、1点図示した。13は土師器皿である。内外面にナデを施し、4類に属する。内面に煤・タールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

造成土C 灰釉陶器1点、土師器皿17点、鉄釘1点が出土し、土師器11点、鉄釘1点を図示した。

14～24は土師器皿である。14は内面に一定方向ナデを施し、外面にナデを施すものの指頭圧痕が残る。3類に属する。15は内外面に一定方向ナデ、外面にナデを施す。16～24は内外面にナデを施す。

15～24は4類に属する。25は鉄釘である。先端部が欠損する。

造成土B 須恵器が1点、土師器皿が6点、瀬戸戸美濃焼が2点出土し、須恵器1点、土師器2点、瀬戸美濃焼1点を図示した。26は須恵器杯口蓋である。内外面に回転ナデを施す。27・28は土師器皿である。27は内面にヨコナデ、外面にナデを施し、内外面に指頭圧痕が残る。3類に属する。28は内外面にナデを施し、4類に属する。29は瀬戸戸美濃焼の丸皿である。内面見込みに花文を施す。内外面に浅黄色の灰釉を施す。付高台が低く小さいため、大窓第2段階のものと考えられる。

造成土A 土師器皿が4点、白磁が2点、中国製染付磁器が1点、鉄釘が1点出土し、土師器3点、白磁2点、中国製染付磁器1点、鉄釘1点を図示した。

30は外外面にナデを施す。内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。4類に属する。31・32は内面と外面白縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。外面上に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

33・34は白磁碗である。33は口縁部が外反し、端部を丸く仕上げる。白磁E類と考えられる。34は口縁部内面が僅かに凹み、若干外反して端部は立ち上がる。陶胎であり、白磁D類に属する。

35は中国製染付碗である。口縁部外面上に界線を巡らせ、その間に施文する。染付碗E群に属する。

36は鉄釘である。全形状が確認できる。

曲輪造成土 土師器皿が3点、金属製品が2点出土し、金属製品2点を図示した。

37は金槌である。柄の部分は楕部周辺のみ木質部が残る。

38は鉄釘である。頭部と基部が欠損する。

崩落土 土師器皿が4点、瀬戸美濃焼が1点出土し、土師器皿3点を図示した。

39～41は土師器皿である。39・40は外面上にナデを施し、4類に属する。41は内面上にナデを施し、外面未調整であり、6類に属する。

腐葉土直下 土師器皿が11点、瀬戸美濃焼3点、白磁1点、金属製品1点が出土し、土師器2点、瀬戸美濃焼1点を図示した。

42～43は土師器皿である。42は内面上に一定方向ナデ、外面にヨコナデを施し、4類に属する。43は内外面上にヨコナデを施し、4類に属する。

44は瀬戸美濃焼の天目茶碗である。体部が直線的に開き、口縁部が短く直立し、端部が若干くびれて外反する。器壁が厚い。器形から大窯第4段階のものと考えられる。

採集遺物 須恵器3点、土師器皿4点、瀬戸美濃焼1点、陶器1点、白磁1点、金属製品1点を確認し、土師器皿3点、瀬戸美濃焼1点、白磁1点、金属製品1点を図示した。

45～47は土師器皿である。45・46は外面上にナデを施し、4類に属する。47は内面と外面白縁部にナデを施し、外面体部下半部は未調整であり、5類に属する。

48は瀬戸美濃焼の端反皿である。体部がやや丸みを持って強く立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する。大窯第3段階のものと考えられる。

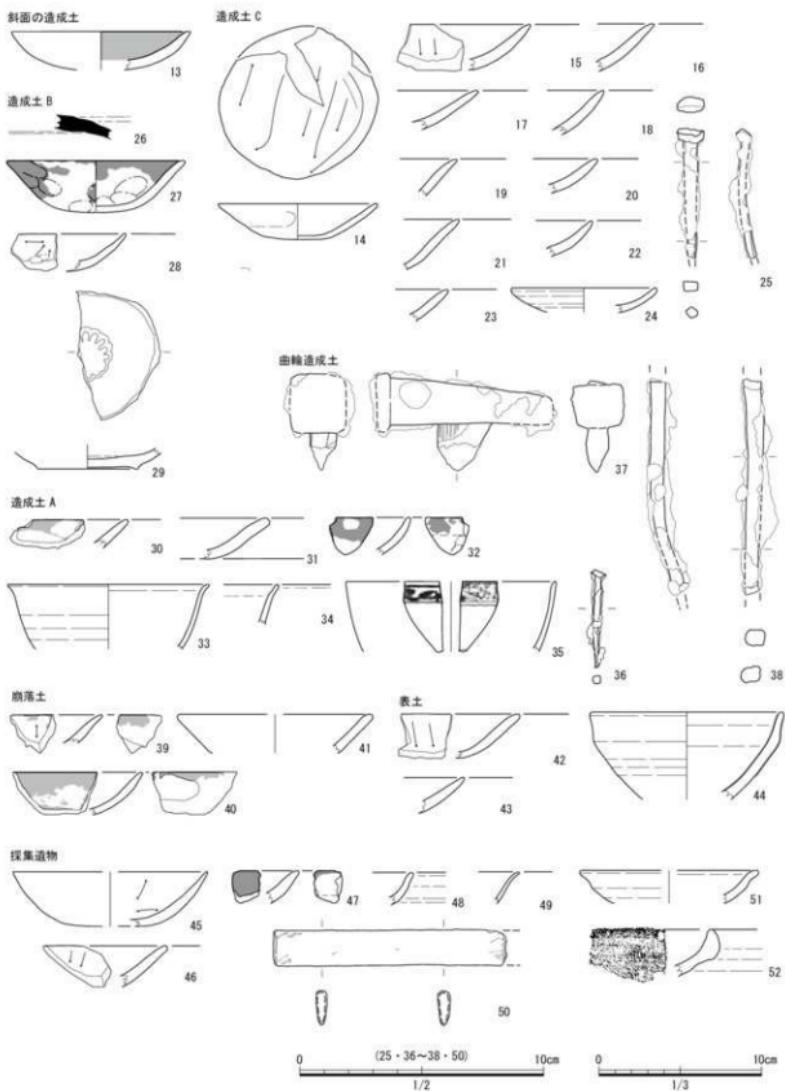
49は白磁碗である。口縁部が外反し、白磁E類のものと考えられる。

50は銅製品の小刀の柄である。緑青が全体を均一に覆うため、素銅もしくは赤銅製と考えられる。表裏面に金箔が若干残る。柄の中央付近に若干の凹みを観察でき、象嵌が施されていた痕跡の可能性がある。

調査区外での登山道で採集 瀬戸美濃焼を2点採集した。51は端反皿である。体部がやや丸みを持って立ち上がり、口縁部が緩やかに外反する。大窯第1段階のものと考えられる。52はすり鉢の口縁部破片である。断面が三角形状を呈し、幅が広い。端部が上方に延びる。大窯第2段階のものと考えられる。

(5) 特記事項

山城として平坦地を造成するのは造成土Cより上層の土層である。それぞれの上面から掘り込む遺



第107図 古川城跡 8～15号トレンチ出土遺物図

第49表 古川城跡8～15号トレンチ出土遺物一覧表

造構面	土層	須恵器 灰釉陶器	土師器皿							瀬戸美濃				珠洲		青磁		白磁		染付		金屬 鏡	その他	合計
			杯	碗	3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	焼反皿	天目	すり鉢	不明	要	碗	碗	盤	皿	碗			
第3 斜面の造成土	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2		
	造成土 C	-	1	2	12	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19		
第2 造成土 B	1	-	1	1	-	-	-	4	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9		
第1 造成土 A	-	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	8		
	曲輪造成土	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5		
近世以降	崩落土	-	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5		
	廐業土直下	-	-	-	2	-	-	-	9	-	-	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	16		
	採集遺物	3	-	-	2	1	-	-	1	-	2	-	1	-	-	1	-	-	1	1	1	13		
合計		4	1	3	21	3	1	0	23	1	2	1	1	4	0	0	4	0	1	6	1	77		
					51					9							4							

構がある。造成土Bでは5間×3間の礎石建物1を確認した。造成土Aでも礎石建物があつと想定でき、また平坦地2では礎石建物2・石列3を確認した。石列3の北東部では、隅部が直角であり、平坦地1に向かって裏込め土が高くなる。このため、平坦地2から平坦地1へ上がる階段のような施設の基底部であった可能性が想定される。

各造成土の出土遺物を見てみる。造成土C・斜面の造成土からは土師器皿3類2点と4類13点、造成土Bからは土師器皿3類1点・4類1点・大窯第2段階の丸皿1点、造成土A・曲輪造成土からは土師器皿4類1点・5類2点と白磁D・E類、染付碗E類が出土する。このように土師器皿の分類ごとの出土傾向に移り変わりが認められる。

各造成土の上層から遺構が掘り込まれ、その土層から出土する土師器皿に移り変わりが認められることから、各造成土には時期差があると考えられる。

4 古川城跡の遺構分布と時期変遷

ここでは、1～7号トレンチの調査遺構面である平坦地3・平坦地4・その間の斜面・通路5と、8～12号トレンチの調査遺構面である平坦地1・2の遺構分布と時期を出土遺物から考える。

古川城1期 平坦地1で地山上面から遺構を掘り込む第4遺構面の時期である。8～12号トレンチでは、地山面は平坦地1の端部で急激に落ち込む、全トレンチで確認できる。遺構は、平坦地1で土坑4を確認した。遺構に伴う遺物の出土が無かったものの、調査では須恵器や灰釉陶器の出土が認められるため、古代に属する可能性がある。

古川城2期 平坦地1の造成土Cから遺構を掘り込む第3遺構面の時期である。8～12トレンチでは、トレンチ端で斜面となる地山の上層に斜面の造成土を盛土し、その上層に造成土Cを施す。平坦地1の全面で確認できる。上面から掘り込む柱穴7を確認した。造成土Cの出土遺物は、土師器皿4類が主体をなし、3類が混入する時期である。後の3期では、大窯第2段階の丸皿29が出土しているため、それより前の古瀬戸後IV期（新）～大窯第1段階が機能時期と考えられる。なお、採集遺物では大窯第1段階の端反皿51を確認している。

古川城3期 平坦地3・通路5に設定した2～7号トレンチの第2遺構面、平坦地1・2に設定した8～12トレンチの造成土Bで構築される第2遺構面の時期である。

2～7号トレンチでは、平坦地3の曲輪造成土、石垣2、通路5の通路造成土の上面となる。平坦地3を構築した曲輪造成土から4・5類の土師器皿2～4が出土した。平坦地3の土留め石垣として地山を水平に掘削し、裏込め土を施す石垣2を設ける。また、通路造成土にも土留めの機能を有する土留め石垣があるが、裏込めを持たない。この通路造成土の土留め石垣を据える通路造成土は、石垣1・石垣2と直接的に層序関係がない。土留め石垣を観察すると、地山と造成土が接するところに礫を集中させて切岸上部まで礫を積み上げない点、石材の大きさが不揃いな点など、土留めの在り方が石垣2と近似する。このため、ここでは土留め石垣も3期の遺構と考える。このことから、平坦地4から平坦地3に通じる虎口の通路5は、3期に築かれたものと想定される。

8～12トレンチでは、3・4類の土師器皿27・28と大窯第2段階の丸皿29が出土する造成土Bが同時期になるものと考えられた。造成土Bは、トレンチで平坦地1全面を覆うことを確認した。造成土Bを基礎として5間×3間の礎石建物1が造られる。

以上より、平坦地4から平坦地3へ通じる虎口の通路5が造られ、平坦地1に礎石建物が造られるなど、山城の全体的な遺構は3期に配置されたものと考えられる。なお、1号トレンチの石垣4については、地山近くに造られているため、その下層に石組みが存在するスペースはない。このため、3期の遺構となる可能性が想定される。しかし、その前面の礫を除去しきれなかったため、石材の大きさ、裏込めの有無、積み方を確認できていない。このため、4期に属する可能性もある。

時期は、造成土Bより大窯第2段階の丸皿29が出土するため、それ以降の大窯第2～3段階が機能時期と考えられる。

古川城4期 平坦地3・4に設定した2～7号トレンチの第1遺構面、8～12号トレンチでは平坦地1の造成土A及び平坦地2の曲輪造成土で構築される第1遺構面の時期である。

平坦地3・4の間の通路斜面では、2～7号トレンチで桥形となる石垣1が構築され、通路には路面造成土が施される。石垣1直上で大窯第3段階の丸皿9が出土する。

平坦地1では、礎石40・46～48が残存する。平坦地2においても礎石が据えられるため、平坦地1・2には礎石建物が建てられていたと考えられる。石列3は、平坦地2から平坦地1へ登る施設であつた可能性がある。平坦地1では腐葉土直下の検出面で大窯第4段階の天目茶碗44が出土した。

時期は、出土遺物より大窯第3～4段階が機能時期と考えられる。これ以降は、使用的痕跡が認められない。

なお、先述したとおり1号トレンチの石垣4は、この4期に属する可能性がある。その場合、2～7号トレンチの石垣1に連続するものと想定される。



写真5 古川城跡 石垣1検出作業の様子



写真6 古川城跡 磂石建物1検出作業の様子

第50表 古川城跡8~15号トレンチ土坑・柱穴・礎石等一覧表

遺跡記号	地区名	遺構種別	査定面	遺構状況	断面形状	底面形状	法量(m)		埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
							上端					
							長径	短径				
AFR20	平坦地	土坑	4	地山	-	-	稚円	1.16	-	にぶい黄褐色中粒砂 10RE3/1 断面A-A' 14層		
AFR20	平坦地	土坑	5	造成土B	單	逆台	-	(0.87)	0.36	暗褐色中粒砂 10RE3/4 断面A-A' 6層		
AFR20	平坦地	柱穴	6	造成土B	單	様跡	-	0.18	0.16	灰褐色粗粒砂 10RE4/2 断面A-A' 7層		
AFR20	平坦地	柱穴	7	造成土C	單	様跡	-	0.20	0.29	暗褐色細粒砂 10RE3/3 断面A-A' 9層		
AFR20	平坦地	土坑	8	曲輪造成土	單	平行	稚円	0.95	(0.26)	黒褐色粗粒砂 10RE3/1 断面B-B' 4層		
AFR20	平坦地	土坑	9	造成土B	-	-	-	0.54	-	灰褐色砂質土 10RE4/2 断面B-B' 9層		
AFR20	平坦地	抜取穴	10	造成土B	-	-	-	-	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	11	造成土B	-	-	-	0.34	0.30	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	12	造成土B	-	-	-	0.44	0.38	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	13	造成土B	-	-	-	0.38	0.26	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	14	造成土B	-	-	-	0.38	0.28	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	15	造成土B	-	-	-	0.34	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	16	造成土B	-	-	-	0.41	0.37	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	17	造成土B	-	-	-	0.60	0.30	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	18	造成土B	-	-	-	0.52	0.30	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	19	造成土B	-	-	-	0.43	0.32	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	20	造成土B	-	-	-	0.43	0.33	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	21	造成土B	-	-	-	0.36	0.32	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	22	造成土B	-	-	-	0.47	0.34	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	23	造成土B	-	-	-	0.43	0.35	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	24	造成土B	-	-	-	0.42	0.39	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	25	造成土B	-	-	-	0.45	0.32	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	26	造成土B	-	-	-	0.42	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	27	造成土B	-	-	-	0.40	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	28	造成土B	-	-	-	0.45	0.33	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	29	造成土B	-	-	-	0.49	0.30	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	30	造成土B	-	-	-	0.56	0.35	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	31	造成土B	-	-	-	0.41	0.33	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	32	造成土B	-	-	-	0.46	0.39	謹石壁物1を構成/原位置を保たない		
AFR20	平坦地	礎石	33	造成土B	-	-	-	0.180	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	34	造成土B	-	-	-	0.247	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	35	造成土B	-	-	-	0.280	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	36	造成土B	-	-	-	0.39	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	37	造成土B	-	-	-	0.30	-	謹石壁物1を構成		
AFR20	平坦地	礎石	38	造成土A	-	-	-	0.40	0.30	謹石壁物1を構成/原位置を保たない		
AFR20	平坦地	礎石	29	造成土A	-	-	-	0.32	-	謹石壁物2を構成/原位置を保たない		
AFR20	平坦地	礎石	40	造成土A	-	-	-	0.26	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	41	曲輪造成土	-	-	-	0.41	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	42	曲輪造成土	-	-	-	0.35	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	43	曲輪造成土	-	-	-	0.32	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	44	曲輪造成土	-	-	-	0.31	-	附穴付け穴が埋ま		
AFR20	平坦地	礎石	45	曲輪造成土	-	-	-	0.37	-	附穴付け穴が埋ま		
AFR20	平坦地	礎石	46	造成土A	-	-	-	0.32	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	47	造成土A	-	-	-	0.38	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	48	造成土A	-	-	-	0.33	-	-		
AFR20	平坦地	礎石	49	曲輪造成土	-	-	-	0.37	-	謹石壁物2を構成		
AFR20	平坦地	礎石	50	曲輪造成土	-	-	-	0.26	-	謹石壁物2を構成		
AFR20	平坦地	礎石	51	曲輪造成土	-	-	-	0.20	-	謹石壁物2を構成		
AFR20	平坦地	礎石	52	曲輪造成土	-	-	-	0.28	-	謹石壁物2を構成		
AFR20	平坦地	礎石	53	曲輪造成土	-	-	-	0.32	-	謹石壁物2を構成		
AFR20	平坦地	礎石	54	曲輪造成土	-	-	-	0.30	-	-		
AFR20	平坦地	抜取穴	55	曲輪造成土	-	-	-	0.46	0.16	にぶい黄褐色粗粒砂 10RE3/4		
AFR20	平坦地	礎石	56	造成土B	-	-	-	0.46	0.36	-		
AFR20	平坦地	礎石	57	造成土B	-	-	-	0.42	0.38	-		

第51表 古川城跡8~15号トレンチ出土遺物観察表

遺物番号	層位	出土遺物種類	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)		色調			成形・文様等	種因縁書	箇因縁書	
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
13	鉢曲面の 造成土 C	土師器	盤	(11.0)	—	2.4	10788/3 淡黄褐色	10788/4 淡黄褐色	10788/5 淡黄褐色	内外面ナラ 内面灰付着 4型	107	36	
14	造成土 C	土師器	盤	(9.8)	—	2.2	5YR6/6 棕色	7.5YR8/4 淡黄褐色	7.5YR8/4 淡黄褐色	内外ナラ オサエ 内面 灰付着 3型	107	36	
15	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.7	10788/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	内外ナラ 内面灰方向ナ ラ 4型	107	—	
16	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.3	10788/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	内外ナラ 内面横ナラ 4 型	107	36	
17	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.4	7.5YR6/4 にぶい黃 褐色	10788/4 にぶい黃 褐色	10788/3 にぶい黃 褐色	内外面口沿部ニヨサエ 外表面灰付着 内面 白粉付着 下部斜め 方向ナラ 4型	107	—	
18	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.7	10788/2 淡黄褐色	10788/3 にぶい黃 褐色	10788/4 にぶい黃 褐色	外表面灰付着 内面 白粉付着 方向ナラ 4 型	107	—	
19	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.3	5YR7/4 にぶい黃 褐色	5YR7/6 棕色	5YR7/4 にぶい黃 褐色	内外面横ナラ 4型	107	—	
20	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.1	10788/2 淡黄褐色	10788/3 にぶい黃 褐色	10788/3 にぶい黃 褐色	内外ナラ 内面口沿部 ナラ 下部斜め方向ナラ 4型	107	—	
21	造成土 C	土師器	盤	—	—	3.1	5YR7/6 棕色	5YR7/6 棕色	5YR7/6 棕色	内外面ナラ 4型	107	—	
22	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.2	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	内外ナラ 内面灰方向ナ ラ 4型	107	—	
23	造成土 C	土師器	盤	—	—	2.0	7.5YR7/3 にぶい黃 褐色	7.5YR7/3 にぶい黃 褐色	7.5YR7/3 にぶい黃 褐色	内外ナラ 内面灰方向ナ ラ 4型	107	—	
24	造成土 C	土師器	盤	—	—	1.0	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	内外面ナラ 内面ナラ 4型	107	—	
25	造成土 C	金属製品	釘	—	—	—	—	—	—	鍛付着	107	—	
26	造成土 C	須恵器	杯口壺	—	—	1.4	2.5YR7/1 灰白色	5YR6/1 灰色	5YR7/1 灰白色	内外面凹凸ナラ	107	—	
27	B	土師器	盤	(11.0) (4.0)	3.2	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/2 灰褐色	7.5YR7/2 灰褐色	内外面凹凸各ナラ ナラサエ 内面横ナラ 4型	107	36	
28	B	土師器	盤	—	—	2.3	7.5YR6/3 にぶい黃 褐色	7.5YR7/3 にぶい黃 褐色	7.5YR7/3 にぶい黃 褐色	内外ナラ 内面上部横ナ ラ 4型	107	—	
29	造成土 主	漆戸夷鏡	丸皿	—	6.2	1.3	5YR7/3 淡黄色	5YR7/3 淡黄色	2.5YR8/3 淡黄色	内外面凹凸ナラ 外面 大型3	107	36	
30	造成土 主	土師器	盤	—	—	1.7	7.5YR6/4 にぶい黃 褐色	7.5YR6/4 にぶい黃 褐色	7.5YR6/6 淡黄褐色	内外面凹凸各ナラ 内面 付着 壁面	107	—	
31	造成土 主	土師器	盤	—	—	2.0	10783/1 黑褐色	10783/2 淡黄褐色	10787/3 にぶい黃 褐色	内外面凹凸各ナラ 5型	107	—	
32	造成土 主	土師器	盤	—	—	2.3	10788/2 灰白色	10788/4 淡黄褐色	10788/4 淡黄褐色	内外面凹凸各ナラ ナラサエ 外面凹凸 ナラ付着	107	—	
33	造成土 主	白磁	碗	(12.4)	—	4.0	1078/1 灰白色	1078/1 灰白色	1078/1 灰白色	内外面施釉	107	36	
34	造成土 主	白磁	碗	—	—	—	1078/1 灰白色	1078/1 灰白色	1078/1 灰白色	内外面施釉	107	—	
35	造成土 主	染付	碗	(13.0)	—	4.3	NR/0 灰白色	NR/0 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	斐付綱口型	107	36	
36	造成土 主	金属性製品	釘	6.0	1.2	0.5	—	—	—	—	—	107	—
37	造成土 主	金属性製品	金槌	40.5	7.7	2.2	—	—	—	木台が残る	107	36	
38	造成土 主	金属性製品	釘	8.8	0.7	0.7	—	—	—	—	—	107	36
39	崩落土 主	土師器	盤	—	—	1.7	10787/4 にぶい黃 褐色	10787/4 にぶい黃 褐色	10788/4 淡黄褐色	内外面ナラ ピート 4型	107	—	
40	崩落土 主	土師器	盤	—	—	2.6	10788/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	内外面保付着 内面斜 方ナラ 4型	107	36	
41	崩落土 主	土師器	盤	(12.0)	—	2.4	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	内外面施釉	107	36	
42	表土 主	土師器	盤	—	—	2.7	5YR6/6 棕色	5YR6/6 棕色	7.5YR7/6 棕色	内外面保付着 内面 斜方ナラ 4型	107	—	
43	表土 主	土師器	盤	—	—	2.2	10782/4 淡黄褐色	10782/4 淡黄褐色	10782/4 淡黄褐色	内外面横ナラ 4型	107	—	
44	表土 主	漆戸夷鏡	天日茶碗	(12.0)	—	5.4	5YR5/4 にぶい黒褐色	5YR5/4 にぶい黒褐色	10788/3 淡黄褐色	内外面施釉 大型4	107	36	
45	採集 遺物	土師器	盤	(12.0)	4.7	3.35	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	7.5YR7/4 にぶい黃 褐色	内外ナラ 内面口筋へ 張付着 大型4型	107	—	
46	採集 遺物	土師器	盤	—	—	1.8	10786/3 にぶい黃 褐色	10786/3 にぶい黃 褐色	10785/1 灰褐色	内外ナラ 内面斜方 ナラ 4型	107	—	
47	採集 遺物	土師器	盤	—	—	2.0	10784/1 灰褐色	10784/3 淡黄褐色	10788/3 淡黄褐色	内外ナラ 内面保付着 5型	107	—	
48	採集 遺物	漆戸夷鏡	丸皿	—	—	1.95	5YR7/3 淡黄色	5YR7/3 淡黄色	10788/4 淡黄褐色	内外面凹凸ナラ 外面 大型3	107	—	
49	採集 遺物	白磁	碗	—	—	1.95	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	7.5YR8/1 灰白色	内外面凹凸ナラ 白磁	107	—	
50	採集 遺物	土師器	小刀柄	9.6	1.45	0.4~ 1.5	—	—	—	金箔あり	107	36	
51	採集 遺物	漆戸夷鏡	縦反差	(11.0)	—	2.0	5YR7/2 灰白色	5YR7/2 灰白色	10786/2 にぶい黃 褐色	内外面凹凸ナラ 内面 白粉 大型2	107	36	
52	採集 遺物	漆戸夷鏡	すり棒	—	—	2.9	7.5YR4/1 灰褐色	7.5YR4/1 灰褐色	2.5YR4/2 灰白色	内外面凹凸ナラ 内面 白粉 大型2	107	36	

第3節 小島城跡

1 調査の目的

測量調査により、主郭と考えられた最も広い平坦地から南・北側斜面において、また虎口の通路と考えられた斜面地とそこに西接する平坦地において、試掘確認調査を実施した。以下、最も広い平坦地を平坦地1、通路と考えられた斜面地を通路3、通路3に接する平坦地を平坦地2とする。

調査の目的は、平坦地1では遺構の把握と遺物による山城の使用年代の把握することである。また、平坦地2と通路3との間の段差で地表面に露出する石垣の全体像を確認すること、通路3では階段の有無や幅を確認することである。

2 調査の概要（第108図）

2018年度、平坦地2と通路3との間の段差に位置する石垣の南北方向の広がりを確認するために1号トレンチを、通路と想定した斜面地において通路幅を確認するために東西方向の2号トレンチを、斜面地の中央で階段の有無等を確認するために南北方向の3号トレンチを設定した。

また、最も広い平坦地1を横断し、南北側の斜面地にかかるように4号トレンチ、5号トレンチを設定した。4号トレンチは地表面に10cm大の小礫が露出する遺構がかかるように設定した。5号トレンチは、地表面に露出する偏平な礫を礎石と想定し、その礫がかかるように設定した。

1～3号トレンチの調査では、上層より、腐葉土、崩落土、路面造成土、石垣1裏込め土、石垣1据付土、地山の順で堆積することを確認した。腐葉土と崩落土を除去して検出した石垣を石垣1とし、その上面か石材が失われているところは石垣1裏込め土か石垣1据付土を遺構面として調査を行った。現在確認できる斜面は地山を削って造られていること、斜面の西側側面には石垣が据えられていたことを確認した。

4・5号トレンチでは、上層より、腐葉土、テラス造成土か崩落土、石垣2・3裏込め土、曲輪造成土、地山の順で堆積することを確認した。地表面に露出する偏平な山石1石が礎石の可能性があると想定したが、腐葉土中に含まれることを確認した。調査区外にも礎石の可能性がある偏平な石が散在するが、原位置を保つ可能性が低いと考えられる。また、南側斜面では裏込め土を伴う石垣2・3とともに、その裏込め土が平坦地1まで達することを確認した。このため、石垣2・3から平坦地1の間にも石垣が存在した可能性を想定することができた。

それぞれの層序と遺構面の対応は、1～3号トレンチの路面造成土・石垣1裏込め土・石垣1据付土上面の遺構面と、4・5号トレンチの裏込め土上面の第1遺構面とが対応すると考えられる。

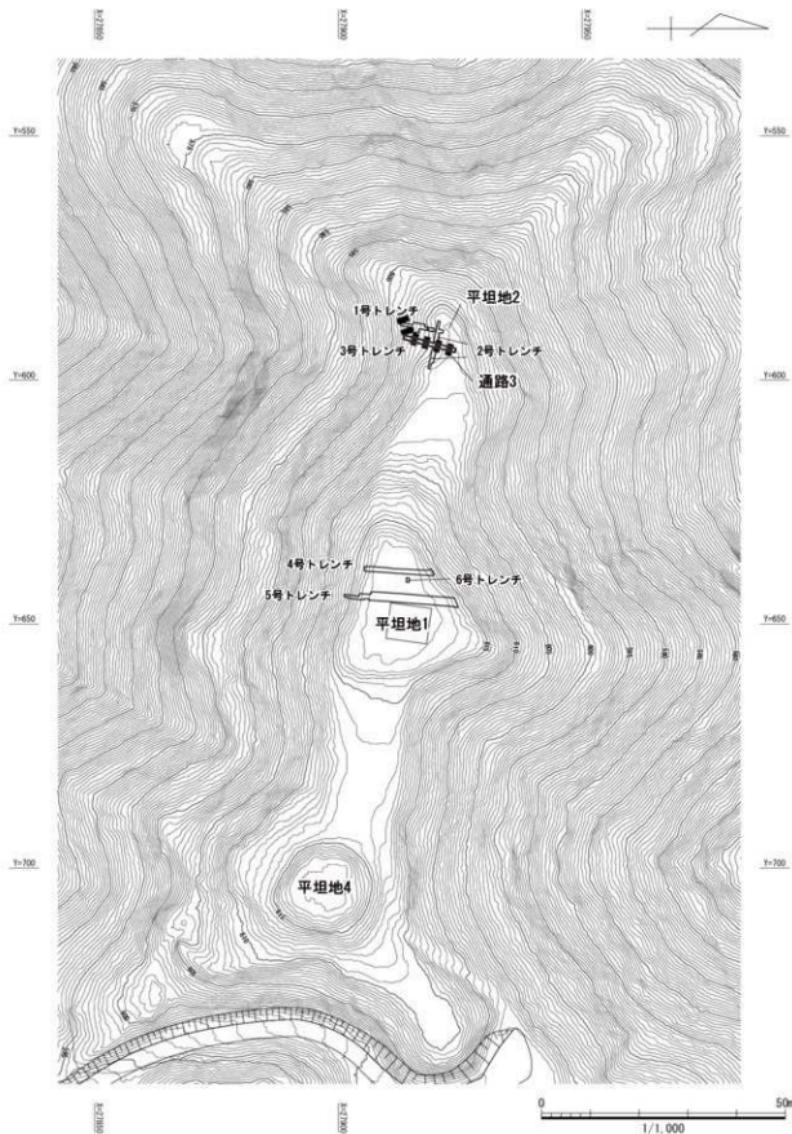
遺物は土師器皿、瀬戸美濃焼等が出土した。

3 基本層序

(1) 平坦地2と通路3の1～3号トレンチ（第109図）

腐葉土 斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

崩落土 石垣の上層に堆積する。元々は石垣であったと考えられる1m大の礫や、裏込め土であったと考えられる小礫を多量に含む。



第108図 小島城跡 トレンチ位置図

路面造成土 通路に面した石垣1の前面裾部に薄く堆積する。通路の上面を舗装したと考えられる土層である。

石垣1裏込め土 地表面に露出している石垣1の裏込め土である。石材が抜けているところは、当層の上面を遺構面として調査を行った。

石垣1据付土 石垣1の石材を据えるために傾斜地を埋めた土層である。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。当層の上面から掘り込む遺構は確認しなかった。

(2) 平坦地1の4・5号トレンチ（第110図）

腐葉土 平坦地1と斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

テラス造成土か崩落土 北側斜面では石垣2及び石垣3の上部に堆積する。石垣間のテラスを造成した土層か、テラスに堆積した崩落土である。小礫を多量に含む。南側斜面には崩落土が厚く堆積し、元々礎石であったと想定される河原円礫が含まれる。

石垣2・3裏込め土 小礫を多く含む、平坦地1の南側斜面に位置する石垣2・3の裏込め土であり、平坦地1の上端まで達している。当層の上面を第1遺構面として調査を行った。

曲輪造成土 山の斜面に対して、平坦地1を造るために盛土を施した土層である。平坦地1の平坦面においては、当層の上面が平坦地1の地山上面と揃えられる。このため、当層の上面も第1遺構面として調査を行った。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。平坦地1の5号トレンチにおいて、当層の上面から掘り込む土坑7があり、第2遺構面とした。

4 遺構（第52・53表）

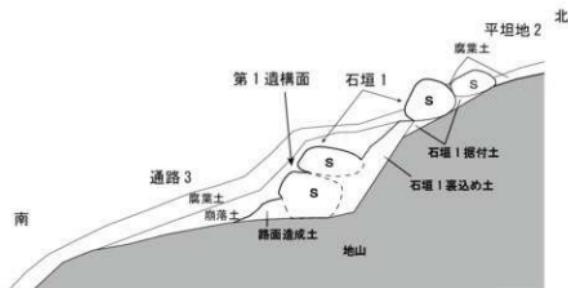
1～3号トレンチでは、腐葉土下及び崩落土下層の石垣1の広がりと、通路の幅を確認した。また、通路には階段等の施設はなく、スロープであったことが分かった。

平坦地1に設定した4・5号トレンチでは、第1遺構面として、腐葉土下の曲輪造成土と地山で検出作業を行った。また、斜面では、石垣かその裏込め土で検出作業を行った。4号トレンチにおいて、曲輪造成土を基礎として礎石8が据えられる。この広がりを見るために6号トレンチを設定したが、礎石の検出はなかった。また、盛土遺構6が曲輪造成土の上層に位置する。5号トレンチでは、南側斜面地において、地表面に露出していた石垣2・3を検出し、その上段に裏込め礫4を確認した。5号トレンチ断面では、偏平な礎石5が据えられている可能性を想定したが、腐葉土中のものであった。第2遺構面は曲輪造成土より下層の地山上面である。今回は土坑7を確認した。

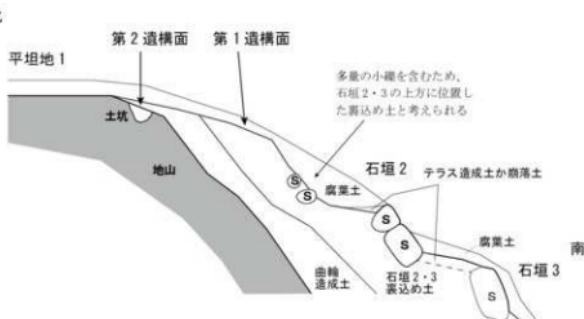
(1) 平坦地2と通路3の1～3号トレンチ（第111～115図、第52表）

石垣1（第111・113・115図） 1号トレンチにおいて、地表面に露出していた石垣である。傾斜角は60°～65°を測る。調査範囲は傾斜地となっており、水平距離で全長10.3m、垂直距離で高さ3.0mを測る。最大4段分が残り、高さ1.4mを測る。石材の大きさは、最大のもので幅1.20m、高さ0.95mを測る。石材は砂岩である。

調査では、ほぼ直角に折れる石垣隅部を確認した。このため、平坦地2は方形を呈する可能性がある



第109図 小島城跡 1~3号トレンチ断面模式図



第110図 小島城跡 4・5号トレンチ断面模式図

第52表 小島城跡石垣計測表

道横名	位置	道横面	全長	高さ	傾斜角	裏込め	間詰石	備考
石垣1	虎口通路	第1	10.3	3.0	60~65°	裏込め土	有	裏込め土には多量の礫を含む
石垣2	平坦地切岸	第1	(4.0)	0.9	72°	裏込め土	有	裏込め土には多量の礫を含む
石垣3	平坦地切岸	第1	(2.1)	(0.3)	60°	裏込め土	-	裏込め土には多量の礫を含む

※() 数値は検出長を示す

第53表 小島城跡トレンチ土坑・柱穴等一覧表

調査記号	遺構種別	遺構番号	位置	道横面	法量(m)				理土	備考	
					柱穴	トレンチ	表面状況	断面形状	平面形状	底面形状	
AKG18	盛土	6	TE	4	曲輪造成土	水平	-	-	(0.32)	-	浅黄褐色砂質土
AKJ18	土坑	7	TE	5	地山	-	-	-	0.76	-	にふい黄褐色砂質土
AKG18	建石	8	TE	4	曲輪造成土	-	-	-	0.52	0.37	-

10TRB/4 TRB 断面2層
10TRB/3 TRB 断面9層
- -

と考えられた。また、石垣は傾斜がある通路3に面するため、平坦地2との段差が少ないところは1～2石の石垣で、傾斜により段差が大きくなるところは石材を何段にも積んで高さを確保し、平坦地2を造成していることを確認した。隅部では間詰石が認められた。

通路3（第111・112・114図） 傾斜地の中央を縦断する2号トレンチにおいて、表土直下は地山であることを確認した。地山上面では階段等の登るための構築物を確認できなかった。このため、通路3はスロープ状の通路であったと想定される。3号トレンチの東半部では、石垣が認められないが、地山を削って段差を造り、礫1石を配置して通路3の東端を規定する。通路の幅は5.6mを測る。通路の上方は石垣1の東端にあたり、傾斜地を登り切ったところまでである。通路の下方は、今回確認した石垣1の南東隅部に沿って北側に折れるものと考えられた。

（2）平坦地1の4・5号トレンチ（第116～118図）

①第2遺構面の遺構

土坑7（第117図） 5号トレンチの北端から4mの地点において地山上面で確認した。径0.80mを測る。底面に段を有する。

②第1遺構面の遺構（第52表）

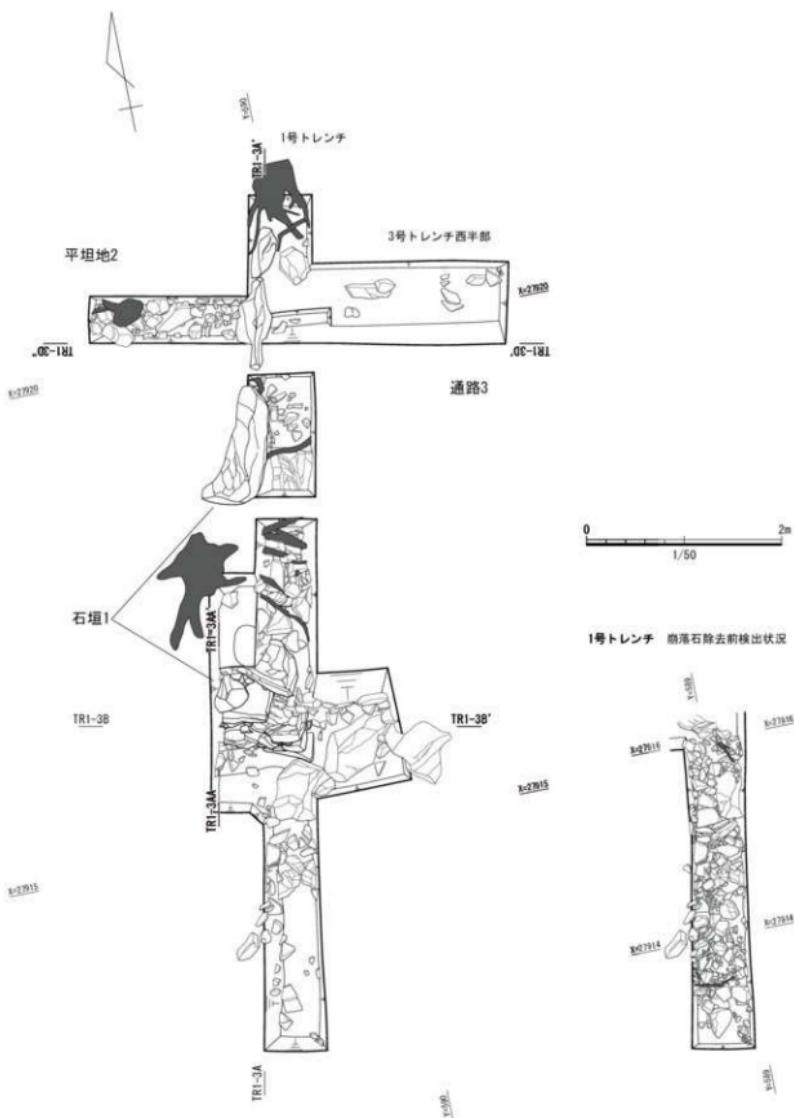
石垣2（第118図） 5号トレンチの南側斜面において、地表面に露出していた石垣である。傾斜角は72°を測る。調査範囲外でも地表面に露出している範囲から、全長4.0mと考えられる。調査トレンチでは、高さ0.9mを測る。最大3段分である。石材の大きさは、最大のもので幅0.60m以上、高さ0.20m以上を測る。石材は砂岩である。

石垣2の下段には石垣3が位置し、その間にテラス状の平坦面が存在したものと考えられる。上段には現状では石垣が残存しない。しかし、10～20cm大の礫が散在しており、石垣2・3裏込め土が垂直距離2mほど離れた平坦地1まで達している状況である。このため、石垣2の上方には平坦地1まで2m程度の石垣があったものと想定される。

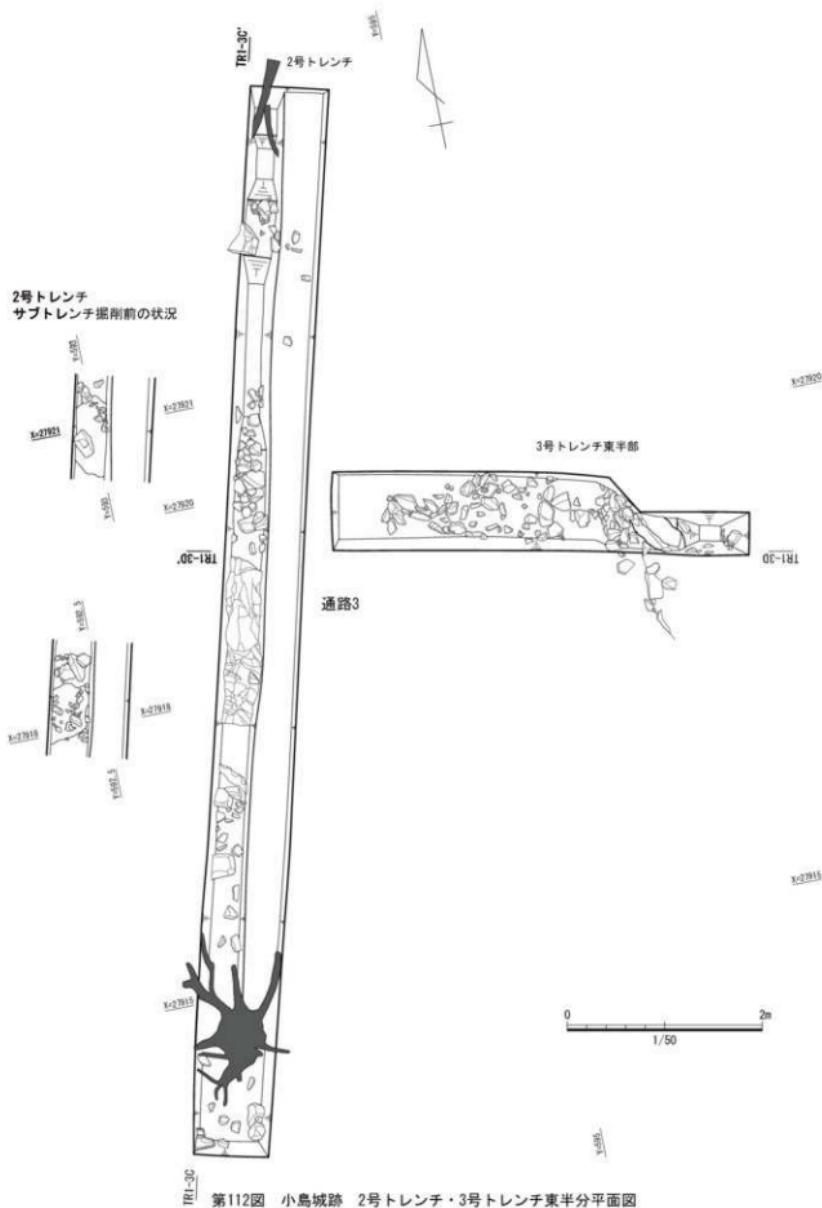
石垣3（第118図） 5号トレンチにおいて、石垣2の下段で検出した。検出範囲で傾斜角は60°を測る。調査範囲外に石材は続く。確認できる範囲で、全長2.1m以上、高さ0.3m以上を測る。1段分のみ確認したが、下層に続くと想定される。石材の大きさは、最大のもので幅2.1m以上、高さ0.30m以上を測る。石材は砂岩である。

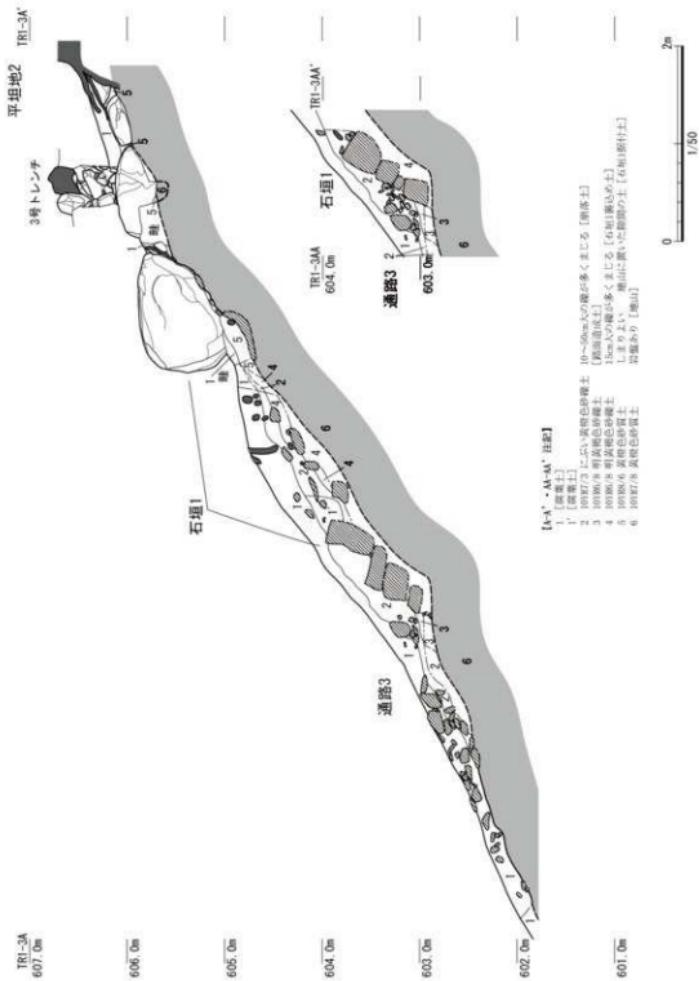
平坦地1の南側斜面には、下から石垣3・石垣2と続く。さらにその上方にも想定で2mの石垣があったものと想定されたため、3段の石垣があったものと考えられる。それぞれの石垣間には石垣2と石垣3の間のようにテラス状の平坦地があったものと考えられる。

盛土遺構6（第116図） 4号トレンチの中央に位置する。南北方向3.1mにわたり、5cm程度の河原石が集石し、20cm程度の盛土が施される。東西方向は調査区外に及ぶが、地表面観察では、2m程度の範囲が盛り上がったように観察できる。中央に礫を集中させ、南側に散在させる。曲輪全体では西端に位置し、礎石8が北接する。性格は不明であるが、礎石建物と共に装飾を意識した遺構の可能性が想定される。

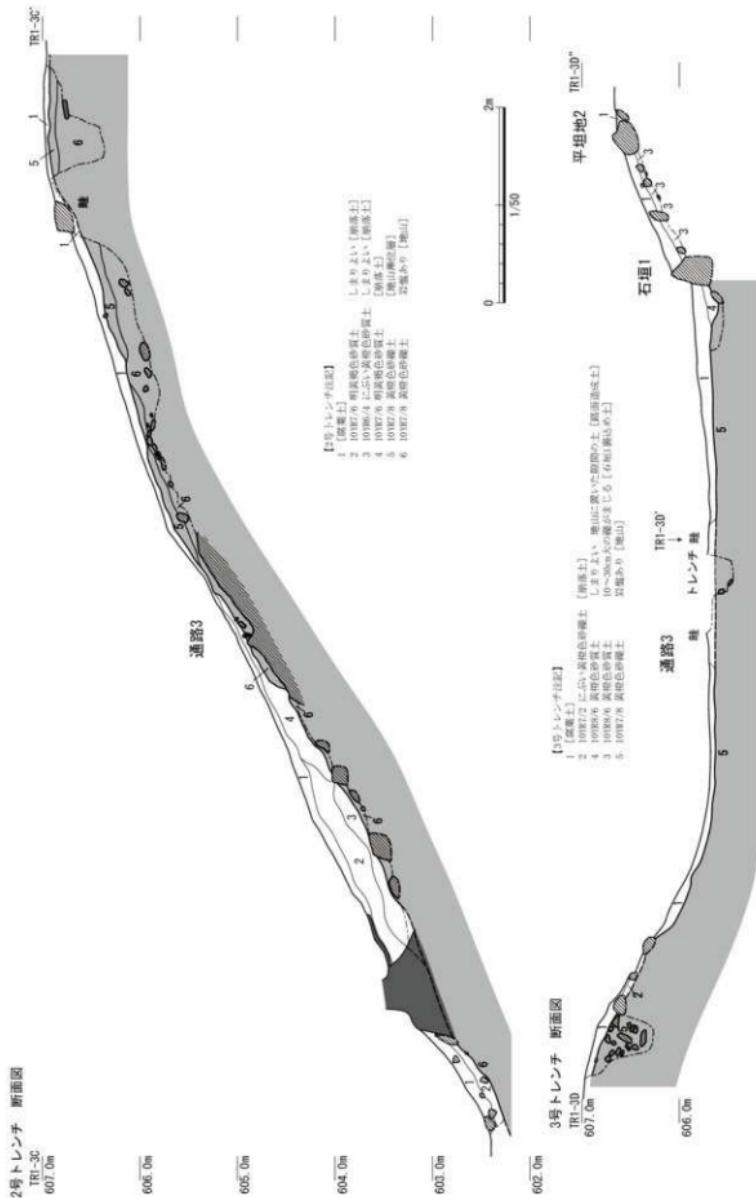


第111図 小島城跡 1号トレンチ・3号トレンチ西半分平面図

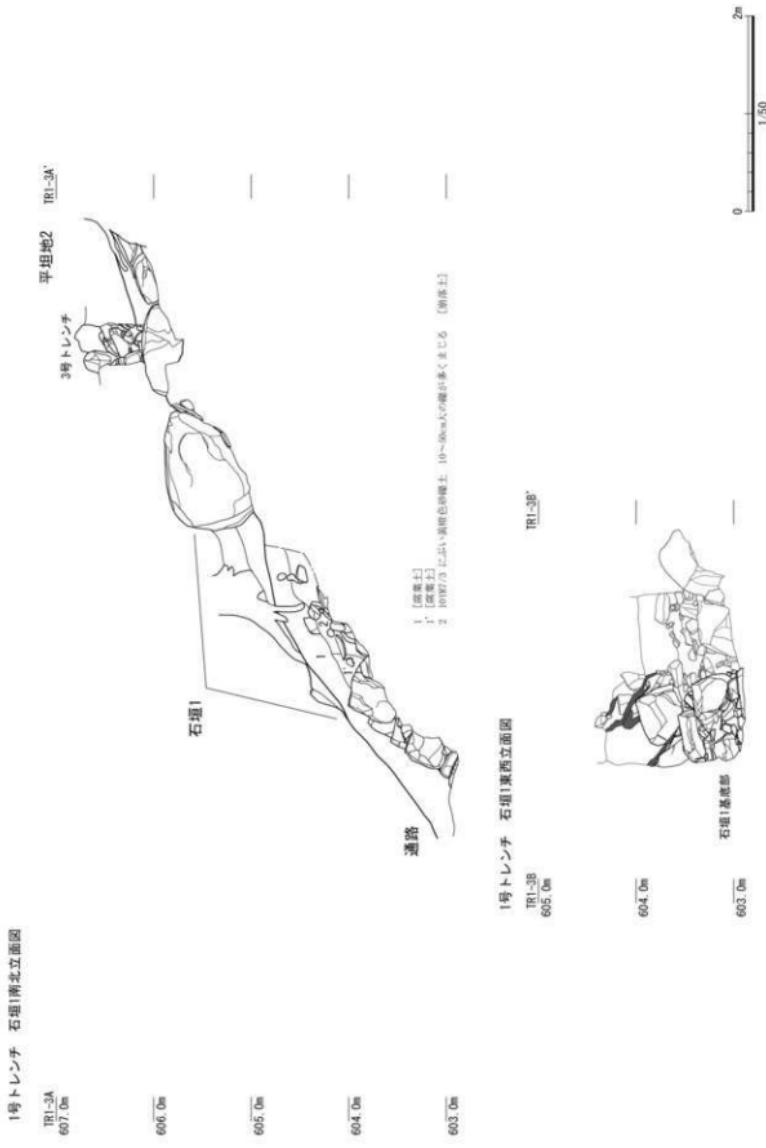




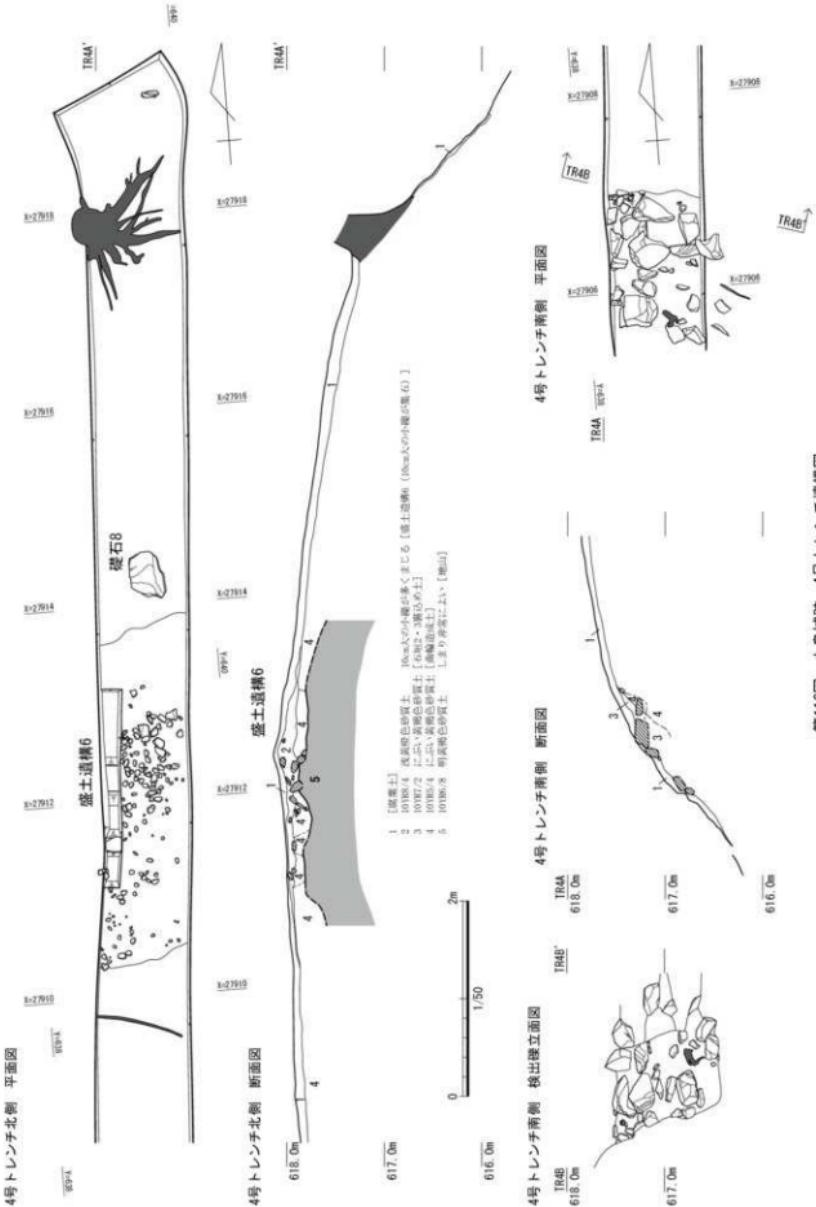
第113図 小島城跡 1号トレーンチ断面図

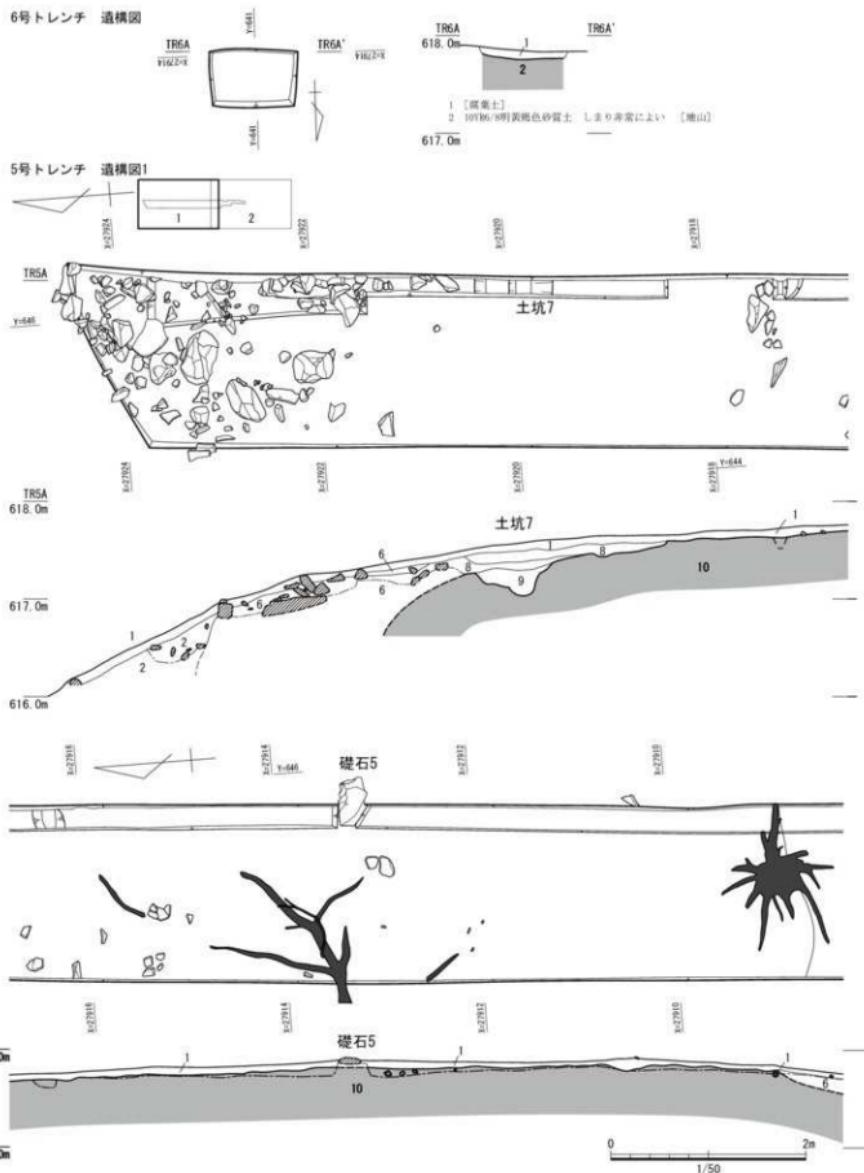


第114図 小島城跡 2・3号トレンチ断面図

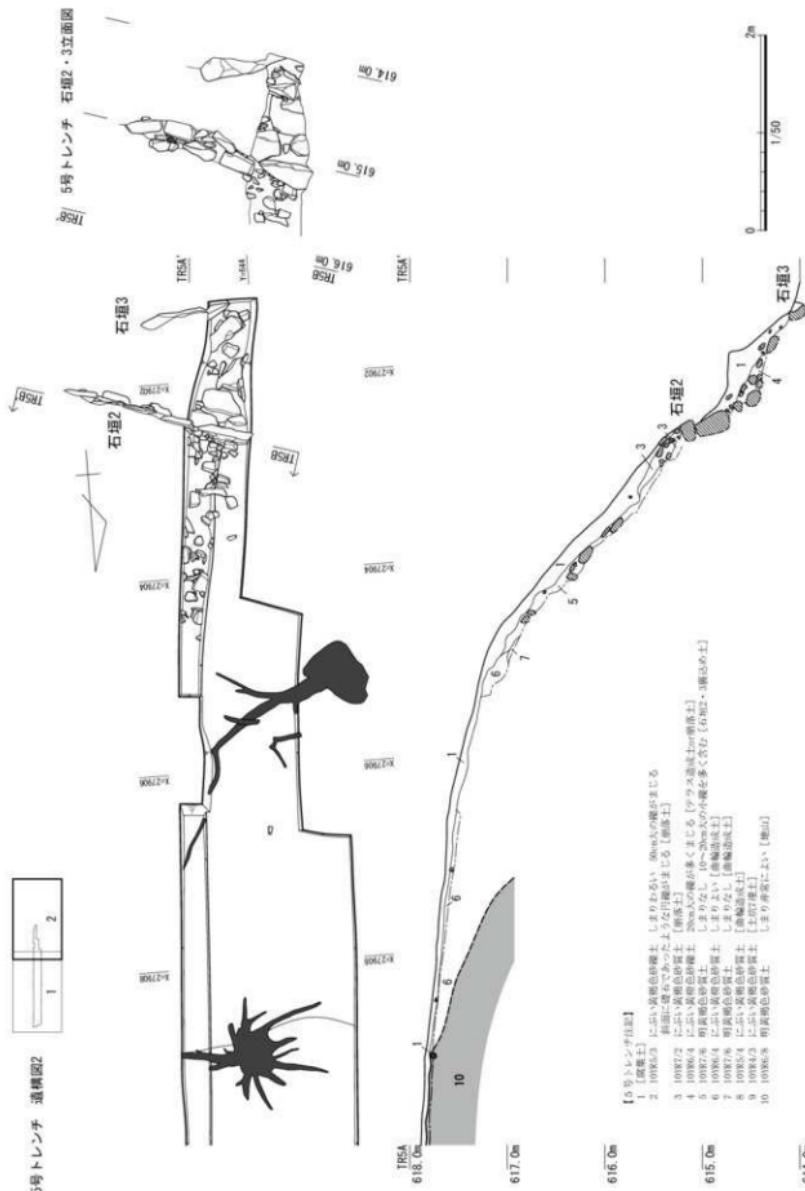


第115図 小島城跡 1号トレンチ石垣1立面図





第117図 小島城跡 6号トレンチ遺構図・5号トレンチ遺構図1



第118図 小島城跡 5号トレンチ遺構図2

5 遺物（第54・55表）

(1) 平坦地2と通路3の1～3号トレンチ（第119図）

崩落土 潬戸美濃焼1点、円碟1点が出土し、瀬戸美濃焼1点を図示した。53は端反皿の底部破片である。内外面全面に灰釉を施す。付け高台が三角形状を呈する。古瀬戸後期段階のものと考えられる。

腐葉土直下 検出作業時に瀬戸美濃焼2点、白磁1点、古銭1点が出土し。瀬戸美濃焼1点・白磁1点・古銭1点を図示した。54は瀬戸美濃焼丸皿の口縁部破片である。内外面に灰釉を施す。釉の透明度が高く、貫入が入る。口縁部が直線的に開く器形から、大窯第2段階のものと考えられる。

55は白磁皿の底部破片である。高台周辺は釉を搔き取る。白磁E20類に属する。

56は古銭である。銭種は至和元宝であり、楷書である。北宋銭であり、初鑄年は1,054年である。

採集遺物 調査区付近で瀬戸美濃焼1点を採集した。57は瀬戸美濃焼すり鉢の体部破片である。内外面に赤灰色の錆軸を施す。大窯段階のものと考えられる。

(2) 平坦地1の4・5号トレンチ（第120図）

曲輪造成土 土師器皿が6点出土し、4点を図示した。58～61は土師器皿である。58は口縁部破片である。内面にナデを施し、端部には指頭圧痕が残る。外面には口縁部にヨコナデを施し、体部は未調整である。3類に属する。59・60は内外面にナデを施す。4類に属する。61は底部破片である。内外面にナデを施し、4類に属する。58は内面全面、60は外面口縁部、61は内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

盛土遺構6 土師器皿が1点出土し、図示した。62は口縁部破片である。内外面にナデを施し、4類に属する。

腐葉土直下 検出作業時に土師器皿2点、瀬戸美濃焼2点、釘2点が出土した。63・64は土師器皿である。63は内面にナデを施し、口縁部をヨコナデにより平坦に仕上げる。外面は未調整である。7類に属する。64は体部破片である。内面にナデを施し、外面は未調整である。

65・66は瀬戸美濃焼である。65は端反皿である。内外面に灰釉を施し、貫入が入る。体部が丸みを持って開き、口縁部がくびれる器形から、大窯第1段階のものと考えられる。66は天目茶碗である。内外面に鉄軸を施し、体部下面下半は錆軸を施す。体部は立ち気味で、丸みを持つ器形から、古瀬戸後IV期（新）から大窯第1段階のものと考えられる。

67・68は鉄釘である。ともに頭部と先端部を欠損する。

腐葉土 瀬戸美濃焼が1点出土し、図示した。69は片口鉢の口縁部である。内外面に錆軸を施す。口縁外面が三角形状を呈する。大窯第2段階のものと考えられる。

(3) 調査区外の採集遺物（第121図）

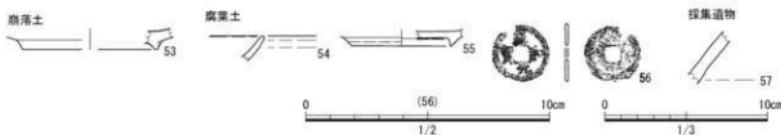
平坦地4（檜台）周辺での採集遺物 今回は調査区外にあたるが、測量調査で檜台と想定された平坦地4周辺で、土師器皿10点、瀬戸美濃焼2点、珠洲焼3点、古銭1点を採集した。関連する遺物として、土師器3点、瀬戸美濃焼2点、珠洲焼2点、古銭1点を図示し、報告する。

70～72は土師器皿である。70は口縁から底部にかけての破片である。内面は口縁部ヨコナデの後、体部に一定方向のナデを施す。外面にナデを施す。4類に属する。71は口縁から体部にかけての破片である。内面は口縁部ヨコナデの後、体部に縦方向のナデを施す。外面にもナデを施す。4類に属する。

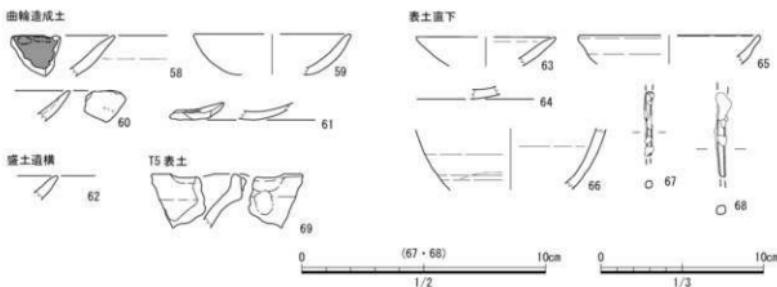
72は口縁部の破片である。内面に一定方向のナデを施す。内面全面と外面の口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

73・74は瀬戸美濃焼の天目茶碗である。73は口縁部破片である。口縁がくびれ、端部が短く外反し、口唇部がわずかに直立する。古瀬戸後IV期（新）～大窯第1段階のものと考えられる。74は体部破片である。器壁がうすく、透明度が高い黒色の鉄釉を施すため、大窯段階のものと考えられる。

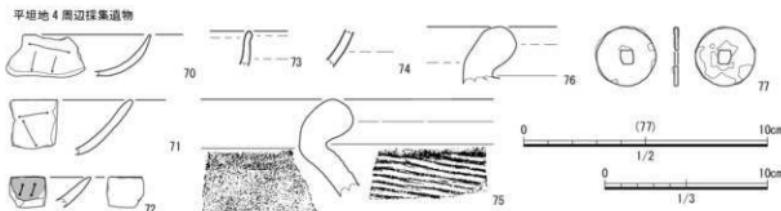
75・76は珠洲焼の口縁部破片である。ともに口縁端部が方形を呈する。珠洲IV期のものと考えられる。77は古錢である。銭種は不明である。



第119図 小島城跡 平坦地2・通路3の1~3号トレンチ出土遺物図



第120図 小島城跡 平坦地1の4・5号トレンチ出土遺物図



第121図 小島城跡 平坦地4の採集遺物図

第54表 小島城跡出土遺物一覧表

調査地	遺構面	土層	土師器皿							瀬戸美濃			珠洲	青磁	白磁	染付	金屬	その他	合計	
			3種	4種	5種	6種	7種	不明	丸皿	睡反皿	天目	日すり鉢								
虎口通路	近世以降	崩落土	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	
		崩落土直下	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-	1	4	
		採集遺物	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	
		小計	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	7	
最も古い平坦地	第1期	曲輪造成土	1	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
		塗土遺構6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
	近世以降	高麗土直下	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-	-	-	2	-	6	
		高麗土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
		小計	1	4	0	0	1	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	0	14
現地の平地	近世以降	採集遺物	-	2	-	-	-	8	-	-	2	-	3	-	-	-	-	1	-	16
		小計	0	2	0	0	0	8	0	0	2	0	0	3	0	0	0	1	0	16
		合計	1	6	0	0	1	11	1	2	3	2	1	3	0	0	1	0	4	1

第55表 小島城跡出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレンチ	種別	基準	法面 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	捲貝 回数	因縁 番号	
					口径	底径	高さ	内面	外面	断面				
53	崩落土	1	瀬戸美濃	壺反皿	-	8.4	1.3	101W6/3オリエ ブ黄色	101W6/3オリエ ブ黄色	2.5SWK7/3淡黄 色	内外面灰植	119	36	
54	表土直下	3	瀬戸美濃	丸皿	(10.0)	-	1.5	SW7/3浅黄色	SW7/3浅黄色	101W7/3にぶい 黄褐色	内外面灰植、貴人あり	119	-	
55	表土直下	3	白磁	皿	-	6.0	1.0	5SW/1灰白色	5SW/1灰白色	2.5SW/1灰白色	内外曲面削切外彫刻 脚高台 白磁2寸幅	119	36	
56	表土直下	3	金属製品	古鏡	2.4	2.4	0.1	-	-	-	至和文室、緒あり 孔径 0.5cm四方	上部下部欠損	119	36
57	採集遺物	-	瀬戸美濃	十手鉢	-	-	3.2	5SW4/4灰白色	2.5SW4/1灰白色 黄褐色	101W7/3にぶい 黄褐色	内外面灰植茎葉	119	-	
58	曲輪の造成土	5	土師器	皿	-	-	2.1	101W3/1黒褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/3にぶ い褐色	外底ナメ	内面復元 手指 指 サエ工瓶 ヘラナ板 3脚	120	36
59	曲輪の造成土	4	土師器	皿	9.5	-	2.5	7.SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	7.5SW6/6にぶ い褐色	内外面ナメ 4脚	120	36	
60	曲輪の造成土	5	土師器	皿	-	-	1.9	7.SW6/6にぶ い褐色	7.5SW7/3にぶ い褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	内外面ナメ	外曲面容口部に保 あり 4脚	120	-
61	曲輪の造成土	5	土師器	皿	-	-	1.05	7.SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	内外面ナメ	内面ナメナメ く保あり 4脚	120	-
62	底土遺構	4	土師器	皿	-	-	1.5	7.SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/4にぶ い褐色	内外面ナメ	4脚	120	-
63	表土直下	4	土師器	皿	8.6	-	1.8	7.SW7/4にぶ い褐色	7.5SW7/6暗褐色	7.5SW7/6暗褐色	内外面ナメ調整 内 面口縁横ナメ 7脚	120	36	
64	表土直下	5	土師器	皿	-	-	0.8	7.SW7/2灰褐色	101W6/2灰黃褐色	101W6/1地灰 色	内外面調整 内面ナメ 5~7 脚	120	36	
65	表土直下	5	瀬戸美濃	壺反皿	11.0	-	1.8	2.SW7/2灰褐色	5SW/3淡黄色	101W7/2にぶい 黄褐色	内外面覗入あり 大腹 1	120	-	
66	表土直下	5	瀬戸美濃	大皿茶碗	-	-	3.8	101W5/3にぶ い褐色	101W5/3にぶ い褐色	101W5/3淡黄色	内外面凹凸ナメ 外面底上 部鉄輪 下部鉄輪 内面鉄輪 古底輪後IV新へ大腹 1	120	36	
67	表土直下	5	金属製品	釣	4.0	0.6	0.45	-	-	-	-	-	120	-
68	表土直下	5	金属製品	釣	3.4	0.8	0.35	-	-	-	-	-	120	36
69	表土	5	瀬戸美濃	片口鉢	-	-	3.3	7.SW3/1黒褐	7.5SW3/1黒褐	7.5SW3/2淡黄 色	内外面灰植 大腹 1	120	36	
70	採集遺物	廢台周辺	土師器	皿	-	-	2.5	101W7/3にぶ い褐色	101W7/3にぶ い褐色	7.5SW7/3にぶ い褐色	内外面ナメ 内面口縁横ナメ 脚ナメ 4脚	121	36	
71	採集遺物	廢台周辺	土師器	皿	-	-	3.35	101W7/3にぶ い褐色	101W7/4にぶ い褐色	101W8/4淡黄色	内外面ナメ 内面口縁横ナメ 脚ナメ 4脚	121	36	
72	採集遺物	廢台周辺	土師器	皿	-	-	1.85	101W7/3にぶ い褐色	101W7/4にぶ い褐色	101W7/3にぶ い褐色	内外面ナメ 内面付着物 灯明 4脚	121	-	
73	採集遺物	廢台周辺	瀬戸美濃	天目茶碗	-	-	2.2	7.SW3/1黒褐	7.5SW3/2淡黄 色	7.5SW3/2淡黄 色	内外面動輪 天目口地IV期 (前) ~大腹第1段階	121	36	
74	採集遺物	廢台周辺	瀬戸美濃	天目茶碗	-	-	2.2	101W2/1黑色	-	2.5SW2/2灰白色	内外面動輪 大腹設置	121	36	
75	採集遺物	廢台周辺	珠洲燒	甕	-	-	6.0	5SW6/1灰色	5SW6/2灰色	5SW6/2灰色	内外面ナメ	121	-	
76	採集遺物	廢台周辺	珠洲燒	甕	-	-	3.5	2.5SW6/1灰褐色	2.5SW6/1灰褐色	2.5SW6/1灰褐色	内外面ナメ	121	-	
77	採集遺物	廢台周辺	金属製品	古鏡	2.4	2.4	0.15	-	-	-	孔径 6.5cm西方 溝あり 年代不明	121	36	

6 特記事項

今回の調査では、遺構面を2面確認した。最後に、分布する遺構とその帰属時期、変遷について考えたい。

小島城1期 平坦地1の4・5号トレンチで確認した第2遺構面である。曲輪造成土下層で地山上面が該当する。4号トレンチでは、中央あたりで地山が高まり、南北に落ち込む。5号トレンチでは、平坦地1の中央あたりより南側で地山は傾斜していく。

平坦地1の5号トレンチにおいて土坑7を確認した。その上層の曲輪造成土から土師器皿3類・4類が出土する。また、腐葉土直下で古瀬戸後IV期（新）から大窯第1段階の端反皿65・天目茶碗66が出土する。これらの遺構・遺物が小島城跡で最も古い。このため、築城時期は古瀬戸後IV期（新）から大窯第1段階と考えられる。また、1～3号トレンチにおいて大窯第2段階の丸皿54、4・5号トレンチにおいて腐葉土から大窯第2段階の片口鉢69が出土する。これらの遺物とともに、後述するように2期は大窯3～4段階の時期と考えられるため、終期は大窯第2段階の時期に求められる。このため、機能時期は瀬戸後IV期（新）～大窯第2段階と考えられる。

なお、平坦地4の採集遺物は、土師器皿4類が主体であり、瀬戸美濃焼の天目茶碗が古瀬戸後IV期（新）～大窯第1段階のものである。平坦地4は築城にあたる1期に造成された可能性が高いと考えられる。

小島城2期 1～3号トレンチでは、石垣1が虎口通路に面して構築されていることを確認した。平坦地1の4・5号トレンチでは、第1遺構面の時期であり、腐葉土直下に位置する曲輪造成土及び地山上面が該当する。この上面では礎石8が残存するが、並びを確認することができなかった。後世の削平により遺構の残りが悪い可能性が高い。平坦地1の北側斜面では、曲輪造成土上面が第1遺構面となる。平坦地2の南側斜面には石垣2・3を確認した。また裏込め跡4も石垣の痕跡と想定されることから、少なくとも3段の石垣があったものと想定される。盛土遺構6も構築され、何らかの装飾を意識したものと想定したが、性格を明らかにすることはできなかった。

石垣1～3が大きいもので1m程度の石材を用いること、小砾を伴う裏込め土を有することは、古川城跡の石垣1の在り方と近似しており、同時期に構築されたと考えられる。このため、大窯第3～4段階のものと考えられる。なお、遺物で最も新しい時期のものは、土師器皿7類58である。これが、4・5号トレンチにおいて、礎石検出作業中に出土した。土師器皿7類は大窯2～3段階と考えており、それ以降の遺物は認められない。

以上より、小島城2期は大窯第3～4段階が機能時期と考えられる。



写真7 小島城跡 主郭切岸の石垣調査の様子



写真8 小島城跡 虎口通路の石垣調査の様子

第4節 野口城跡

1 調査の目的

測量調査によって、主郭と考えられた最も広い平坦地1と竪状堅堀群において試掘確認調査を行った。目的は、平坦地1において、遺構・遺物の残存状況、平坦地1を囲む土壘の構造を確認すること、また、竪状堅堀群において、土壘の高さと堀の深さ、その形状と年代を把握することである。

2 調査の概要（第122図）

2019年度、細長く最も広い平坦地1において、縦断する南北方向の1号トレンチ、横断する東西方向の2号トレンチを十字に設定した。また、最高所の平坦地2の麓に3号トレンチを設定した。さらに、竪状堅堀群の土壘と堅堀とを断ち割る4号トレンチを設定した。

1～3号トレンチでは、上層より、腐葉土I、根の侵入が多い腐葉土に近い土層II、造成土III、土壘造成土、造成土IV、斜面の造成土、地山Vの順で堆積することを確認した。造成土IIIの上面で多くの柱穴・土坑を確認した。同層の上面では、柱穴の切り合いが認められる。また、サブトレンチでは、造成土IVの上面から掘り込む遺構を確認した。

造成土IVと斜面の造成土は、上面の標高値が揃うため同時期と考えられる。また、土壘は造成土IV・斜面の造成土・地山を基礎に構築されるため、造成土IV・斜面の造成土と同時期の可能性がある。一方、土壘の構築後に造成土IIIで平坦地1を造成しているため、造成土IIIと同時期の可能性もある。造成土IIIが土壘の裾部までしか及ばないことを考えると、造成土IVの時期に構築され、造成土IIIの時期にも土壘が存在していた可能性が高いと考えられる。遺物は造成土III上面での検出作業中・サブトレンチにて造成土III・IVを掘削中に、大量の土師器皿が出土した。

4号トレンチの調査では、上層より、腐葉土、堅堀埋土、土壘盛土、地山の順で堆積することを確認した。堅堀は地山を掘り込み、土壘は地山上層に構築されている。遺構面は1面である。

3 基本層序

(1) 平坦面1の1～3号トレンチ（第123図）

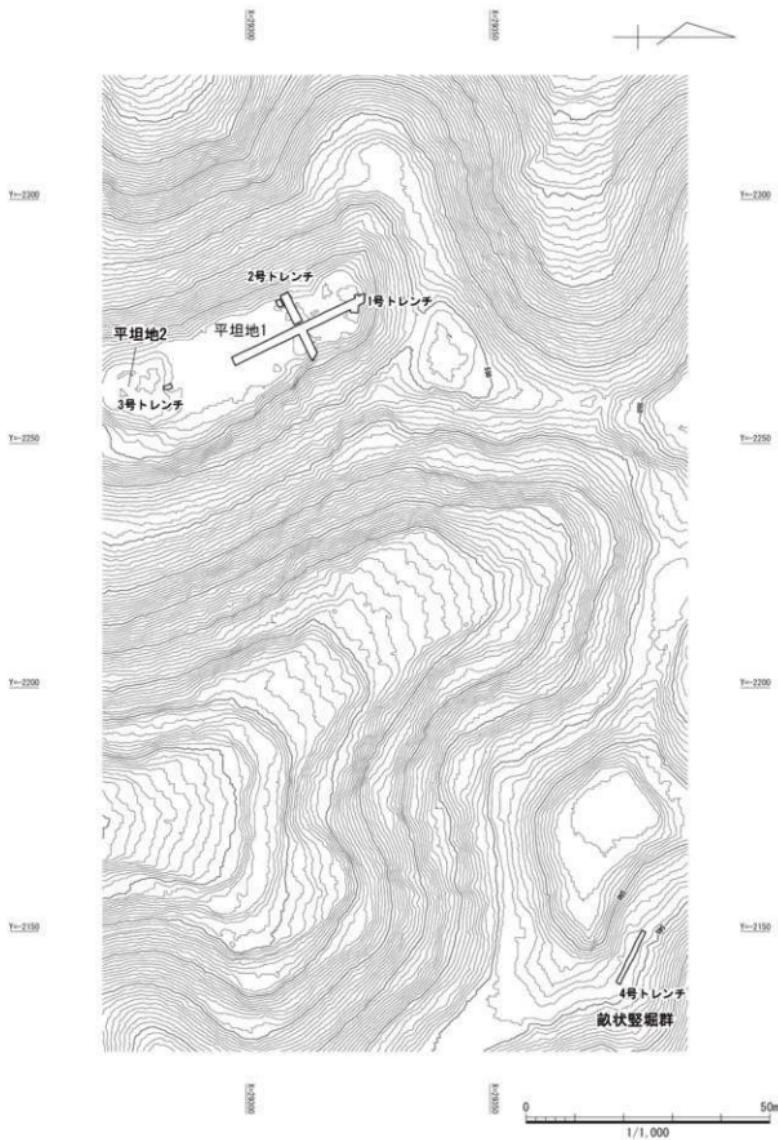
腐葉土I 平坦地1と斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

根の侵入が多い腐葉土に近い土層II 平坦地1の南側に堆積する。根の侵入が多く、腐葉土に近い土層である。平・断面で遺構の検出を行うことができなかつた。

造成土III 平坦地1の1号トレンチでは、南端から4mあたりまでは確認できず、それより北側で確認できる。平坦地1の当層の上面を第1遺構面として調査を行った。

土壘造成土 平坦地1を取り囲む土壘の造成土である。地表面に小礫を含む。土壘を造成した後、造成土IIIで平坦地1全面を造成しているため、造成土IIIの時期に存在したものと考えられる。このため、当層の上面も第1遺構面とした。なお、土壘は造成土IV、斜面の造成土、地山への漸移層、地山を基礎とするため、構築は造成土IVの時期であったものと考えられる。

造成土IV 平坦地1の1・2号トレンチ断面全面で確認できる。土坑3基が掘り込まれるのを断面A-A'で確認できる。当層の上面を第2遺構面として調査を行った。1号トレンチの南側の造成土IIIを確認できない範囲では、当層の上面で第1遺構面と第2遺構面の遺構を検出す。



第122図 野口城跡 トレンチ位置図

斜面の造成土 山の斜面に対して、平坦地1を造るために盛土を施した土層である。断面B-B'では、当層の上面が平坦地1の造成土IV上面と揃えられる。当層の上面も第2造構面として調査を行った。

地山への漸移層 1号トレンチのサブトレンチ北端、2号トレンチの西半部で地山直上に認められる。

地山V層と混入物がない点で土質が近似するが、しまりがない点が異なる。このため、自然堆積土層であり、地山への漸移層と考えた。しかし、堆積の認められる場所が平坦地の端部に近く、造成土IVと高さを揃える。このため、造成土IVで平坦地1を造成する際に斜面側に流れないよう事前に端部に地山を掘った土を盛土したもののが可能性がある。この場合は、造成土IVと同時期の人為的堆積土層となる。

地山V この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。今回の調査では、当層の上面から掘り込む遺構を確認しなかった。

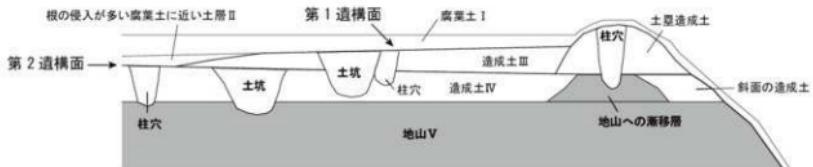
(2) 紋状堅堀群の4号トレンチ（第124図）

腐葉土 斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

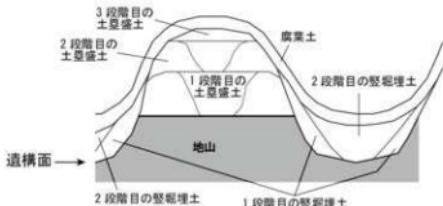
豊堀埋土 紋状堅堀群の堅堀に堆積した埋土である。大きく2層に分かれる。1段階目は早い段階に堀底の斜面下に堆積している土壌からの流れ込みと考えられる。2段階目はその後に堀の中央に堆積した土層である。褐色系の腐葉土に近い土質であるため、堀の上方や土壌など周囲の高い場所から運んだ場所に長い年月のうちに自然堆積した土層と考えられる。

土壌盛土 地表面で観察できる土壌の盛土である。3段階の盛土が認められる。1段階目は地山上層の両脇に盛土し、その窪みに充填して天端を平坦に仕上げる。2段階目も両脇に盛土し、中央の窪みに充填して天端を平坦に仕上げる。その上に最終的に盛土を施す。当層の上面が造構面である。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。土壌は当層の上層に造られ、堅堀は当層を掘り込む。堀底では地山上面が造構面である。砂粒の大きさ、根の侵入と考えられる土質の異なり等により細分できるが、地山岩盤が風化した堆積と考えられた。



第123図 野口城跡 1～3号トレンチ断面模式図



第124図 野口城跡 4号トレンチ断面模式図

4 遺構（第58～60表）

平坦地1に設定した1・2号トレンチでは、平坦地1の造成土Ⅲ上面を第1遺構面とし、複雑に切り合う柱穴と土坑を確認した。平坦地1の周囲は土塁で囲まれ、その上端で柵列を確認した。その下層では造成土Ⅳ上面から掘り込む土坑があり、第2遺構面とした。地山上層から掘り込む遺構は確認しなかった。3号トレンチでは近現代陶磁器が出土する掘り込みが認められた。

畝状堅堀群に設定した4号トレンチでは、土塁の構築技法を確認した。

(1) 平坦地1の1～3号トレンチ（第125～130図）

①第2遺構面の遺構（第126・127図）

土坑 SK143・148・156 1号トレンチ断面において、造成土Ⅳから掘り込む3基の土坑SK143（43・44層）、SK148（45～47層）、SK156（41・42層）の3基を確認した。検出範囲でSK143は径0.79m、SK148は1.80m、SK156は0.71mを測る。

北側土塁 1号トレンチの北端において確認した、幅3.6m、高さ0.2mの緩やかな盛土を北側土塁とした。上端平坦面の幅は0.8mである。盛土の地表面に10cmの大いな小礫を含む。これら的小礫は、盛土の表面に施した一部が残存したもの可能性がある。

西側土塁 2号トレンチの西端において確認した、幅1.8m、高さ0.08mの緩やかな盛土を西側土塁とした。上端の平坦面の幅は0.5mである。盛土の地表面に10cmの大いな小礫を含む。北側土塁同様、これら的小礫は、盛土の表面に施した一部が残存したもの可能性がある。

東側土塁 2号トレンチの東端において、断面で幅1.5m、0.1mの緩やかな高まりを確認し、東側土塁とした。上端の平坦面は幅1.1mである。

②第1遺構面の遺構（第126・127・129・130図、第56・57表）

1・2号トレンチの造成土Ⅲ上面の第1遺構面において、多くの柱穴と土坑、不整形を呈する不明遺構を検出した。柱穴では、平面においてSP02・SP05・SP11・SP12・SP21・SP22・SP35・SP36・SP125・SP67・SP69・SP70・SP71・SP72・SP89・SP90・SP91・SP104・SP105・SP106・SP109・SP110・SP111・SP112・SP117・SP118・SP134・SP135・SP136・SP137・SP151・SP152の切り合い関係を確認した。断面では、柱穴SP81・SP82・SP134・135・SP155・157の切り合い関係を確認した。第1遺構面においても、複数時期の遺構を検出している可能性が想定される。柱穴が並ぶ遺構として、掘立柱建物SB160、SB161、柵列SA162、SA163を確認した。

また、1号トレンチの北端で北側土塁の盛土、2号トレンチの東西端で東側土塁と西側土塁の盛土を、断面で確認した。柵列SA162は北側土塁上に、柵列SA163は西側土塁上に位置する。

掘立柱建物SB160 平坦地1の1号トレンチ南側において確認した。柱穴SP21・28・29・36の4基で構成される。南北方向の並びを確認できたが、東西方向は調査区外に及ぶ。柱間は北から2.20m、1.70m、1.70mである。主軸方位は、N-28°-Wを測る。

掘立柱建物SB161 平坦地1の1号トレンチと2号トレンチの交差点付近において確認した。柱穴SP149・121・67・02の4基で構成される。南北方向の並びを確認できたが、東西方向は調査区外に及ぶ。柱間は北から2.65m、1.20m、1.55mである。主軸方位は、N-37°-Wを測る。SP67とSP121には柱痕跡が残る。また、SP149とSP121の間に柱穴があると想定したが、検出できなかった。

北側土塁と柵列 SA162 北側土塁上端の平坦面に柵列 SA162 が位置する。柱穴 SP75・76・77 の 3 基で構成される。東西方向は調査区外に及ぶ。柱間は 1.10 m 等間である。柱穴 SP76 で平坦地 1 の上端に合わせて屈曲している。主軸方位は SP75・SP76 間で N-2° -W を測り、SP76-SP77 間で N-13° -E を測る。

西側土塁と柵列 SA163 西側土塁上端の平坦面に柵列 SA163 が位置する。柱穴 SP78・79 の 2 基で構成される。南北方向は調査区外に及ぶ。柱間は 2.00 m を測る。主軸方位は N-20° -W を測る。

東側土塁と柱穴 東側土塁は地表面に近い部分ではしまりがわるく、平面的に掘り分けることができなかつたものの、上端平坦面にあたる位置で、SP117・SP118・SP119 を検出した。これらは柵列を構成する柱穴で、北側土塁・西側土塁と同様、東側土塁にも柵列があったものと考えられる。

(4) 4 号トレンチ（第 131 図）

歛状堅堀群 4 号トレンチでは、地表面に土塁と堀を連続させる歛状堅堀群において、1 か所の堀と 1 か所の土塁を断ち割った。

土塁は地山の上層に盛土して造られている。土塁は基底部幅 2.4 m、高さ 1.1 m を測り、アーチ形となる。A-A' 断面では、3 段階の盛土工程を確認した。1 段階目は、22～24 層で東側に盛土を施し、25～27 層で西側に盛土を施し、その間の窪地となった部分に 18～21 層を充填し、天端を平坦にする。2 段階目は、16 層で東側に盛土を施し、17 層で西側に盛土を施し、その間の窪地となった部分に 14・15 層を充填し、天端を平坦にする。3 段階目は、13 層を最上層に盛土する。このように、両側を盛土した後に窪地に充填する工程を繰り返し、土塁を構築していることを確認した。

これら土塁に挟まれる堀は地山を掘削して箱堀形状となる。上端 1.9 m、下端 1.1 m を測る。埋土から、早い段階で堀の両脇が埋まり、その後に中央部分が埋まっていることを確認した。

これらの埋土は土塁からの流れ込みと考えられるため、土塁と堀底の高さは現状より高かったものと推測される。

遺物の出土はなかった。

第 56 表 野口城跡建物計測表

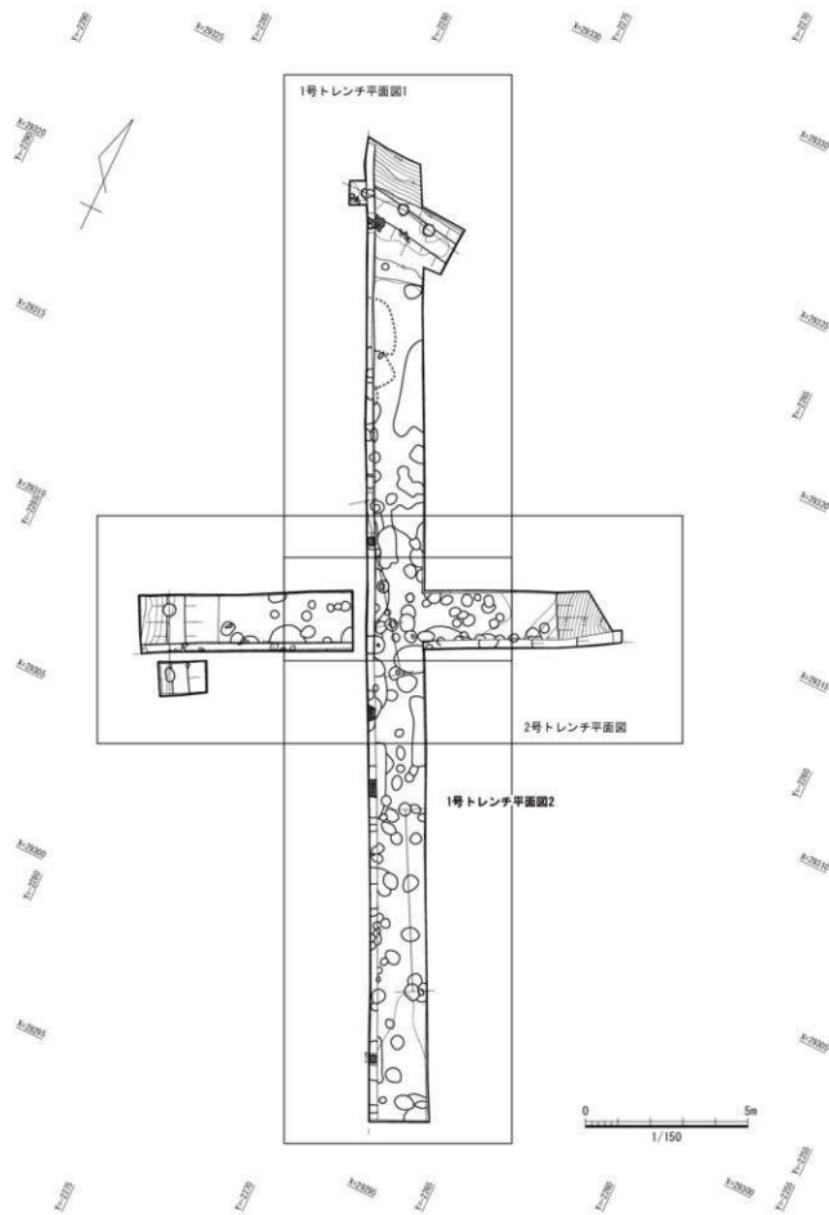
遺構名	遺構面	桁行柱間	桁行(m)	梁行柱間	梁行(m)	主軸	備考
掘立柱建物 SB160	第 1	3	5.60	—	—	N-28° -W	調査区外に及ぶ
掘立柱建物 SB161	第 1	3	5.40	—	—	N-37° -W	調査区外に及ぶ

※（ ）数値は検出長を示す

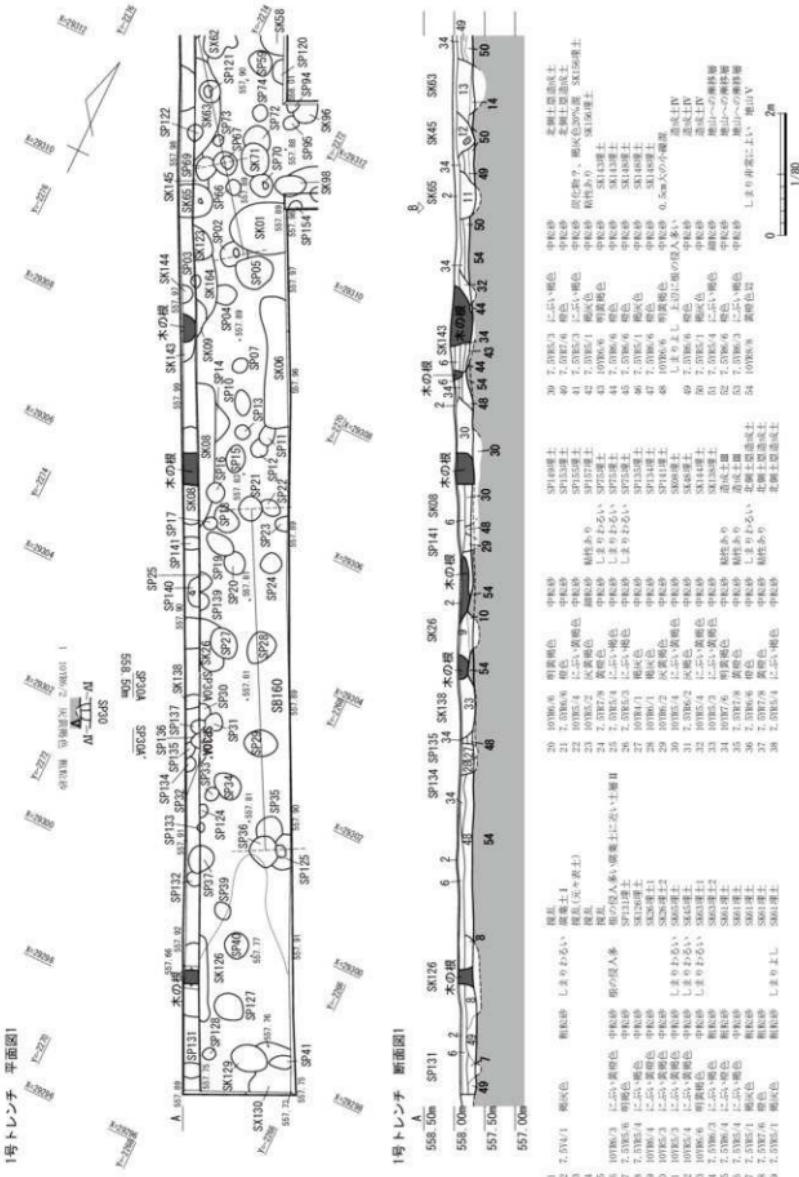
第 57 表 野口城跡柵列計測表

柵列名	遺構面	柵長柱間	柵長(m)	主軸	備考
柵列 SA162	第 1	(2)	2.20	N-2° -W/N-13° -W	北側土塁に伴う
柵列 SA163	第 1	(1)	2.00	N-20° -W	西側土塁に伴う

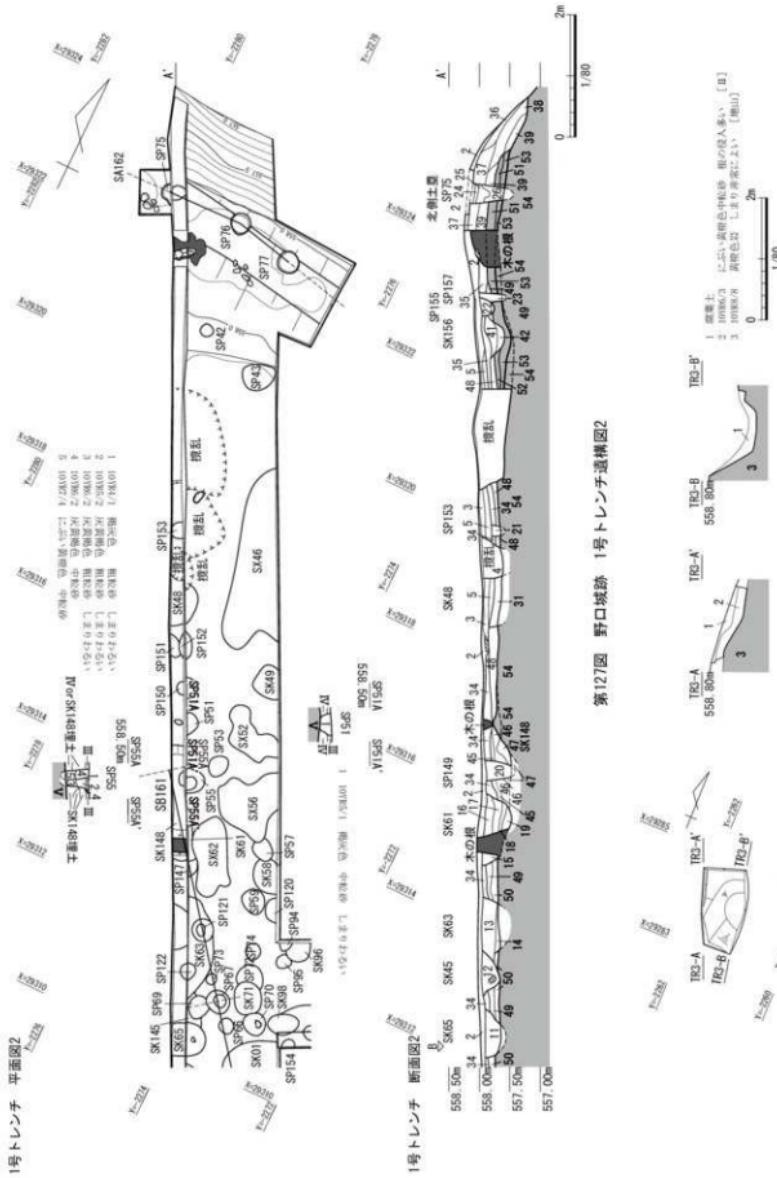
※（ ）数値は検出長を示す



第125図 野口城跡 平面割付図

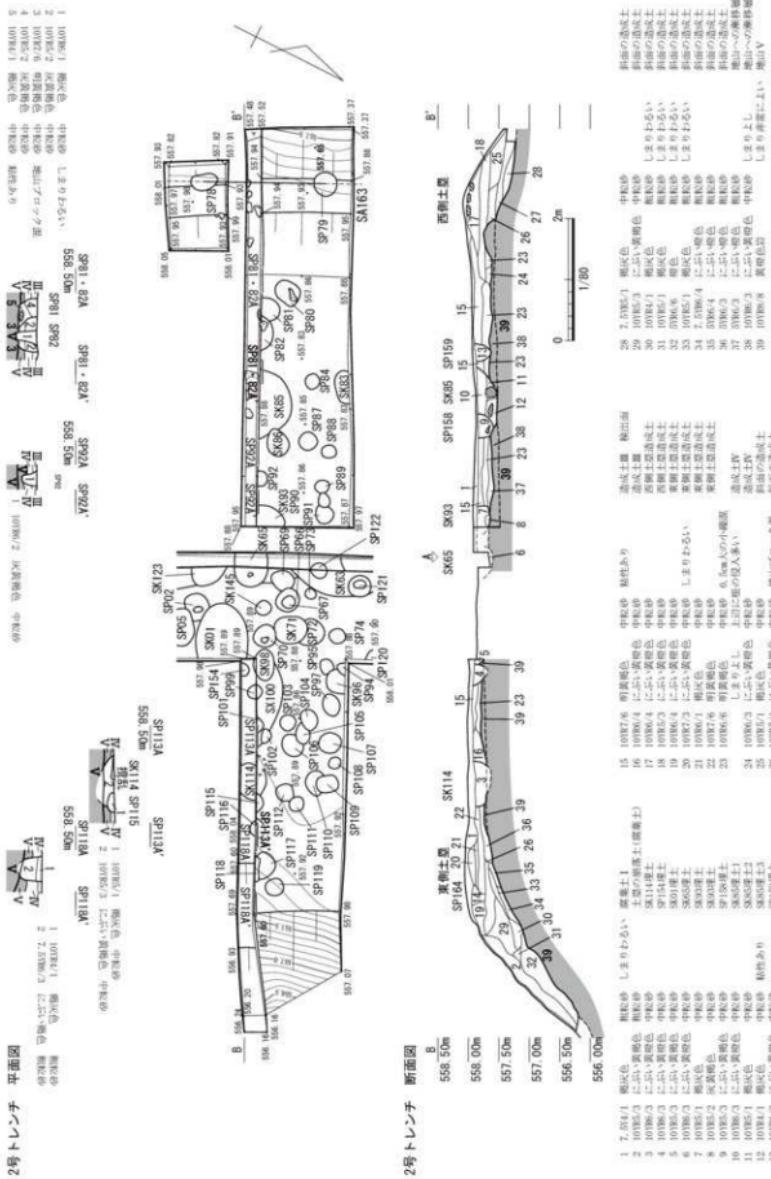


第126図 野口城跡 1号トレンチ遺構図

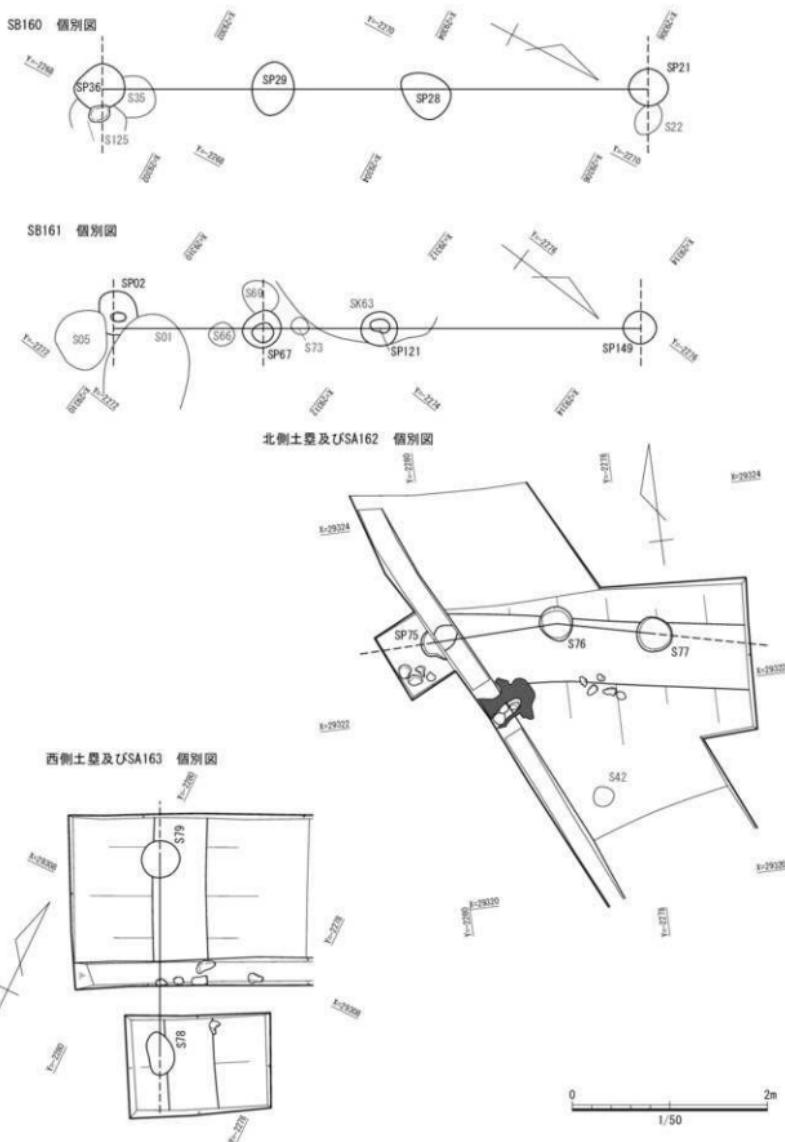


第127図 野口城跡 1号トレンチ遺構図2

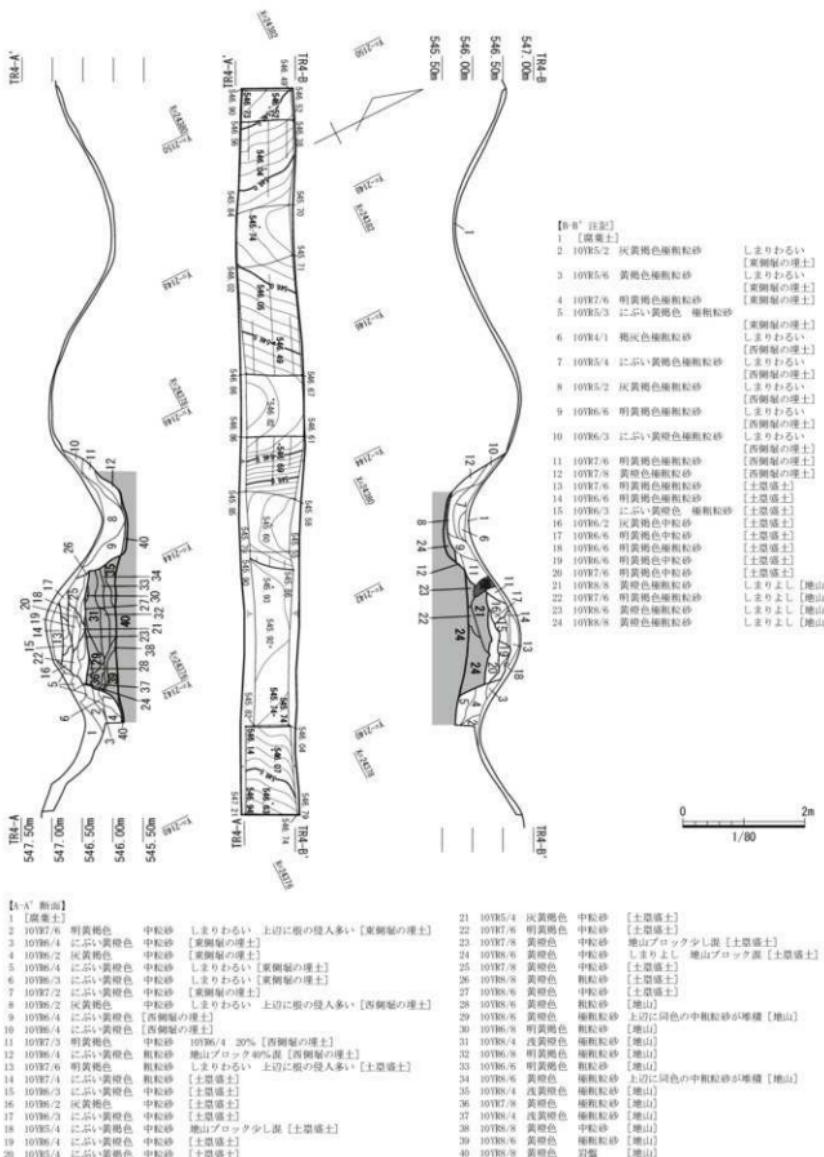
第128図 野口城跡 3号トレンチ遺構図



第129図 野口城跡 2号トレンチ遺構図



第130図 野口城跡 個別遺構図



第131図 野口城跡 4号トレンチ構造図

第58表 野口城跡土坑・柱穴等一覧表(1)

遺構記号	遺構種別	位置 トレンチ番号	横断面図	地盤形状	断面形状	平面形状	深度	法量(m)		埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
								上段					
								長径	短径				
ANG19_S8_01	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.93	0.85	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP01-SP92		
ANG19_SP_02	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.41	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP161 を構成、SP02-SP01 + SP05		
ANG19_SP_03	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.23	0.16	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP03-SP143		
ANG19_SP_04	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.33	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP04-SP143		
ANG19_SP_05	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.63	0.54	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP05-SP02		
ANG19_SK_06	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	2.16	0.46	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SK06-SP11		
ANG19_SP_07	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.24	-	灰黄色中粒砂 10185/2		
ANG19_SK_08	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	2.36	0.30	-	にらむ黄褐色中粒砂 10185/4 SK16-SP08-SP14		
ANG19_SK_09	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.63	0.15	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SK09-SP143		
ANG19_SP_10	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.42	0.25	-	黒褐色中粒砂 10183/1		
ANG19_SP_11	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.26	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SK06-SP11-SP12		
ANG19_SP_12	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.31	0.27	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP11-SP12		
ANG19_SP_13	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.23	-	灰黄色中粒砂 10185/2		
ANG19_SP_14	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.64	0.23	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP08-SP14		
ANG19_SP_15	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.31	-	灰黄色中粒砂 10185/2		
ANG19_SP_16	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.17	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SP16-SP08		
ANG19_SP_17	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.22	0.20	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP17-SP18		
ANG19_SP_18	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.49	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP17-SP18		
ANG19_SP_19	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.44	0.38	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP19-SP20		
ANG19_SP_20	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.34	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP19-SP20		
ANG19_SP_21	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.40	0.38	-	黒褐色中粒砂 10186/1 SP16 を構成、SP21-SP22		
ANG19_SP_22	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.30	0.27	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP21-SP22		
ANG19_SP_23	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.20	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4		
ANG19_SP_24	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.35	0.34	-	灰黄色中粒砂 10185/2		
ANG19_SP_25	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.32	0.20	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP25-SP129-SP140		
ANG19_SK_26	TH	1	造成土Ⅲ	單	半円	円	-	0.83	0.39	0.30	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP26-SP27		
ANG19_SP_27	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.50	0.15	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP26-SP27		
ANG19_SP_28	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.53	0.47	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP169 を構成		
ANG19_SP_29	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.54	0.43	-	黒褐色中粒砂 10184/1 SP169 を構成、地山ブロック面		
ANG19_SP_30	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.28	0.18	0.23	灰黄色中粒砂 10186/2 SP30-SP31		
ANG19_SP_31	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.29	0.28	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP30-SP31		
ANG19_SP_32	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.35	0.11	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP32-SP136		
ANG19_SP_33	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.22	0.22	-	にらむ黄褐色中粒砂 10186/4 SP33-SP34		
ANG19_SP_34	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.43	-	灰黄色中粒砂 10185/2 SP33-SP34		
ANG19_SP_35	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.42	-	黒褐色中粒砂 10185/1 SP36-SP125-SP135		
ANG19_SP_36	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.53	0.45	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SP169 を構成、SP36-SP125-SP135		
ANG19_SP_37	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.41	-	黒褐色中粒砂 10185/1 SP37-SP132		
ANG19_欠番			-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19_SP_39	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.29	0.27	-	黒褐色中粒砂 10185/1 -		
ANG19_SP_40	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.39	-	灰黄色中粒砂 10185/2 -		
ANG19_SP_41	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.35	0.22	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SP41-SP130		
ANG19_SP_42	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.23	0.20	-	にらむ黒褐色中粒砂 7.5185/4 -		
ANG19_SP_43	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.54	0.51	-	にらむ黒褐色中粒砂 7.5185/4 -		
ANG19_捲乱	44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19_SK_45	TH	1	造成土Ⅲ	單	四角	円	0.47	-	0.20	にらむ黒褐色中粒砂 7.5185/4 -	10185/4 SK45-SP063		
ANG19_SK_46	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	2.96	0.92	-	黒褐色中粒砂 10183/1 -	10185/1		
ANG19_捲乱	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19_SK_48	TH	1	造成土Ⅲ	單	半円	円	0.76	0.44	0.12	黒褐色中粒砂 7.5186/2 -	10186/2		
ANG19_SK_49	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	0.57	0.41	-	黒褐色中粒砂 10183/1 -	10185/1		
ANG19_欠番	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19_SP_51	TH	1	造成土Ⅲ	單	搖錘	不定	-	0.35	0.33	0.18	黒褐色中粒砂 10185/1 -	10185/1	
ANG19_SK_52	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	-	0.94	0.80	-	黒褐色中粒砂 10183/1 -	10183/1	
ANG19_SP_53	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.33	0.32	-	黒褐色中粒砂 10183/1 -	10183/1	
ANG19_欠番	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19_SP_55	TH	1	造成土Ⅲ	柱痕跡	平坦	円	-	0.39	0.30	0.44	黒褐色中粒砂 10183/1 SP56-SP57	10183/1	
ANG19_SK_56	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	不定	1.14	0.98	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SP56-SP57	10183/1		
ANG19_SP_57	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.33	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SP56-SP57/SP58	10183/1	
ANG19_SK_58	TH	1	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.57	0.38	-	黒褐色中粒砂 10183/1 SP56-SP57	10183/1	

第59表 野口城跡土坑・柱穴等一覧表(2)

調査記号	遺構種別	遺構番号	位置 トレンチ 番号	柱穴面 深度 基盤 深さ	断面形状	平面形状	表面状況	法量(m)			堆土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
								上端		深さ				
								長径	短径					
ANG19	SP	59	TR	1	造成土Ⅲ	-	-	円	0.42	0.37	-	褐色中粒砂	10YR5/1 -	
ANG19	欠番	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ANG19	SK	61	TR	1	造成土Ⅲ	中央凹	半円	不定	-	0.88	0.13	0.49	にぶい褐色粗粒砂 にぶい褐色中粒砂 にぶい褐色細粒砂 褐色粗粒砂 褐色中粒砂	7, S9R6/4 7, S9R5/4 7, S9R6/5 S9R2-S9R1-S9R147
ANG19	SK	62	TR	1	造成土Ⅲ	-	不定	-	1.31	0.62	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1-S9R2-S9R147-S9R149	
ANG19	SK	63	TR	1・2	造成土Ⅲ	水平	半円	円	-	0.74	0.22	0.40	黒褐色中粒砂 にぶい褐色粗粒砂	10YR5/6 7, S9R6/3 -
ANG19	欠番	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ANG19	SK	65	TR	1・2	造成土Ⅲ	單	半円	円	-	0.56	0.54	0.25	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/3-S9R5-SK145
ANG19	SP	66	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.26	0.24	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2 -
ANG19	SP	67	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.21	0.20	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2-SB166を構成
ANG19	欠番	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ANG19	SP	69	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.38	0.33	-	褐色中粒砂	10YR5/1-S9R5-SK145
ANG19	SP	70	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.36	-	褐色中粒砂	10YR5/1-S9T7
ANG19	SK	71	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.54	0.44	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-S9T7-S9T1-S9T2
ANG19	SP	72	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.41	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2-SK71-SP72
ANG19	SP	73	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.18	0.17	-	褐色中粒砂	10YR5/1 -
ANG19	SP	74	TR	1・2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.27	0.24	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1 -
ANG19	SP	75	TR	1	土壠造城土	柱痕跡	不定	■	0.39	0.35	0.70	黒褐色中粒砂 にぶい褐色中粒砂 にぶい褐色細粒砂	7, S9R7/8 7, S9R5/4 7, S9R5/3 -	
ANG19	SP	76	TR	1	土壠造城土	-	-	円	-	0.35	0.32	-	黒褐色中粒砂	7, S9R7/6 -
ANG19	SP	77	TR	1	土壠造城土	-	-	円	-	0.36	0.35	-	黒褐色中粒砂	7, S9R7/8 -
ANG19	SP	78	TR	2	土壠造城土	-	不定	-	0.44	0.28	-	明黒褐色中粒砂	10YR5/6-S9R6を構成、SP76-土壠 柱ありなし	
ANG19	SP	79	TR	2	土壠造城土	-	-	円	-	0.39	0.38	-	褐色中粒砂	10YR5/1-SB166を構成、SP79-土壠
ANG19	SP	80	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.43	0.41	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4 -
ANG19	SP	81	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.38	0.29	0.32	灰黒褐色中粒砂 褐色中粒砂	10YR5/2-SP81-SP82
ANG19	SP	82	TR	2	造成土Ⅲ	柱痕跡	柱跡	円	-	0.58	0.26	0.29	褐色中粒砂 褐色中粒砂 褐色中粒砂 明黒褐色中粒砂	10YR5/1-S9R5-SP82 10YR5/2-S9R7/6
ANG19	SK	83	TR	2	造成土Ⅲ	-	不定	-	0.54	0.24	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4 -	
ANG19	SP	84	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.23	-	褐色中粒砂	10YR5/1 -
ANG19	SK	85	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	1.14	0.54	0.32	にぶい黒褐色中粒砂 黒褐色中粒砂	10YR5/3-SK86
ANG19	SP	86	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.45	0.36	-	灰黒褐色中粒砂 褐色中粒砂	10YR5/2-SK85-SK86
ANG19	SP	87	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.30	0.30	-	褐色中粒砂	10YR5/1 -
ANG19	SP	88	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.23	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4 -
ANG19	SP	89	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.22	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-SP99
ANG19	SP	90	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.18	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1-SP98-SP90-SP91
ANG19	SP	91	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.30	0.29	-	褐色中粒砂	10YR5/1-SP90-SP91
ANG19	SP	92	TR	2	造成土Ⅲ	柱跡	柱跡	円	■	0.24	0.16	0.24	灰黒褐色中粒砂 褐色中粒砂	10YR5/2 -
ANG19	SK	93	TR	2	造成土Ⅲ	単	方	円	■	0.46	0.34	0.20	灰黒褐色中粒砂 褐色中粒砂	10YR5/1- 10YR5/2-S9R5-SP92
ANG19	SP	94	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.20	0.13	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1-SP94-S9R6-SP95
ANG19	SP	95	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.25	0.22	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-SP94-S9R6-SP95
ANG19	SP	96	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.40	0.30	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2-SP94-S9R6-SP95
ANG19	SP	97	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.36	0.28	-	褐色中粒砂	10YR5/1 -
ANG19	SP	98	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.51	0.34	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-SK98-SX190
ANG19	SP	99	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.24	-	褐色中粒砂	10YR5/1-SP99-SX190
ANG19	SP	100	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	1.49	0.44	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/2-SK98-SX190-SP99+SP101+SP102
ANG19	SP	101	TR	2	造成土Ⅲ	-	不定	-	0.29	0.11	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1-SK98-SX190-SP99+SP101+SP102	
ANG19	SP	102	TR	2	造成土Ⅲ	-	不定	-	0.24	0.16	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1 -	
ANG19	SP	103	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.26	0.26	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-SP104-SP105-SP106
ANG19	SP	104	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.34	0.28	-	にぶい黒褐色中粒砂	SP104-SP105-SP106
ANG19	SP	105	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.35	0.23	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2-SP104-SP105-SP106
ANG19	SP	106	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.36	0.35	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-SP104-SP105-SP106
ANG19	SP	107	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.37	0.33	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2 -
ANG19	SP	108	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.29	0.18	-	灰黒褐色中粒砂	10YR5/2 -
ANG19	SP	109	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.36	0.28	-	黒褐色中粒砂	10YR5/1-SP109-SP110
ANG19	SP	110	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.41	0.30	-	褐色中粒砂	10YR5/1-SP109-SP110
ANG19	SP	111	TR	2	造成土Ⅲ	-	-	円	-	0.24	0.24	-	にぶい黒褐色中粒砂	10YR5/4-SP111-SP112

第60表 野口城跡土坑・柱穴等一覧表(3)

遺跡記号	遺跡種別	遺跡番号	トレンチ番号	位置	横断面	堆積状況	断面形状	平面形状	法量(m)		埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
									上端					
									長径	短径				
ANG19 SP 112	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.29	0.26	-	黒褐色中粘砂	10W3/1 SP111~SP112		
ANG19 横丸	113	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SK114~SP115		
ANG19 SK 114	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.60	0.41	0.17	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/1 SK114~SP115		
ANG19 SP 115	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.32	0.11	0.11	黒褐色中粘砂	10W5/1 SK114~SP115		
ANG19 SP 116	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.35	0.24	-	黒褐色中粘砂	10W5/1 -		
ANG19 SP 117	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.44	0.31	0.35	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/4 SP117~SP118		
ANG19 SP 118	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	方	0.41	0.08	0.35	黒褐色中粘砂	10W4/1 SP117~SP118		
ANG19 SP 119	TR	2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.30	0.21	-	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/3 -		
ANG19 SP 120	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.43	0.18	-	黒褐色中粘砂	10W5/1 -		
ANG19 SP 121	TR	1~2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.20	0.15	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 SP160を構成		
ANG19 SP 122	TR	1~2		造成土Ⅲ	-	-	円	0.28	0.25	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SK 123	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.58	0.31	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 124	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.22	0.13	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 125	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.56	0.30	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 SP36~SP125~SP35		
ANG19 SK 126	TR	1		造成土Ⅲ	单	半円 不定	1.42	0.42	0.17	にぶい黒褐色中粘砂	7.5W5/4 -			
ANG19 SP 127	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.47	0.44	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 128	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.21	0.19	-	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/4 -		
ANG19 SK 129	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.58	0.44	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 SP41~SX136~SK129		
ANG19 SK 130	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	不定	0.93	0.68	-	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/4 SP41~SX136~SK129		
ANG19 SP 131	TR	1		造成土Ⅲ	单	椭球	円	0.25	0.25	0.23	明褐色中粘砂	7.5W5/6 SP131~SK136		
ANG19 SP 132	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.24	0.20	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 S37~S132		
ANG19 SP 133	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.16	0.12	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 134	TR	1		造成土Ⅲ	单	椭球	円	0.24	0.15	0.19	明褐色中粘砂	10W6/1 S134~S135		
ANG19 SP 135	TR	1		造成土Ⅲ	单	椭球	円	0.27	0.14	0.18	褐褐色中粘砂	10W4/1 S134~S135~S136		
ANG19 SP 136	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.32	0.20	-	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/4 SP32~SP136		
ANG19 SP 137	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.23	0.12	-	灰褐色中粘砂	10W6/2 -		
ANG19 SK 138	TR	1		造成土Ⅲ	单	半円	円	0.24	0.21	0.22	にぶい黄褐色中粘砂	10W5/3 -		
ANG19 SP 139	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.36	0.15	-	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/4 SP25~SP139~SP140		
ANG19 SP 140	TR	1		造成土Ⅲ	-	-	円	0.49	0.18	-	褐褐色中粘砂	10W5/1 SP25~SP139~SP140		
ANG19 SP 141	TR	1		造成土Ⅲ	单	椭球	円	0.23	0.21	0.11	にぶい黄褐色中粘砂	10W5/3 -		
ANG19 欠番	142	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19 SK 143	TR	1		造成土IV	-	-	不定	0.79	0.20	0.23	-	SP03~SP09~SK143~SP04		
ANG19 SK 144	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	円	0.39	0.18	0.24	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/4 -		
ANG19 SK 145	TR	1~2		造成土Ⅳ	-	-	不定	0.61	0.50	-	-	SK65~SP65~SK145		
ANG19 欠番	146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19 SP 147	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	不定	0.26	0.15	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 SP147~SP61~SM62		
ANG19 SK 148	TR	1		造成土IV	-	-	不定	1.80	0.27	-	-	SK148~SP55~SP61~SM62~SP122~SP147		
ANG19 SP 149	TR	1		造成土Ⅳ	单	椭球	-	1.89	0.27	0.46	灰褐色中粘砂	10W5/2 SP160を構成		
ANG19 SP 150	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	円	0.35	0.33	-	-	分離できず		
ANG19 SP 151	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	円	0.38	0.16	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 152	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	円	0.46	0.21	-	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 153	TR	1		造成土Ⅳ	单	椭球	円	0.30	0.30	0.21	褐色中粘砂	7.5W6/6 -		
ANG19 SP 154	TR	2		造成土Ⅳ	-	-	円	0.21	0.12	0.12	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/3 -		
ANG19 SK 155	TR	1		土壤造成土	单	椭球	-	0.28	-	0.21	にぶい黄褐色中粘砂	10W5/4 SP155~SK156		
ANG19 SK 156	TR	1		造成土IV	中央回 半円	-	-	0.71	-	0.31	褐色中粘砂	7.5W5/1 SP155~SK156		
ANG19 SP 157	TR	1		土壤造成土	单	椭球	-	0.12	-	0.04	灰褐色中粘砂	10W5/2 -		
ANG19 SP 158	TR	2		造成土Ⅳ	单	椭球	-	0.27	-	0.18	にぶい黄褐色中粘砂	10W5/3 -		
ANG19 SP 159	TR	2		造成土Ⅳ	单	椭球	-	0.28	-	0.26	にぶい黄褐色中粘砂	10W6/3 -		
ANG19 SB 160	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19 SB 161	TR	1~2		造成土Ⅳ	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19 SA 162	TR	1		造成土Ⅳ	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19 SA 163	TR	2		造成土Ⅳ	-	-	-	-	-	-	-	-		
ANG19 SP 164	TR	2		土壤造成土	单	椭球	-	-	-	-	-	[2号]トレンチ断面14層		

5 遺物（第132・133図、第61～64表）

造成土Ⅳ 土師器皿が8点出土し、6点図示した。78～83は土師器皿である。78～80は内外面全面にナデを施し、4類に属する。79は内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。81～83は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。81の外面底部に指頭圧痕がうすく残る。

土坑SK143 土師器皿が2点出土し、2点図示した。84は内外面全面にナデを施し、4類に属する。85は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整で指頭圧痕が残り、5類に属する。

土壘盛土 北側土壘から土師器が1点と不明土器が1点、東側土壘から土師器が1点、西側土壘から土師器が7点出土し、西側土壘から出土した土師器皿3点を図示した。86・87は内外面にナデを施す。4類に属する。86の口縁部、87の内面に煤が付着し、ともに灯明皿として使用されたと考えられる。88は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。

造成土Ⅲ 土師器皿が3点出土し、1点図示した。89は内外面にナデを施し、4類に属する。

柱穴 土師器皿が37点、瀬戸美濃焼が1点、貿易陶磁器が1点、金属製品が1点出土し、土師器皿20点、瀬戸美濃焼1点、中国製天目茶碗1点、金属製品1点を図示した。

SP15から土師器皿90が出土した。内面にナデを施し、外面は未調整であり、6類に属する。SP31から土師器皿91が出土した。内外面が摩滅する。SP39から土師器皿92が出土した。内外面が摩滅する。SP39から土師器皿93が出土した。内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。SP40から土師器皿94が出土した。内外面が摩滅する。内外面の口縁部に煤・タールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。SP41から土師器皿95が出土した。内外面にナデを施し、外面底部は摩滅する。4類に属する。SP80から土師器皿96が出土した。内面全面に一定方向ナデを施し、外面にもナデを施す。4類に属する。SP82から土師器皿97～99が出土した。97・98は内外面にナデを施し、4類に属する。99は内外面摩滅する。SP95から土師器皿100が出土した。内外面にナデを施し、4類に属する。SP107から土師器皿101・102が出土した。101は内外面にナデを施し、4類に属する。102は内面と外面口縁部にヨコナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。SP118から土師器皿103が出土した。内外面にナデを施し、4類に属する。口縁部内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。SP120から天目茶碗104が出土した。口縁部が屈曲し、短く立ち上がる。黒色の鉄釉を内外面に施す。胎土が灰色を呈し、中国製のものと考えられる。SP122から土師器皿105・106が出土した。ともに内外面にナデを施し、4類に属する。SP124から金属製品107が出土した。円形を呈するものの破片と考えられたが、全体形状は知りえなかつた。SP127から土師器皿108が出土した。内面にナデを施し、外面未調整である。5類か6類に属する。SP131から土師器皿109が出土した。内外面にナデを施す。4類に属する。SP141から土師器皿110、瀬戸美濃焼の端反皿111が出土した。110は内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。111は灰白色の灰釉を内外面に施す。貫入が目立つ。体部が丸みを持ち、口縁部がゆるやかに外反する。大窯第1段階のものと考えられる。SP159から土師器皿112が出土した。内面にナデを施し、外面は摩滅する。

土坑 土師器皿が37点、金属製品が2点出土し、土師器皿22点、古銭1点、鉄釘1点を図示した。SK08から土師器皿113・114・115、古銭116が出土した。113は内外面にナデを施し、4類に属する。114は内面にナデを施し、外面未調整であり、6類に属する。115は内外面摩滅する。116は1/2を欠損する古銭であり、「寶」の字のみ判読できる。SK26から土師器皿117・118・119・120が出土した。

117は内外面にナデを施し、4類に属する。118は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。119は内面にナデを施し、外面摩滅する。内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。120は内外面摩滅する。SK61からは土師器皿121～125が出土した。121は内外面にナデを施し、4類に属する。122・123は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。122は内外面に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。124・125は底部破片である。124は内面にナデを施し、外面摩滅する。125は内外面摩滅する。ともに内面に煤が付着する。SK63から土師器皿126～131が出土した。126は内外面にナデを施し、4類に属する。127・128は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。129・130・131は内面にナデを施し、外面未調整であり、6類に属する。SK85からは土師器皿132・133が出土した。ともに内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。SK138からは土師器皿134・135が出土した。134は内面にナデと指頭圧痕が残り、外面は未調整である。6類に属する。口縁部にタールが付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。135は内外面摩滅する。SK156からは鉄釘136が出土した。頭部が欠損する。

不明遺構 SX62から土師器皿137が出土し、図示した。137は内面が摩滅し、外面にナデを施す。4類に属する。口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

1号トレンチ腐葉土直下 1号トレンチでの検出作業中に土師器皿が30点、古銭が1点出土し、土師器皿11点、古銭1点を図示した。

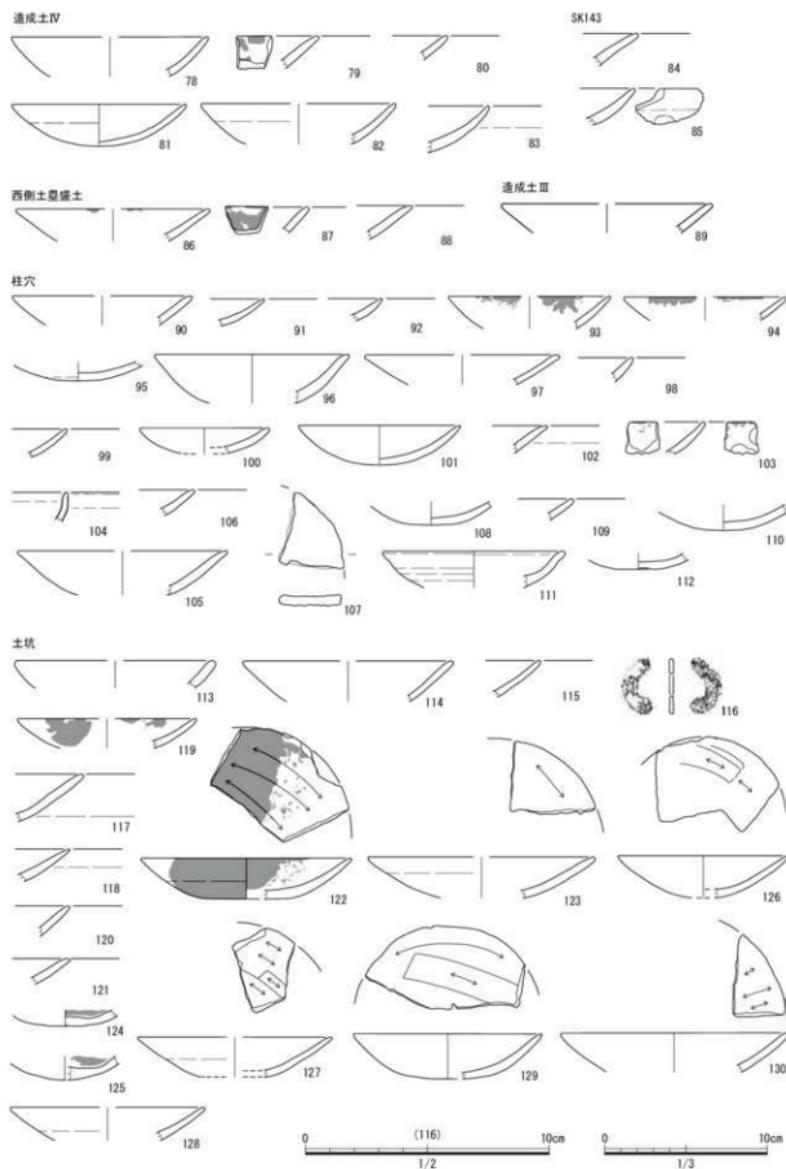
138～148は土師器皿である。138～140は口縁部破片であり、内外面にナデを施す。4類に属する。141は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整であり、5類に属する。142・143は内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。144～146は内面にナデを施し、外面は摩滅する。4～6類に属する。147・148は内外面が摩滅する。138は内外面の口縁部、142は外面に、147は外面口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。149は古銭であり、咸平元宝である。北宋銭であり、初鑄年998年である。

2号トレンチ腐葉土直下 2号トレンチでの検出作業中に土師器皿が9点出土し、2点を図示した。150・151は土師器皿である。150は内面にナデを施し、外面未調整である。6類に属する。151は内外面摩滅する。

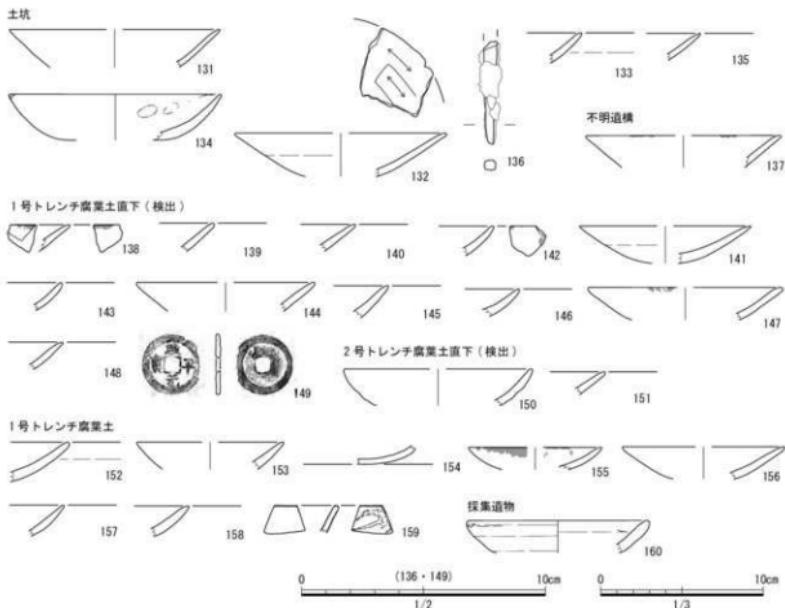
1号トレンチ腐葉土 土師器35点、青磁2点、鉄片1点が出土し、土師器皿7点、青磁碗1点を図示した。152～158は土師器皿である。152・153は内面と外面口縁部にナデを施し、外面下半部は未調整である。5類に属する。154は体部から底部にかけての破片である。内面にナデを施し、外面未調整であり、5類か6類に属する。155～158は内面にナデを施し、外面は摩滅する。155は内外面の口縁部に煤が付着し、灯明皿として使用されたと考えられる。

159は青磁碗である。外面に花文を施す。釉の発色が明るい。

採集遺物 土師器皿7点、瀬戸美濃焼1点、珠洲焼1点を採集し、瀬戸美濃焼1点を図示した。160は瀬戸美濃焼の縁釉小皿である。灰白色の灰釉を口縁部外面直下まで施す。このため、古瀬戸後IV期(新)のものと考えられる。



第132図 野口城跡 平坦地1の1・2号トレンチ出土遺物図(1)



第133図 野口城跡 平坦地1の1・2号トレンチ出土遺物図(2)

第61表 野口城跡出土遺物一覧表

造 模 面	土層	土師器皿						瀬戸美濃					珠洲	青磁	白磁	染付	金屬	その 他	合計	
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反	天目	すり鉢	その他								
第2	造成土IV	-	3	3	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	
追模	土坑 SK143	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
第1	土壘底土	-	2	1	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
	造成土Ⅲ	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	
追模	柱穴	-	10	2	2	-	23	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	40	
	土坑	-	4	6	5	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	39	
	不明追模	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
近世 以降	1号トレンチ腐葉土直下	-	3	1	2	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	31	
	2号トレンチ腐葉土直下	-	-	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	
	1号トレンチ腐葉土	-	-	1	-	-	34	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	38	
	採集遺物	-	-	-	-	-	7	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	9	
	合計	0	25	15	10	0	128	0	1	0	0	1	1	2	0	0	0	5	2	190
			178				2								0					

第62表 野口城跡出土遺物観察表(1)

遺物 番号	層位	トレン チ	種別	器種	法規 (ca. 損傷内は推定)		色調			成形・文様等	捲 因 書 番 号	
					口径	底径	器高	内面	外面	断面		
78	造出土 IV	1	土師器	瓶	12.0	—	2.4	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR8/3にぶい黄 褐色	10YR8/3浅黄褐色	内外面ナデ 4型	132
79	造出土 IV	1	土師器	瓶	—	—	2.0	10YR6/1褐灰色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR5/2浅黄褐色	内外面ナデ 内面僅付着 4型	132
80	造出土 IV	1	土師器	瓶	—	—	1.5	2.5YR3淡黄色	2.5YR3淡黄色	2.5YR3淡黄色	内外面ナデ 4型	132
81	造出土 IV	1	土師器	瓶	(10.8)	—	2.6	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色	内外面ナデ 4型	132
82	造出土 IV	1	土師器	瓶	(12.0)	—	2.6	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	内外面ナデ 外面下 ナメ付下部下端調整 指サエ 5型	132
83	造出土 IV	1	土師器	瓶	—	—	2.8	10YR8/1浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	内外面ナデ 不調整 内面 ナデ 5型	132
84	SK43	1	土師器	瓶	—	—	2.9	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	内外面ナデ 4型	132
85	SK43	1	土師器	瓶	—	—	2.2	2.5YR3淡黄色	2.5YR3淡黄色	2.5YR3淡黄色	内外面ナデ 外面下 ナメ付下部下端調整 指サエ 5型	132
86	T2土壁 埴生	2	土師器	瓶	(12.0)	—	2.9	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	内外面ナデ 備付有 4 型 灯明付	132
87	T2土壁 埴生	2	土師器	瓶	—	—	(1.4)	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR6/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面ナデ 4型 灯明	132
88	T2土壁 埴生	2	土師器	瓶	—	—	2.1	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	内外面ナデ 不調整 内面 ナデ 5型	132
89	造出土 四	1	土師器	瓶	(13.0)	—	1.8	2.5YR/2灰白色	2.5YR/2灰白色	2.5YR/2灰白色	内外面ナデ 4型	132
90	SP15	1	土師器	瓶	(11.0)	—	1.8	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面ナデ 4型	132
91	SP31	1	土師器	瓶	(7.0)	—	(1.2)	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面摩滅	132
92	SP39	1	土師器	瓶	—	—	(1.4)	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面摩滅	132
93	SP39	1	土師器	瓶	(10.0)	—	2.0	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面摩滅 不ナメ	132
94	SP40	1	土師器	瓶	(10.0)	—	1.4	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面摩滅 のため調整不 明 備付有 灯明付	132
95	SP41	1	土師器	瓶	—	—	1.2	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面摩滅	132
96	SP80	2	土師器	瓶	(12.0)	—	(3.5)	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面摩滅 内面端方に ナデ 4型	132
97	SP82	2	土師器	瓶	(12.0)	—	1.8	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	内外面ナデ 4型	132
98	SP82	2	土師器	瓶	—	—	1.3	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面ナデ 4型	132
99	SP82	2	土師器	瓶	—	—	1.8	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面摩滅	132
100	SP95	2	土師器	瓶	(8.0)	2.6	(1.6)	10YR8/1淡黄色	10YR8/1淡黄色	10YR8/1淡黄色	内外面ナデ 4型	132
101	SP107	2	土師器	瓶	(10.0)	—	2.4	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面ナデ 4型	132
102	SP107	2	土師器	瓶	—	—	1.9	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	内外面ナデ 下部左端 調整	132
103	SP118	2	土師器	瓶	—	—	1.95	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	内外面ナデ 口沿部に 摩滅 板付有 灯明付	132
104	SP120	1	中空製陶 器	日干茶碗	—	—	1.8	10YR2/1黒色	10YR2/1黒色	5YR1/1灰色	内外面鉄錆 ロクロナデ	132
105	SP122	1	土師器	瓶	(13.0)	—	2.7	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色	10YR8/2灰白色	内外面ナデ 4型	132
106	SP122	1	土師器	瓶	—	—	1.6	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面ナデ 4型	132
107	SP124	1	金属製品	不明	4.7	4.1	5.5	—	—	—	—	132
108	SP127	1	土師器	瓶	—	—	1.4	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面調整 内面ナデ 3点6型	132
109	SP131	1	土師器	瓶	—	—	1.4	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面ナデ 4型	132
110	SP141	1	土師器	瓶	—	—	1.6	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面調整 内面ナデ 4点6型	132
111	SP141	1	漆戸美濃 漆	漆戸美濃	(11.2)	—	2.2	2.5YR/2灰白色	2.5YR/2灰白色	2.5YR/2灰白色	内外面施錆 貢人 大業	132
112	SP159	2	土師器	瓶	—	—	(1.0)	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面摩滅 内面ナデ	132
113	SK08	1	土師器	瓶	(12.0)	—	1.7	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面ナデ 4型	132
114	SK08	1	土師器	瓶	(13.0)	—	2.5	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	2.5YR/3淡黄色	内外面調整 内面ナデ 5点6型	132
115	SK08	1	土師器	瓶	—	—	2.2	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面摩滅 のため調整不 明	132
116	SK08	1	金属製品	占銭	2.35	1.3	1.5	—	—	—	—	132
117	SK26	1	土師器	瓶	—	—	2.9	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	内外面ナデ 内面ナデ 4 型	132

第63表 野口城跡出土遺物觀察表(2)

遺物 番号	層位	トレン チ	種別	器種	(凡 ては 器内に 推定)			色調			成形・文様等	種 類 番 号	國 版 番 号		
					口径	底径	脚高	内面	外面	断面					
118	SK26	1	土師器	瓶	—	—	2.0	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	内外面ナデ 調整 5幅	外曲面下部未 調整	132	—	
119	SK26	1	土師器	瓶	(11.0)	—	1.8	2. 5YR/2灰白色	2. 5YR/2灰白色	2. 5YR/2灰白色	内外面側部に 各面摩擦の ため表面不整 内外面ナ デ 4~6幅	外曲面側部に 各面摩擦の ため表面不整 内外面ナ デ 4~6幅	132	—	
120	SK26	1	土師器	瓶	—	—	1.6	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR8/4浅黄褐色	内外面ナデ	外曲面下部未 調整	132	37	
121	SK61	1	土師器	瓶	—	—	(2.1)	10YR7/3浅黄褐色	10YR7/3浅黄褐色	10YR7/3浅黄褐色	内外面ナ デ 4幅	内外面ナデ	132	—	
122	SK61	1	土師器	瓶	(13.0)	—	2.5	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	内外面側部に 各面摩擦の ため表面不整 内外面ナ デ 5幅	外曲面側部に 各面摩擦の ため表面不整 内外面ナ デ 5幅	132	37	
123	SK61	1	土師器	瓶	(14.0)	—	2.5	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/4淡黄色	内外面ナ デ 5幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 5幅	132	37	
124	SK61	1	土師器	瓶	—	—	1.0	10YR7/3黑褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内外面ナ デ 5幅	外曲面底部の 凹凸摩擦不明 内曲面のため 表面不整不明 内外面ナ デ 5幅	132	—	
125	SK61	1	土師器	瓶	—	—	1.9	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	内外面ナ デ 4幅	外曲面底部の 凹凸摩擦不明 内曲面のため 表面不整不明 内外面ナ デ 4幅	132	—	
126	SK63	1	土師器	瓶	(10.4)	2.3	2.0	10YR8/2灰白色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR8/3浅黄褐色	内外面ナ デ 4幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 4幅	132	37	
127	SK63	1	土師器	瓶	—	—	2.4	10YR7/1灰白色	10YR8/2灰白色	10YR7/2にぶい黄 褐色	内外面ナ デ 5幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 内曲面横方向ナ デ 5幅	132	—	
128	SK63	1	土師器	瓶	(12.0)	—	2.1	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 内曲面ナ デ 5幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 内曲面ナ デ 5幅	132	—	
129	SK63	1	土師器	瓶	(11.6)	—	2.8	2. 5YR/2灰白色	2. 5YR/2灰白色	2. 5YR/2灰白色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	132	37	
130	SK63	1	土師器	瓶	(14.0)	—	2.4	2. 5YR/1灰白色	2. 5YR/1灰白色	2. 5YR/1灰白色	外曲面未調整 内曲面方向ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面方向ナ デ 6幅	132	37	
131	SK63	1	土師器	瓶	—	—	2.3	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
132	SK85	2	土師器	瓶	(13.0)	—	2.7	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 6幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 6幅	133	—	
133	SK85	2	土師器	瓶	—	—	2.9	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 6幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 6幅	133	—	
134	SK138	1	土師器	瓶	(12.8)	7.0	2.4	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	外曲面底部にツール 等による摩耗 内曲面側部 ナード	外曲面底部にツール 等による摩耗 内曲面側部 ナード	133	—	
135	SK138	1	土師器	瓶	—	—	1.7	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	内曲面摩擦 内曲面ナ デ 6幅	内曲面摩擦 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
136	SK156	1	金属製品	釘	4.2	0.5	0.4	—	—	—	—	—	—	133	—
137	SK62	1	土断器	瓶	(12.0)	—	2.0	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	外曲面底部に 保有者ナ デ内曲面保有 者ナ デのため 表面不整 内曲面ナ デ 4幅	外曲面底部に 保有者ナ デ内曲面保有 者ナ デのため 表面不整 内曲面ナ デ 4幅	133	—	
138	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	1.7	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR8/4浅黄褐色	10YR8/4浅黄褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4幅	133	—	
139	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	1.7	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4幅	133	—	
140	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	1.7	10YR8/4浅黄褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	外曲面下部ナ デ 体部摩 擦のため表面不 整 内曲面ナ デ 4幅	外曲面下部ナ デ 体部摩 擦のため表面不 整 内曲面ナ デ 4幅	133	—	
141	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	(10.0)	—	2.3	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 5幅	外曲面下部ナ デ 体部丸 形調整 5幅	133	—	
142	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	1.8	2. 5YR/2灰白色	2. 5YR/2灰白色	2. 5YR/2灰白色	外曲面未調整 保有者ナ デ 6幅	外曲面未調整 保有者ナ デ 6幅	133	—	
143	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	1.7	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
144	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	(11.0)	—	1.8	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	10YR8/3浅黄褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4~6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4~6幅	133	—	
145	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	2.0	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	2. 5YR/3淡黄色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4~6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4~6幅	133	—	
146	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	1.7	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4~6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 4~6幅	133	—	
147	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	(12.0)	—	(2.0)	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
148	麻糸土 底上	1	土師器	瓶	—	—	(1.7)	SYR6/6橙色	SYR6/6橙色	SYR6/6橙色	外曲面未調整 内曲面未調整	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
149	麻糸土 底上	1	金属製品	占鉢	2.4	2.4	1~1.5	—	—	—	—	或平宝元	133	37	
150	麻糸土 底上	2	土師器	瓶	(11.0)	—	2.2	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/4にぶい黄 褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
151	表土	1	土師器	瓶	—	—	(1.4)	10YR7/4にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	10YR7/3にぶい黄 褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 6幅	133	—	
152	表土	1	土師器	瓶	—	—	2.4	10YR7/3浅黄褐色	10YR7/3浅黄褐色	10YR7/3浅黄褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 5幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 5幅	133	—	
153	表土	1	土師器	瓶	9.0	—	1.7	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR7/2にぶい黄 褐色	10YR6/2灰褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 5幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 5幅	133	—	
154	表土	1	土師器	瓶	—	—	1.15	10YR7/2灰黄褐色	10YR7/2灰黄褐色	10YR7/2灰黄褐色	外曲面未調整 内曲面ナ デ 5~6幅	外曲面未調整 内曲面ナ デ 5~6幅	133	—	

第64表 野口城跡出土遺物観察表(3)

遺物番号	層位	トレンチ	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調			成形・文様等	伴 同 遺 物 名 称 等	図 版 番 号
					口径	底径	器高	内面	外面	断面			
155	T1 表土	I	土師器	皿	(8.2)	—	1.4	2.5H7/3 淡黄色	2.5H7/4 淡黄色	2.5H7/4 淡黄色	外沿摩滅のため調査不明 内面ナグレ 備付着 4~6類	133	—
156	T1 表土	I	土師器	皿	—	—	2.0	10H7/2 にぶい黄 褐色	10H7/3 にぶい黄 褐色	10H7/3 にぶい黄 褐色	外沿摩滅のため調査不明 内面ナグレ 4~6類	133	—
157	T1 表土	I	土師器	皿	—	—	1.9	10H6/3 にぶい黄 褐色	10H6/3 にぶい黄 褐色	10H5/2 淡黄色	外沿摩滅 内面ナグレ 4~6類	133	—
158	T1 表土	I	土師器	皿	—	—	1.9	10H7/3 にぶい黄 褐色	10H7/4 にぶい黄 褐色	10H7/3 にぶい黄 褐色	外沿摩滅 内面ナグレ 4~6類	133	—
159	T1 表土	I	青磁	碗	—	—	(L.T.)	10H7/2 淡白色(釉)	10H7/2 淡白色(釉)	10H8/1 淡白色	外縁に花文	133	—
160	採集 遺物	—	瀬戸美濃 縁袖小皿	11.0	—	2.0	10H8/2 淡白色	10H8/2 淡白色	10H8/2 淡白色	内外沿摩滅ナグレ 口縁部 に3H7/3 淡黄色の焼結 古瀬戸後四(新)	133	—	

6 特記事項

今回の調査では、遺構面を2面確認した。分布する遺構とその帰属時期、変遷について考えたい。

野口城1期 平坦地1において確認した造成土IV上面の第2遺構面の時期である。平坦地1に設定した1・2号トレンチにおいて、土坑SK143・SK148・SK156の3基を確認した。また、造成土IV・斜面の造成土・地山への漸移層を基礎とするため、土壌はこの時期に構築されたと考えられる。

造成土IV層中からは、土師器皿4類4点・5類4点が出土した。土壌盛土からは4類2点・5類1点が出土した。古川城跡では土師器皿4類・5類が出土する3期が大窯第2~3段階と考えられた。出土状況が近似するが、土師器皿4~6類が出土する野口城2期とは時期差があると考えられるため、それ以前の大窯第1~2段階と考えられる。

なお、柱穴SPI41より大窯第1段階の端反皿111、採集遺物で古瀬戸後IV期(新)の縁袖小皿160が見られる。野口城1期以前の明確な遺構は確認できなかったが、築城が遡る可能性も想定された。ここでは、古川城跡・小島城跡で出土し、古瀬戸後IV期(新)~大窯第1段階に位置付けられる土師器皿3類(三好清超2021)の出土がないため、設定しない。

野口城2期 第1遺構面は、土壌盛土及び平坦地1全面で確認した造成土III上面である。土壌は平坦地1の周囲を取り囲み、その上端平坦面に柵列SA162・163を設ける。その内側では、造成土III上面で掘立柱建物SB160・161を確認した。

遺物は造成土IIIから土師器皿4類3点・5類1点が出土した。そこから掘り込む遺構からは、土師器皿4~6類が出土する。時期は、出土遺物より大窯第2~3段階の時期と考えられる。これは、古川城跡虎口通路の調査における曲輪造成土の出土状況と近似するためである。古川城跡では、この曲輪造成土を大窯第2~3段階の3期と考えた。

4号トレンチでは、土壌と堀で構成される畝状堅堀群を1面の遺構面で確認した。表土直下に位置する最終段階の遺構面が一致すると考え、2期に位置付ける。

第5節 小鷹利城跡

1 調査の目的

測量調査により、最高所に位置し、最も広い平坦地が主郭と考えられた。この平坦地において、遺構の有無と遺物による山城の使用年代の把握を目的として試掘確認調査を行った。

2 調査の概要

2019年度、最高所に位置し、最も広い平坦地を平坦地1とし、その南・東・北方向の三方を取り囲む平坦地を平坦地2として調査を実施した。調査では、平坦地1の北東側の地表面に露出する河原石を礎石と想定し、1号トレンチを設定した。また、平坦地1から平坦地2にかけての斜面に2号トレンチを設定した。調査では、1号トレンチにおいて表土である腐葉土を除去後に、曲輪造成土を掘り込んで据えられた礎石を確認した。その主軸方位と柱間を認識した上で、礎石位置と想定される場所に0.8m四方の3号トレンチ(TR3)～48号トレンチ(TR48)を設定した(第134図)。

層序は、上層より、表土(腐葉土)、崩落土、曲輪造成土、地山の順で堆積することを確認した。曲輪造成土は、平坦地1と平坦地2でそれぞれ確認できる。直接的には繋がらない。また、礎石は曲輪造成土を掘り込んで据えられていること、礎石は地表面に頭を出すものと、礎板石のように埋められているものがあることを確認した。遺構は、曲輪造成土上面で礎石と抜き取り穴、溝等を確認した。遺物は土師器皿、瀬戸美濃焼等が出土した。

3 基本層序(第135図)

表土(腐葉土) 平坦地1、平坦地2、その間の斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地1と平坦地2の間の斜面に堆積する。

曲輪造成土 平坦地1及び平坦地2をそれぞれ覆う造成土層である。平坦地1では、当層から礎石据え付け穴が掘り込まれたため、当層の上面を第1遺構面として調査を行った。残りが良い礎石建物を確認した。また、それらとは並びが一致しない柱穴や土坑も検出した。

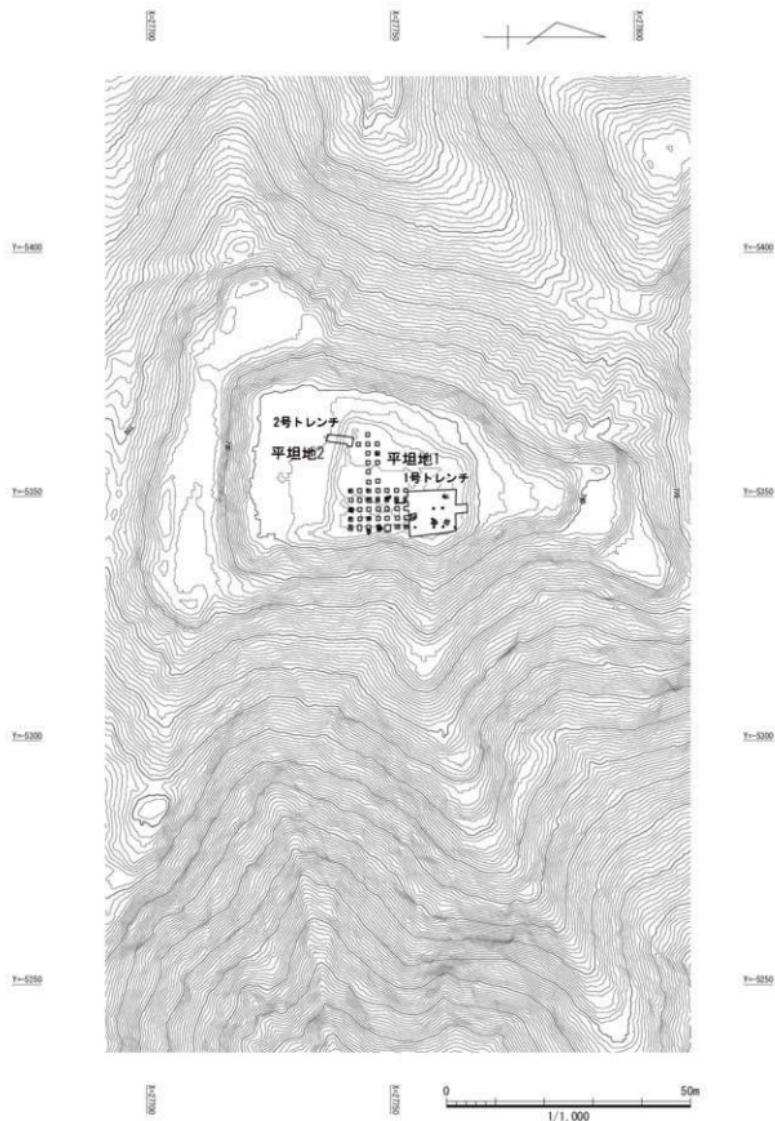
2号トレンチでは、平坦地2の曲輪北端に沿って、溝が掘られていることを確認した。

地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、しまりが非常に多い。2号トレンチにおいて、溝SD68の下層で、地山上面から掘り込む柱穴SP67を確認した。このため、当層の上面を第2遺構面として調査を行った。

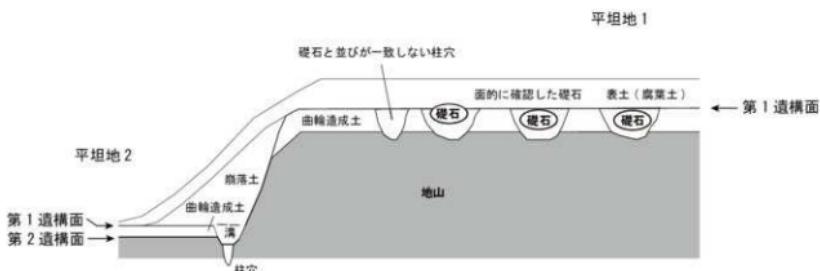
4 遺構(第67・68表)

第1遺構面は曲輪造成土上面である。遺構は平坦地1において、礎石S4・S6～S9・S14・S18・S21・S25・S29・S30・S33・S35・S37・S44～S46・S48・S56・S62、礎石抜き取り穴S1～S3・S5・S10～S13・S15～S17・S19・S20・S22～S24・S26～S28・S31・S32・S34・S36・S38・S39～S43・S47・S49～S53・S63・S64・S66、柱穴SP55・SP59～SP61・SP65・SP69～SP71、土坑SK54・SK57・SK58を確認した。また、平坦地2において、柱穴SP67・溝SD68を確認した。

平坦地1では、礎石及び礎石抜き取り穴S1～S9で礎石建物SB72を構成すると考えられた。また、礎石及び礎石抜き取り穴S10～S53・S63～S64・S66で礎石建物SB73を構成すると考えられた。



第134図 小鹿利城跡 トレンチ位置図



第135図 小鷹利城跡 断面模式図

SB72 と SB73 の柱間はそれぞれ 1.95 m・1.90 m とほぼ同一である。建物間は短いところで 1.95 m であり、SB72 の柱間と同一であるため、同じ建造物の可能性も残る。

第2造構面は地山上面である。平坦地2の2号トレンチにおいて、SD68下層より柱穴 SP67 を検出した。

①第2造構面の遺構

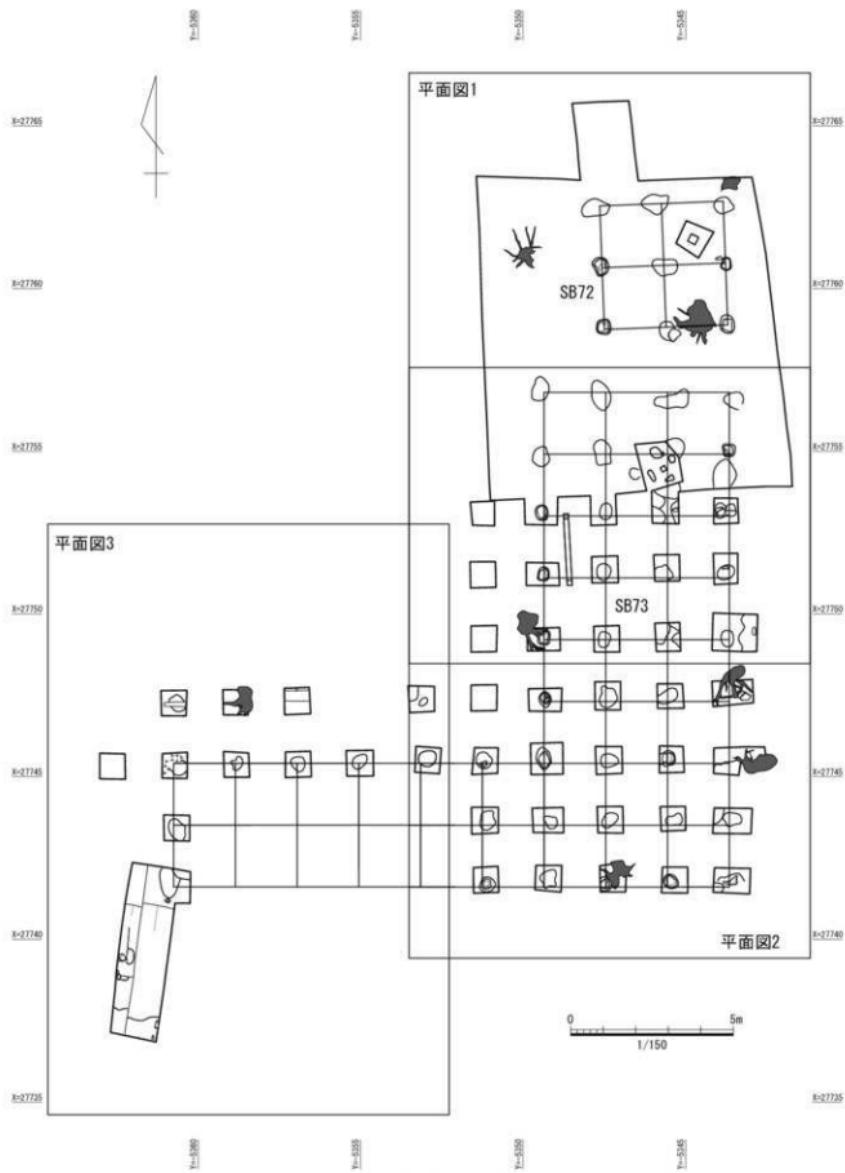
柱穴 SP67 (第136・139・144図) 平坦地2において、SD67の下層に位置し、地山上面から掘り込む。長径 0.43 m、短径 0.16 m 以上、深さ 0.8 m 以上を測る。SD67 埋土をすべて掘削していないため短径を知りえず、また、深さも手が届く範囲までの掘削となつたため知りえなかつた。

②第1造構面の遺構 (第65表)

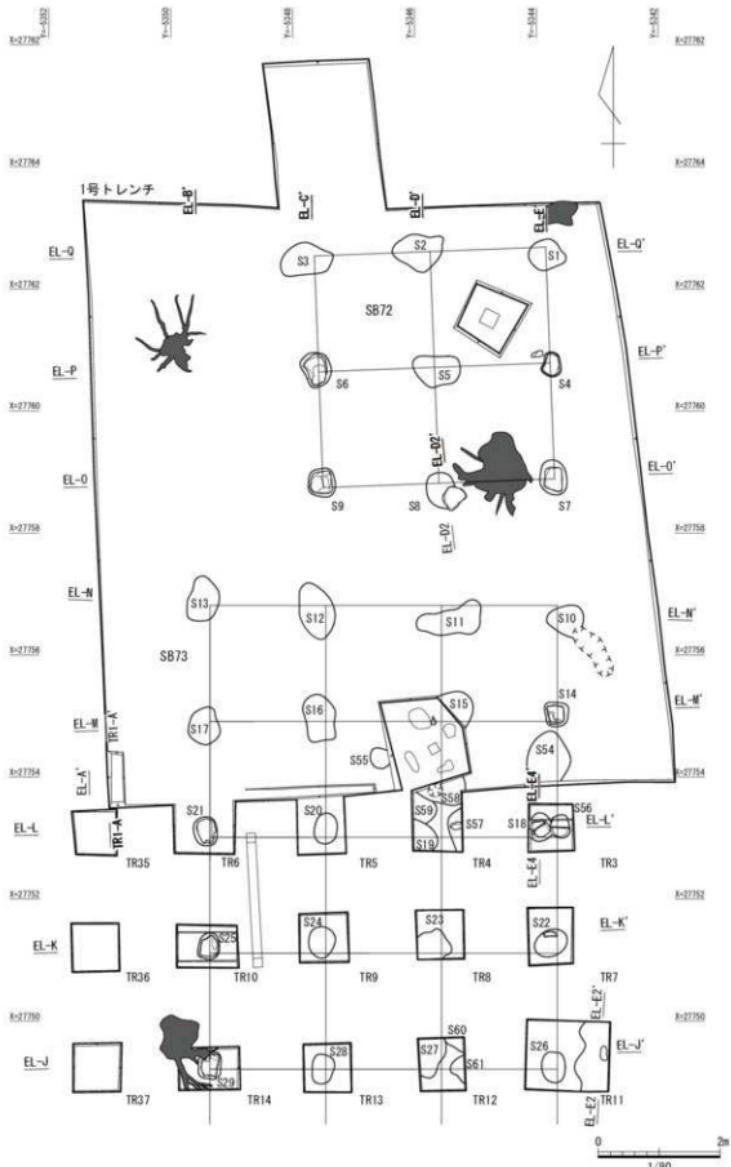
礎石建物 SB72 (第136・137・140・143図) 平坦地1の北側に位置する。礎石及び礎石抜き取り穴 S1～S9 で構成される2間四方の礎石建物である。柱間は 1.95 m 等間である。主軸方位は N-2° -W を測る。礎石は曲輪造成土に据え付け穴を掘り込んで据えられる。礎石に根石は伴わない。礎石 S4・S6・S9 の3基は礎石が原位置を保つと考えられる。礎石 S8 は地表面に露出していたものであり、原位置から動いていると考えられた。

礎石建物 SB73 (第136～143図) 平坦地1の中央より南・西側に位置する。礎石及び礎石抜き取り穴 S10～S53・S63～S64・S66 にて構成される。3間×8間に2間×5間の張り出し部が取り付く曲屋形状をなす。張り出し部の北西端には、さらに1間分は礎石抜き取り穴 S62・S63 が連続する。柱間は 1.90 m 等間である。主軸方位は N-0° -E を測る。礎石は曲輪造成土に据え付け穴を掘り込んで据えられる。礎石に根石は伴わない。礎石 S18 は礎石 S56 に切られる。この箇所では先後関係が想定されるが、他の礎石でこのような切り合い関係を確認できない。

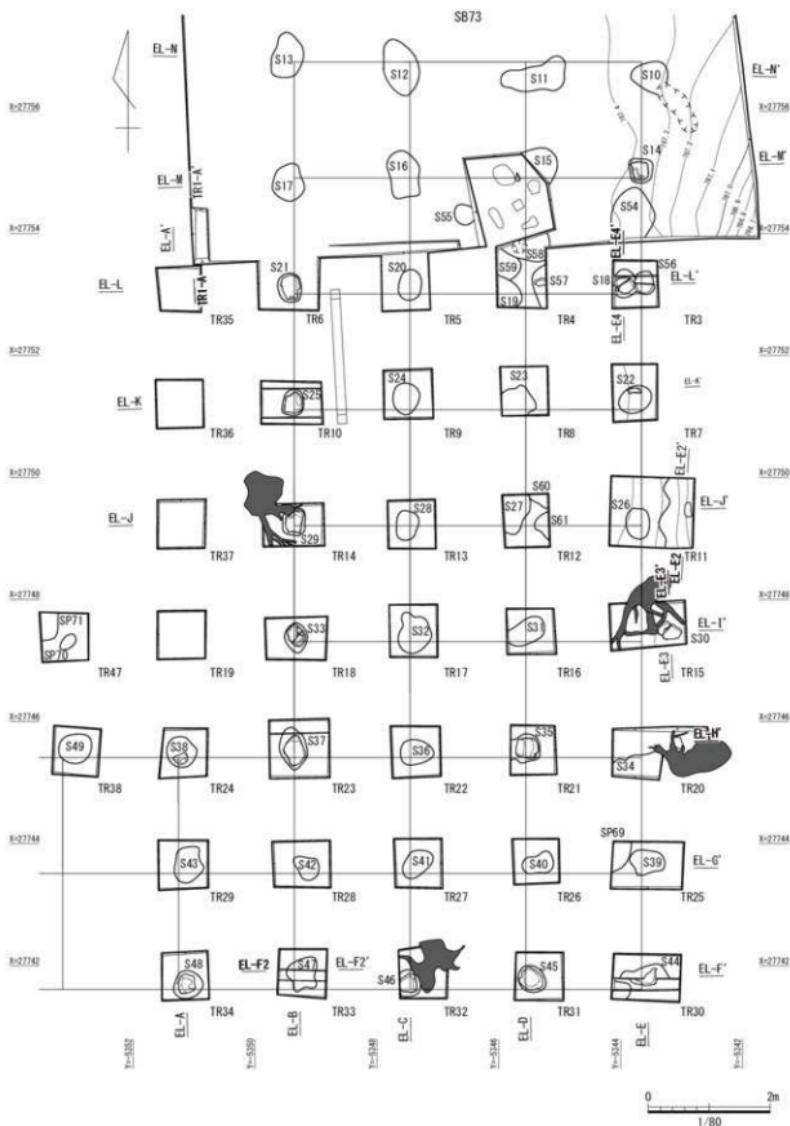
溝 SD68 (第144図) 平坦地2において、平坦地1との間の斜面下に位置する。平坦地2の曲輪造成土上面から掘り込む。幅 0.80 m、深さ 0.12 m を測る。東西方向に延びるが、調査区外に及ぶため全長は知りえない。南側上端周辺には 20 cm 大の礎石が 3 石ある。崩落土中に含まれ、原位置を保たないものの、上端には護岸石が施されていた可能性がある。



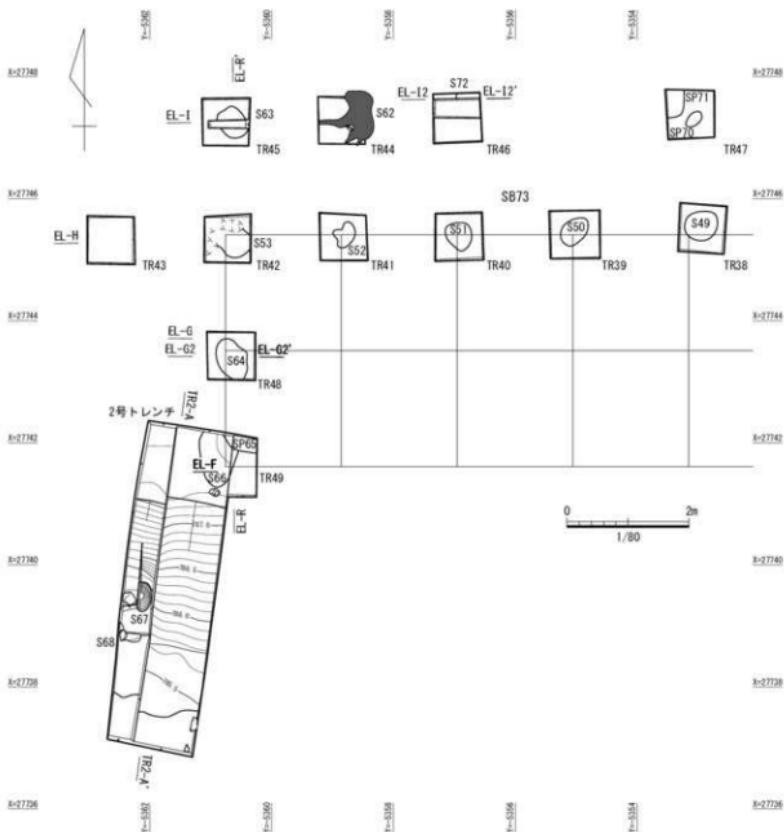
第136図 小鹿利城跡 平面割付図



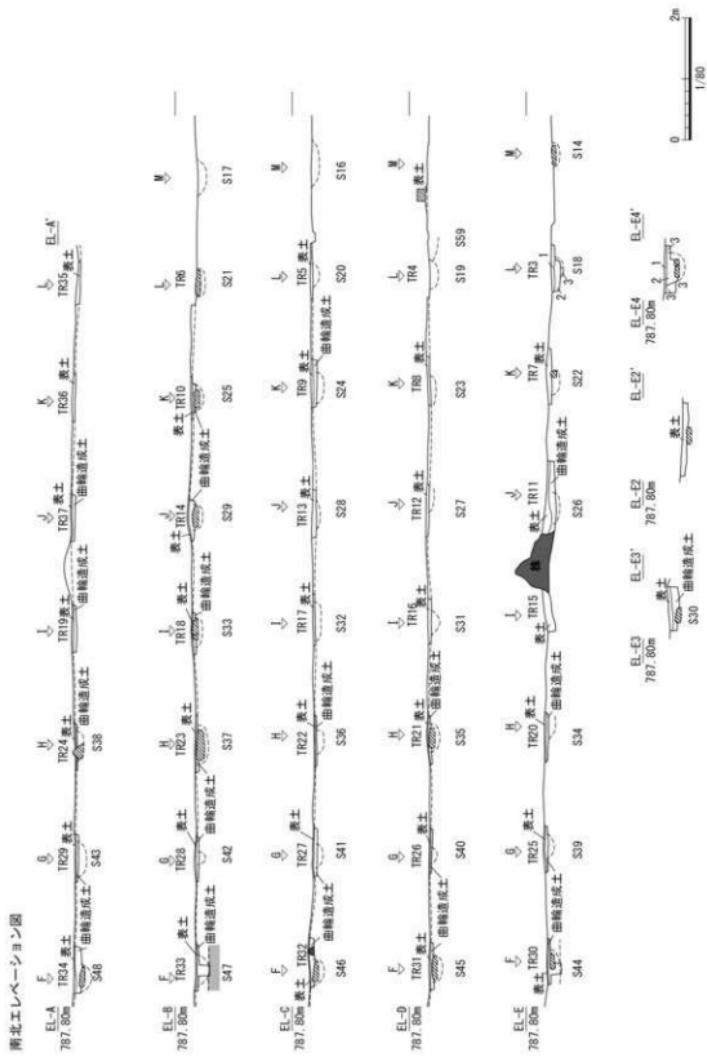
第137図 小鷹利城跡 平面図



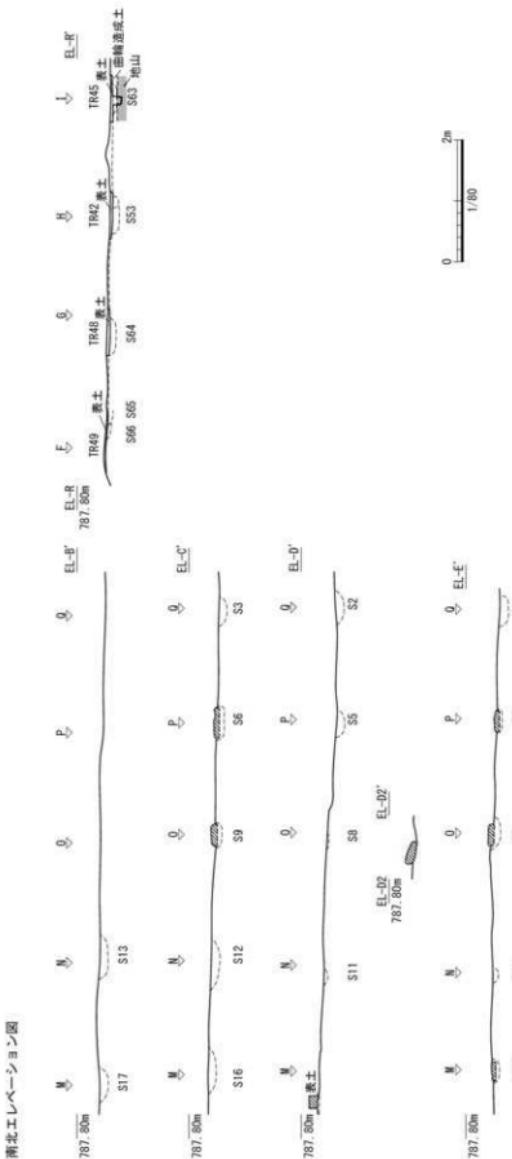
第138図 小鹿利城跡 平面図2



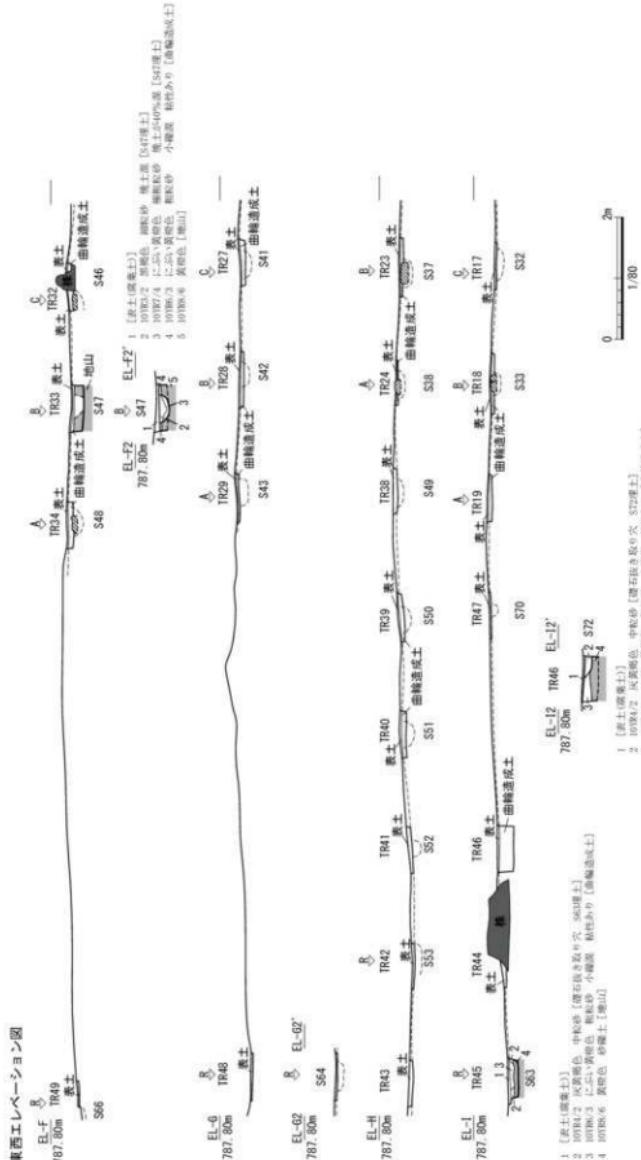
第139図 小鷹利城跡 平面図3



第140図 小鹿利城跡 工レベーシヨン図・断面図

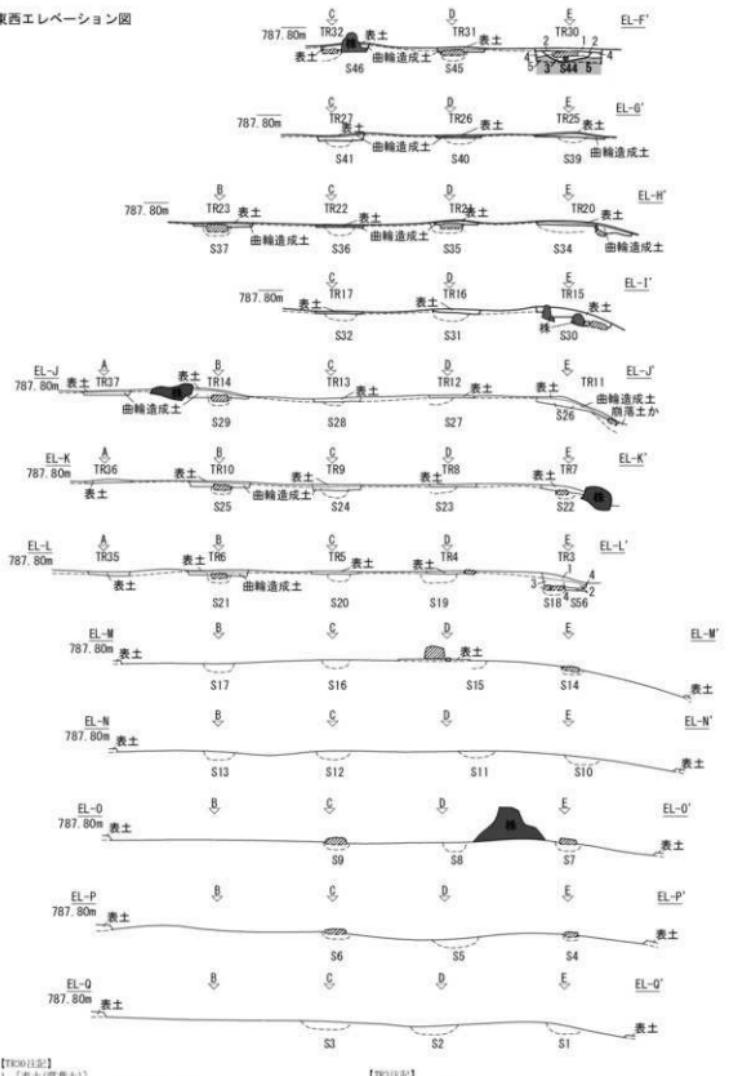


第141図 小鷹利城跡 エレベーション図・断面図2



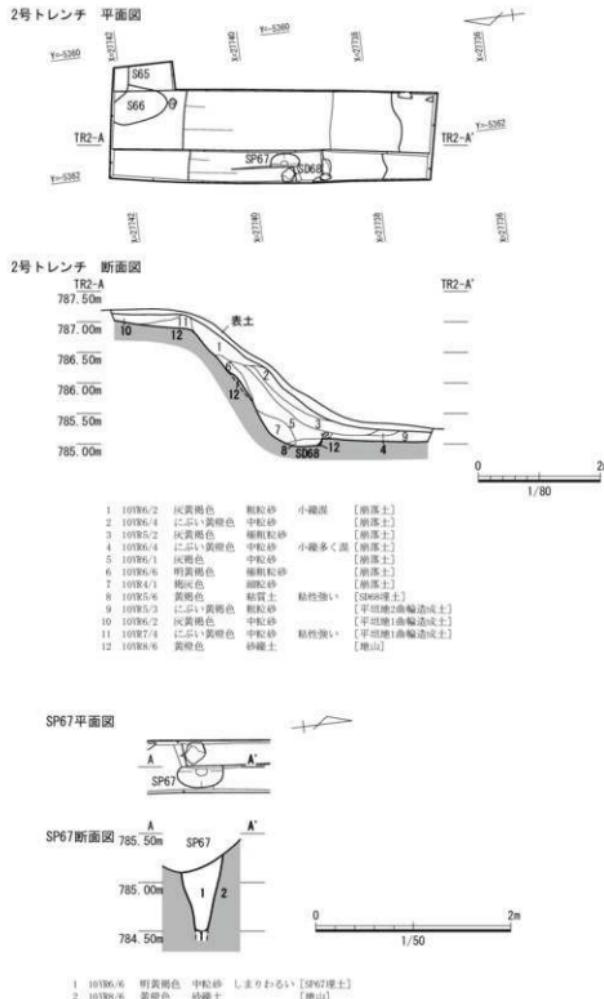
第142図 小鹿利城跡 エレベーション図・断面図3

東西エレベーション図



第143図 小鷹利城跡 エレベーション図・断面図4

0 1/80 2m



第144図 小鹿利城跡 2号トレンチ造構図

第65表 小鹿利城跡建物計測表

造構名	造構面	相行柱間	桁行(m)	梁行柱間	梁行(m)	主軸	備考
礎石建物 SB72	第1	2	3.90	2	3.90	N-2° -W	-
礎石建物 SB73	第1	8	15.20	3	5.70	N-0° -W	2間×5間の張り出し

5 遺物（第145図、第66・69表）

礎石建物 SB73 の礎石抜き取り穴 S47 埋土 鉄釘 161 が出土した。頭部は巻頭形状となる。先端部は欠損している。断面は四角形を呈する。

礎石建物 SB72 検出面 SB72 検出作業中に、瀬戸美濃焼が1点、珠洲焼が1点、青磁が1点出土し、青磁を1点図示した。162は青磁碗である。体部外面に線描き蓮弁文を施す。龍泉窯系B3類に属する。

礎石建物 SB73 検出面 SB73 検出作業中に、土師器皿が4点、瀬戸美濃焼が9点、珠洲焼が32点、青磁が5点、白磁が1点、中国製染付磁器が4点出土した。土師器皿2点、瀬戸美濃焼3点、珠洲焼4点、青磁4点、白磁1点、中国製染付磁器2点を図示した。

163・164は土師器皿である。163は体部破片であり、内面が摩滅し、外面にナデ調整が施される。4類に属する。164は内外面摩滅する。

165～167は瀬戸美濃焼である。165は徳利か花瓶の頭部である。胎土は蜜であり、灰黄色を呈する。内外面に鉄釉を施す。二次被熱を受ける。古瀬戸後期のものと考えられる。166・167は祖母懐壺の底部であり、同一個体と考えられる。166は体部外面下方から底部にかけて、167は体部外面下方から底部及び内面に鉄釉を施し、外面底部には錫釉を施す。このため、大窓段階のものと考えられる。

168～170は珠洲焼甕である。168は口縁部である。口縁部が短く屈曲し、端部が丸くおさまる。

169・170は体部破片である。

171～174は青磁である。171・172は碗である。体部外面に線描き蓮弁文を施し、龍泉窯系B4類のものと考えられる。172には内面にも施文が認められる。173は盤である。口縁が外反する。174は稜花皿である。口縁は波状を呈する。

175は白磁の端反碗である。口縁部が外反し、白磁E類に属する。

176・177は中国製染付碗の底部高台破片である。

柱穴 珠洲焼2点、鉄釘1点が出土し、鉄釘を図示した。178は鉄釘である。頭部は平らにつぶれ、先端が尖る。断面は円形を呈する。

採集遺物 珠洲焼4点、白磁1点を採集し、白磁1点を図示した。179は白磁皿の体部から底部にかけての破片である。内外面は灰白色を呈し、高台外面の下端は輪を搔き取る。白磁E類に属する。

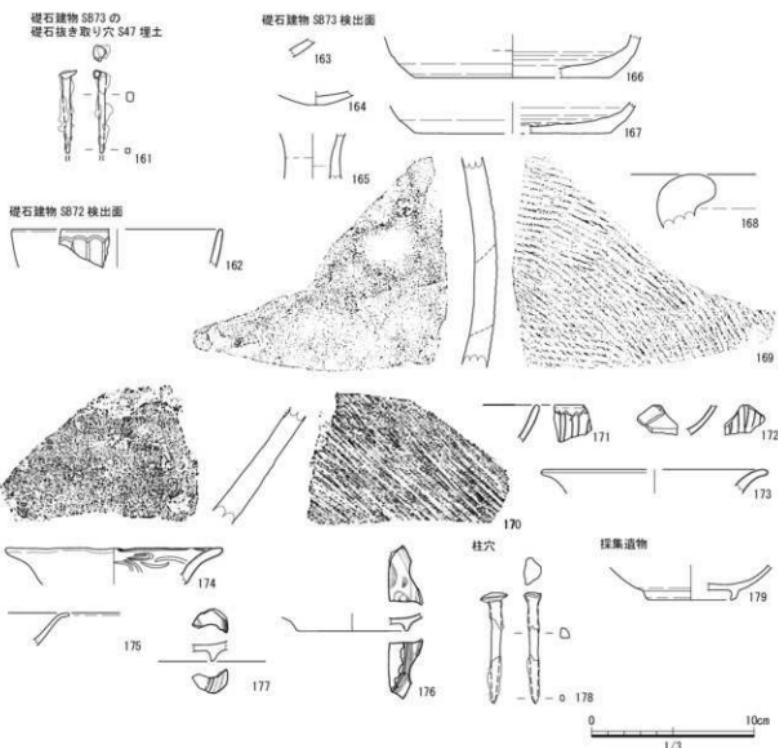
6 特記事項

今回の調査では、遺構面を2面確認した。遺構の分布と変遷について述べる。

小鷹利城1期 平坦地2において、溝SD68の下層に第2遺構面の柱穴SP67を確認した。年代が分かる遺物等の出土はなかった。

小鷹利城2期 平坦地1の第1遺構面では、2間四方の礎石建物SB72、曲屋形状の礎石建物SB73が、平坦地1の東・南辺を取り囲むように配置される。その検出作業時に、土師器皿4類163、古瀬戸から大窓段階の遺物165～167、青磁B3～B4類、白磁E類が出土した。これらの遺物から、礎石建物SB72・SB73は古瀬戸後IV期（新）～大窓第1段階に造られたものと考えられる。平坦地2では、平坦地1との間の斜面下で溝SD68を確認した。

なお、並びが不明な礎石S56や柱穴の存在からは、その後の使用も想定することができるが、後の時期の遺物は出土しなかった。



第145図 小鹿利城跡 出土遺物図

第66表 小鹿利城跡出土遺物一覧表

造構面	土層	土師器皿							瀬戸美濃					珠洲			青磁		白磁		染付		金屬	その他	合計
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反	天目	すり鉢	その他	糞	碗	穀花皿	碟	碗	碟	碗	碟	碗	碟	金	他	合
第1	礎石建物SB73 抜き取り穴S47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
	礎石建物SB72 棟出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	礎石建物SB73 棟出	-	1	-	-	-	3	-	-	-	1	8	32	4	1	1	2	2	-	-	-	-	-	-	55
	柱穴	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
近世 以降	採集遺物	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
	合計	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	9	39	5	1	2	2	2	2	4	2	0	67		

第67表 小鷹利城跡土坑・柱穴等一覧表(1)

遺跡記号	遺構種別	遺構番号	位置 トレンチ番号	様式 横出面	埋蔵状況 断面形状	底面形状	法量(m)		埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
							上端					
							長径	短径				
AKT19	SS 01	TR 1	地山	-	不定	-	0.61	0.51	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/3	S872を構成	
AKT19	SS 02	TR 1	地山	-	不定	-	0.84	0.62	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S872を構成	
AKT19	SS 03	TR 1	地山	-	不定	-	0.86	0.55	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S872を構成	
AKT19	SS 04	TR 1	地山	-	不定	-	0.40	0.32	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	S872を構成	
AKT19	SS 05	TR 1	地山	-	不定	-	0.78	0.51	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S872を構成	
AKT19	SS 06	TR 1	地山	-	不定	-	0.57	0.51	灰黃褐色中粒砂	10YR5/2	S872を構成	
AKT19	SS 07	TR 1	地山	-	円	-	0.57	0.44	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	S872を構成	
AKT19	SS 08	TR 1	地山	-	円	-	0.59	0.46	褐灰色中粒砂	10YR5/1	S872を構成	
AKT19	SS 09	TR 1	地山	-	円	-	0.47	0.44	灰黃褐色中粒砂	10YR4/2	S872を構成	
AKT19	SS 10	TR 1	地山	-	不定	-	0.60	0.54	黑褐色中粒砂	10YR3/1	S873を構成	
AKT19	SS 11	TR 1	地山	-	不定	-	1.05	0.58	黑褐色中粒砂	10YR5/1	S873を構成	
AKT19	SS 12	TR 1	地山	-	不定	-	0.92	0.58	褐灰色中粒砂	10YR5/1	S873を構成	
AKT19	SS 13	TR 1	地山	-	不定	-	0.73	0.53	褐灰色中粒砂	10YR5/1	S873を構成	
AKT19	SS 14	TR 1	地山	-	方	-	0.40	0.39	にぶい黄褐色中粒砂	10YR6/4	S873を構成	
AKT19	SS 15	TR 1	地山	-	円	-	0.60	0.59	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	S873を構成	
AKT19	SS 16	TR 1	地山	-	不定	-	0.78	0.53	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	S873を構成	
AKT19	SS 17	TR 1	地山	-	不定	-	0.62	0.52	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	S873を構成	
AKT19	SS 18	TR 3	地山	-	楕円	円	0.46	0.25	にぶい黄褐色細粒砂	10YR5/3	S873を構成	
AKT19	SS 19	TR 4	地山	-	-	円	-	0.51	0.39	灰黃褐色中粒砂	10YR4/2	S873を構成
AKT19	SS 20	TR 5	地山	-	-	円	-	0.50	0.38	にぶい黄褐色中粒砂	10YR4/3	S873を構成
AKT19	SS 21	TR 6	地山	-	-	円	-	0.47	0.38	灰黃褐色中粒砂	10YR4/2	S873を構成
AKT19	SS 22	TR 7	地山	-	-	円	-	0.23	0.45	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 23	TR 8	地山	-	不定	-	0.56	0.48	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	S873を構成	
AKT19	SS 24	TR 9	地山	-	-	円	-	0.51	0.44	灰黃褐色粗粒砂	10YR4/2	S873を構成
AKT19	SS 25	TR 10	地山	-	-	円	-	0.42	0.35	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	S873を構成
AKT19	SS 26	TR 11	地山	-	-	円	-	0.50	0.38	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 27	TR 12	地山	-	-	不定	-	0.60	0.40	灰黃褐色中粒砂	10YR6/2	S873を構成
AKT19	SS 28	TR 13	地山	-	-	円	-	0.48	0.36	黑褐色中粒砂	10YR5/1	S873を構成
AKT19	SS 29	TR 14	地山	-	-	円	-	0.44	0.37	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	S873を構成
AKT19	SS 30	TR 15	地山	-	-	円	-	0.39	0.29	褐灰色中粒砂	10YR6/1	S873を構成
AKT19	SS 31	TR 16	地山	-	-	円	-	0.59	0.48	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成
AKT19	SS 32	TR 17	地山	-	不定	-	0.66	0.55	黑褐色粗粒砂	10YR3/1	S873を構成	
AKT19	SS 33	TR 18	地山	-	-	円	-	0.49	0.37	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	S873を構成
AKT19	SS 34	TR 19	地山	-	不定	-	0.68	0.34	褐灰色粗粒砂	10YR4/1	S873を構成	
AKT19	SS 35	TR 21	地山	-	-	不定	-	0.47	0.47	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 36	TR 22	地山	-	-	円	-	0.54	0.41	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成
AKT19	SS 37	TR 23	地山	-	不定	-	0.69	0.46	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/3	S873を構成	
AKT19	SS 38	TR 24	地山	-	-	円	-	0.50	0.49	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成
AKT19	SS 39	TR 25	地山	-	不定	-	0.57	0.42	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成、炭化物含む。	
AKT19	SS 40	TR 26	地山	-	不定	-	0.51	0.36	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成	
AKT19	SS 41	TR 27	地山	-	-	円	-	0.49	0.46	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成、炭化物含む。
AKT19	SS 42	TR 28	地山	-	-	不定	-	0.41	0.38	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成、炭化物含む。
AKT19	SS 43	TR 29	地山	-	-	不定	-	0.59	0.48	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成、炭化物含む。
AKT19	SS 44	TR 30	地山	-	楕円	不定	0.81	0.40	0.12	灰黃褐色中粒砂	10YR5/2	S873を構成
AKT19	SS 45	TR 31	地山	-	-	円	-	0.45	0.43	にぶい黄褐色中粒砂	10YR5/2	S873を構成、土師器底
AKT19	SS 46	TR 32	地山	-	-	円	-	0.43	0.33	黑褐色中粒砂	10YR5/1	S873を構成
AKT19	SS 47	TR 33	地山	-	楕円	不定	0.57	0.49	0.21	黑褐色粗粒砂 にぶい黄褐色粗粒砂	10YR5/2 10YR7/4	S873を構成、炭化物含む。
AKT19	SS 48	TR 34	地山	-	-	円	-	0.48	0.46	黑褐色粗粒砂	10YR5/1	S873を構成、炭化物含む。
AKT19	SS 49	TR 35	地山	-	-	円	-	0.54	0.48	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 50	TR 36	地山	-	-	円	-	0.46	0.45	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 51	TR 37	地山	-	-	円	-	0.46	0.43	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 52	TR 41	地山	-	不定	-	0.42	0.36	-	褐灰色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 53	TR 42	地山	-	不定	-	0.53	0.48	-	褐褐色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SS 54	TR 1	地山	-	不定	-	0.86	0.72	-	褐褐色中粒砂	10YR5/1	S873を構成
AKT19	SP 55	TR 1	地山	-	-	円	-	0.34	0.32	褐褐色中粒砂	10YR4/1	S873を構成
AKT19	SP 56	TR 3	-	-	半円	-	円	0.37	0.32	0.10 にぶい黄褐色粘土	10YR5/4	S873を構成

第68表 小鷹利城跡土坑・柱穴等一覧表(2)

遺跡番号	遺 跡 種 類 番 号	位 置 ト レ ン チ 番 号	横出面	堆 積 状 況	断 面 形 状	平 面 形 状	法量(m)		埋 土	備 考 (切り抜き、出土遺物等)		
							上端					
							長 径	短 径				
AKT19	SP	57	TR	4	堆山	-	不定	0.70	0.21	-	にぶい黄褐色中粒砂 10YR5/3 SB73を構成	
AKT19	SP	58	TR	4	堆山	-	円	0.80	0.47	-	にぶい黄褐色中粒砂 10YR7/4 SB73を構成	
AKT19	SP	59	TR	4	堆山	-	円	0.42	0.38	-	褐色中粒砂 10YR4/1 SB73を構成	
AKT19	SP	60	TR	12	堆山	-	不定	0.31	0.22	-	褐色中粒砂 10YR4/1 SB73を構成	
AKT19	SP	61	TR	12	堆山	-	不定	0.46	0.23	-	灰褐色中粒砂 10YR6/2 SB73を構成	
AKT19	SS	62	TR	44	堆山	-	-	0.09	0.06	-	- SB73を構成。礫石々	
AKT19	SP	63	TR	45	堆山	-	細鉢	円	0.52	0.51	0.10 にぶい黄褐色中粒砂 10YR4/2 SB73を構成	
AKT19	SS	64	TR	48	堆山	-	不定	0.65	0.51	-	褐色中粒砂 10YR4/1 SB73を構成	
AKT19	SP	65	TR	2	堆山	-	不定	0.54	0.30	-	黒褐色中粒砂 10YR3/1 SB73を構成	
AKT19	SS	66	TR	2	堆山	-	方	0.64	0.62	-	褐色中粒砂 10YR4/1 SB73を構成	
AKT19	SP	67	TR	2	崩落土	単	細鉢	円	0.47	0.23	0.80 明黄色中粒砂 10YR6/6 SB73を構成	
AKT19	SB	68	TR	2	堆山	中央部	半円	不定	0.80	0.20	0.10 黄褐色粘質土 10YR5/6 -	
AKT19	SP	69	TR	25	堆山	-	-	円	0.48	0.31	- 黑褐色粗粒砂 10YR3/1 -	
AKT19	SP	70	TR	47	堆山	-	円	0.46	0.25	-	褐色中粒砂 10YR4/1 -	
AKT19	SP	71	TR	47	堆山	-	方	0.44	0.11	-	褐色中粒砂 10YR4/1 -	
AKT19	SS	72	TR	46	曲輪造成土	単	半円	-	0.40	0.10	0.12 にぶい黄褐色中粒砂 10YR4/2 -	

第69表 小鷹利城跡出土遺物観察表

遺物番号	層位	ト レ ン チ 番 号	種別	器種	法量 (cm、括弧内は推定)			色調		成形・文様等	博 物 館 番 号	
					口径		底径	器高	内面	外面		
					内面	外面			内面	外面		
161	S47	埋土	33	金属製品	針	5.1	1.0	0.4	2.5YR8/3 淡黄色	2.5YR8/3 淡黄色	-	145 -
162	SB1	1	青磁	瓶	13.0	-	2.4	10Y5/1 灰色	3Y4/1 灰色	7.5Y4/2 灰褐色 内外面摩擦 底堅基部	145 37	
163	SB2	45	土師器	瓶	-	-	1.1	10YR7/3 にぶい黃褐色	10YR7/4 にぶい黃褐色	10Y4/1 灰褐色 底堅基部	145 37	
164	SB2	1	土師器	瓶	-	-	0.9	3Y7/3 淡黄色	3Y7/3 淡黄色	2.5YR/3 淡黄 内外面摩擦のため調整不明	145 -	
165	SB2	26	瀬戸美濃	德利か 花瓶	-	-	2.8	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	2.5YR/2 灰白色 内外面磨擦 古瀬戸腹側	145 -	
166	SB2	25	瀬戸美濃	瓶	-	(12.0)	2.7	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色 内外面凹凸 底 唇母焼痕 大底凹陥	145 -	
167	SB2	16	瀬戸美濃	瓶	-	12.0	1.9	2.5YR6/2 灰黃	2.5YR7/2 灰黃	7.5YR7/4 にぶい褐色 内外面凹凸 底 唇母焼痕 大底凹陥 166と同一個体	145 37	
168	SB2	14	床面鏡	鏡	-	-	3.3	7.5YR8/4 淡黄色	7.5YR8/4 淡黄色	7.5YR8/4 淡黄色 内外面平行タキシ 内面ナ	145 -	
169	SB2	32	床面鏡	鏡	-	-	12.8	10Y5/1 灰褐色	3Y6/1 灰色	10Y5/1 灰褐色 内面平行タキシ 内面ナ	145 37	
170	SB2	13	床面鏡	鏡	-	-	4.6	10Y6/1 灰色	2.5G7/6 灰色	10Y6/1 灰色 内面ナ	145 -	
171	SB2	5	青磁	碗	-	-	2.25	3Y6/3 オリーブ 色	7.5YR/3 オリーブ 色	3Y8/1 灰白色 内面青斑 青磁釉 内面銀錫斑文 龍紋底堅部	145 -	
172	SB2	1	青磁	碗	-	-	1.8	7.5Y6/3 オリーブ 色	7.5Y6/3 オリーブ 色	7.5Y8/1 灰白色 内面青斑 青磁釉 内面銀錫斑文 龍紋底堅部	145 -	
173	SB2	43	青磁	盤	(14.0)	-	1.5	5Y6/2 灰オリーブ 色	5Y6/2 灰オリーブ 色	3YH/1 灰白色 内面青斑 青磁釉 内面銀錫斑文 龍紋底堅部	145 -	
174	SB2	43	青磁	皿	(13.4)	-	2.3	7.5G7/1 明オリーブ 色	7.5G7/1 明オリーブ 色	2.5Y7/2 灰黄色 内面文様 蝶花墨	145 -	
175	SB2	24	白磁	碗	-	-	2.0	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色 内外面施釉 白磁E類	145 37	
176	SB2	42	染付	碗か盤	-	6.5	1.1	2.5G9/8/1 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	3Y8/1 灰白色 内面透明釉 染付文様 あり 内面 外側 1次被熱	145 37	
177	SB2	26	染付	碗か盤	-	-	1.25	3Y8/0 灰白色	3Y8/0 灰白色	3Y8/0 灰白色 内面透明釉 染付文様 あり 内面 外側 1次被熱	145 -	
178	柱穴	55	金属製品	釘	6.8	1.65	0.6	-	-	-	145 37	
179	積重遺物	2	白磁	碗	-	5.8	2.2	7.5Y8/1 灰白色	7.5Y8/1 灰白色	白磁E類	145 37	

第6節 向小島城跡

1 調査の目的

測量調査により、主郭と考えられた最も広い平坦地において、遺構の有無と遺物による山城の使用年代の把握を目的として試掘確認調査を行った。

2 調査の概要（第146図）

2019年度、最も広い平坦地を平坦地1とし、その南北方向の斜面にかけて1号トレンチを設定した。また、平坦地1に西接する平坦地を平坦地2とし、平坦地1から平坦地2にかけて2号トレンチを設定した。調査では、上層より、腐葉土、造成土、斜面の造成土、地山の順で堆積することを確認した。造成土は、地山上面の凹凸を埋めるように分布する。

遺構は、造成土上面で柱穴・土坑等を確認した。遺物は土師器皿、瀬戸美濃焼等が出土した。

3 基本層序（第147・148図）

腐葉土 平坦地1、平坦地2、斜面を覆う現代までの自然堆積土層である。

崩落土 平坦地1と平坦地2の間の斜面に堆積する。

造成土 平坦地1及び平坦地2を覆う造成土層である。1・2号トレンチ全面で確認できる。当層から柱穴や土坑が掘り込まれるため、当層の上面を遺構面として調査を行った。

斜面の造成土 山の斜面に対して、平坦地を造るために盛土を施した土層である。平坦地1の南側斜面において、当層で据えられる石垣SV69を確認した。当層で自然傾斜地に盛土した後、造成土で平坦地を造っているため、造成土と同時期と考えられる。平坦地1の南側斜面では急峻な斜面を造成するのに対し、北側斜面は緩斜面を造成する。

旧表土 自然傾斜地に元々堆積していた表土である。

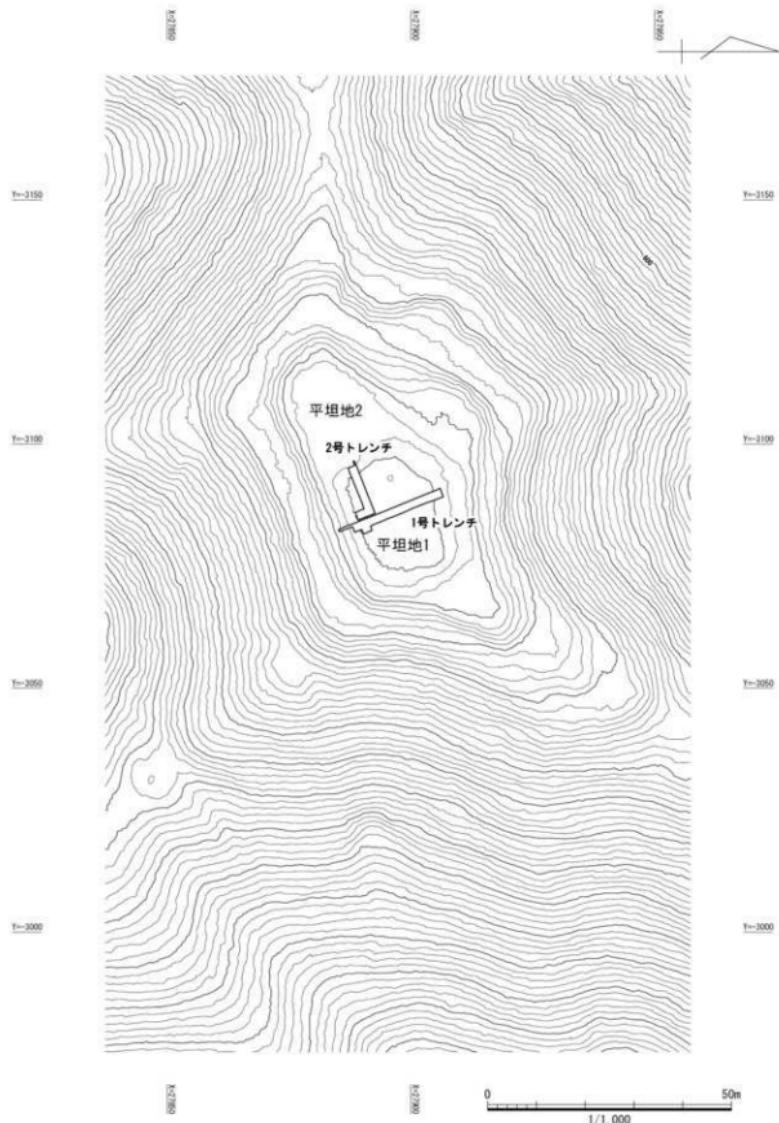
地山 この山一帯の基盤層である。黄橙色の砂礫層であり、非常にしまりがよい。当層の上面から掘り込む遺構は確認しなかった。

4 遺構（第149～152図、第73・74表）

遺構面は造成土上面である。遺構は掘立柱建物を構成する柱穴や土坑、溝、石垣等を確認した。平坦地1では、柱穴が並んで建造物が想定される掘立柱建物SB68と柵列SA66を確認した。ともに主軸方位が平坦地1の南辺上端と一致する。また、平坦地2において、平坦地1との間の斜面下に溝SD67を確認した。1号トレンチの柱穴SP12・13、2号トレンチの柱穴SP20・21、SP28・29、SP33・34、土坑SK43・SP56、SP57・58は切り合い関係があり、建物に建て替えがあった可能性が想定される。

掘立柱建物 SB68（第153図、第70表） 2号トレンチにおいて、平坦地1の西側で確認した。SP42・45・48・51・53の5基で構成される。東西方向の並びは確認できたが南北方向は調査区範囲外に及ぶ。柱間は東から、1.50m、1.25m、0.6m、1.00mである。主軸方位はN-25°-Eを測る。

柵列 SA66（第153図、第71表） 1号トレンチにおいて、平坦地1の南辺上端に沿って位置する。柱穴SP15・65の2基で構成される。調査区範囲外に及ぶものと想定された。柱間は1.20mである。主軸方位はN-24°-Eを測る。なお、平坦地1の南辺に位置する柵列SA66は、西辺では掘立柱建物

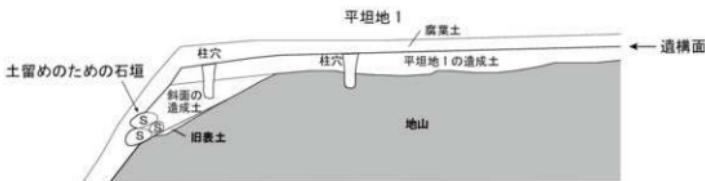


第146図 向小島城跡 トレンチ位置図

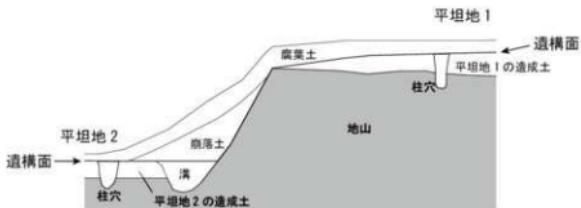
SB68 の SP53 に接続する可能性が想定される。さらに北辺では SP61 が対応する可能性を想定したが、連続する柱穴を確認することができなかった。

石垣 SV69 (第 153 図、第 72 表) 1 号トレーナーの南端において、切岸造成土中に確認した。自然傾斜地の旧表土上に位置する。傾斜角 50° を測る。調査では、幅 0.5 m のサブトレーナーで、高さ 0.6 m を確認した。東西側への延長は明らかでない。最大の石材の大きさは、幅 40 cm、奥行き 40 cm、高さ 23 cm を測る。石材は砂岩である。斜面の造成土を土留めする役割を持つと考えられる。

溝 SD67 平坦地 2 において、平坦地 1 との間の斜面下に位置する。平坦地 2 の曲輪造成土上面から掘り込む。幅 0.64 m、深さ 0.15 m を測る。南北方向に延びるが、調査区外に及ぶため全長は知りえない。



第 147 図 向小島城跡 1 号トレーナー断面模式図



第 148 図 向小島城跡 2 号トレーナー断面模式図

第 70 表 向小島城跡建物計測表

遺構名	遺構面	桁長柱間	桁行 (m)	梁行柱間	梁行 (m)	主軸	備考
獨立柱建物 SB68	第 1	4	4.35	-	-	N-25° -#	調査区外に及ぶ

第 71 表 向小島城跡櫛列計測表

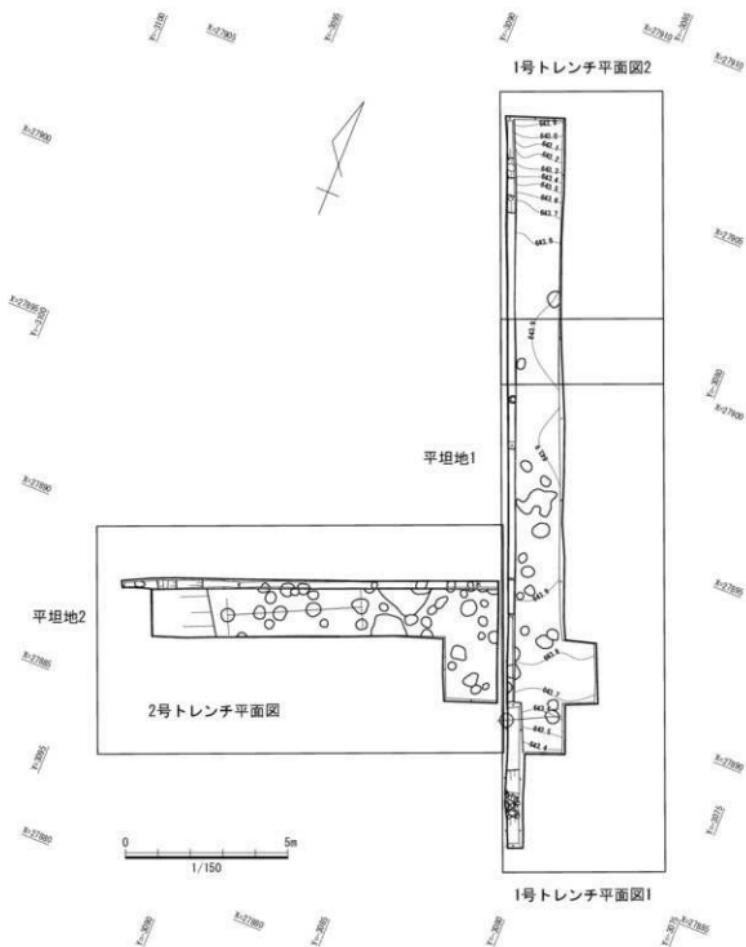
遺構名	遺構面	総長柱間	総長 (m)	主軸	備考
櫛列 SA66	第 1	(1)	1.2	N-24° -#	-

※ () 数値は検出長を示す

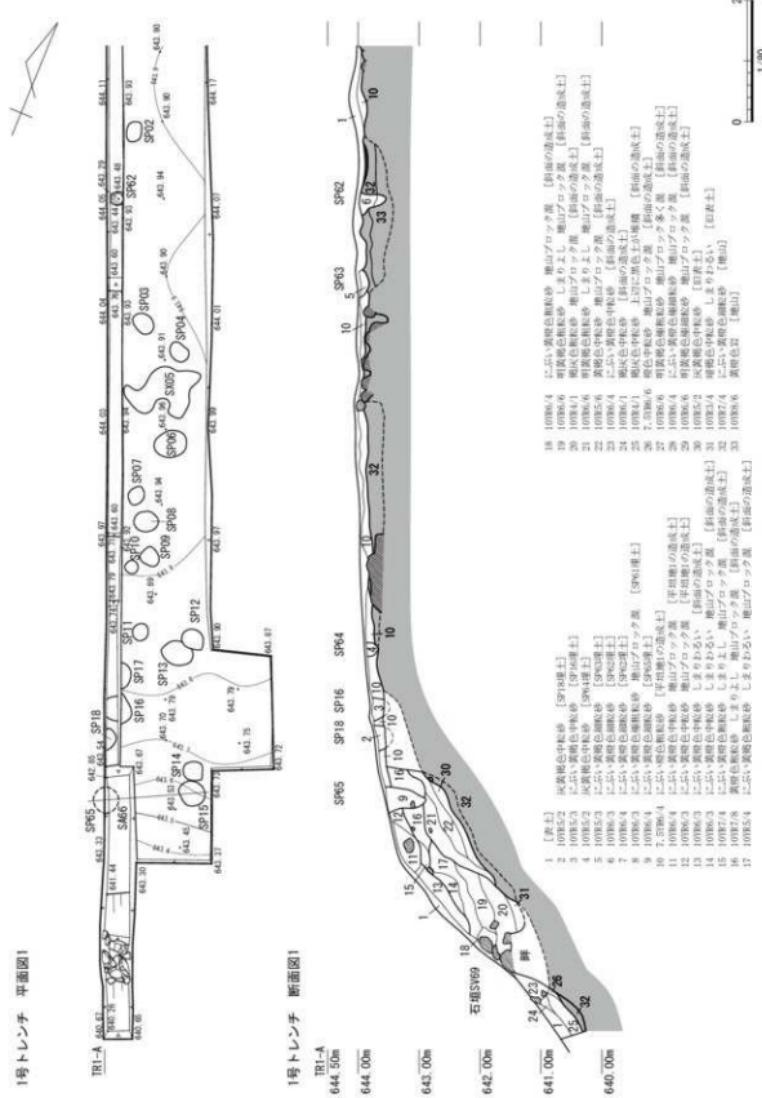
第 72 表 向小島城跡石垣計測表

遺構名	位置	遺構面	全長	高さ	傾斜角	裏込め	間詰石	備考
石垣 SV69	切岸	第 1	(0.5)	0.6	50°	無	無	-

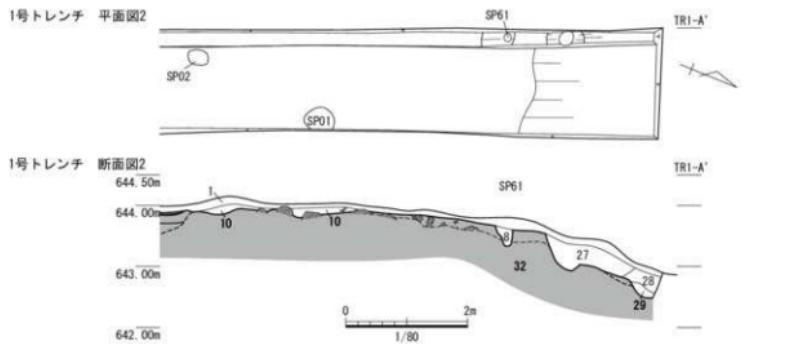
※ () 数値は検出長を示す



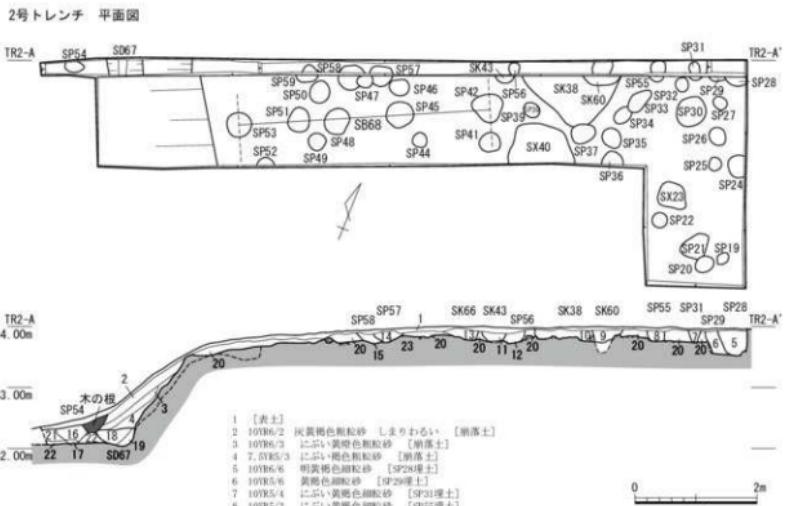
第149図 向小島城跡 平面割付図



平面向量



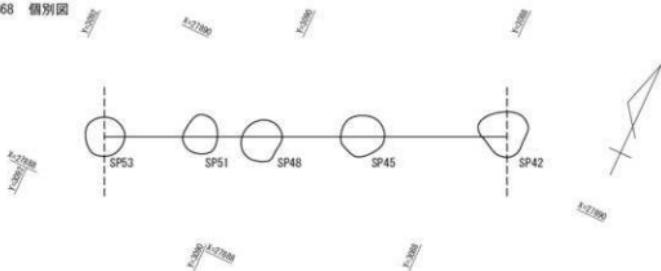
第151図 向小島城跡 1号トレンチ遺構図2



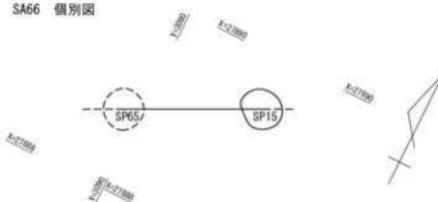
第152図 向小島城跡 2号トレンチ遺構図

- 1. [表土] 国黄褐色粗粒砂「しまりわい」【崩落土】
- 2. 10YR6/3 に赤い黄褐色粗粒砂「崩落土」
- 3. 10YR6/3 に赤い黄褐色粗粒砂「崩落土」
- 4. 7.5YR5/3 明黄褐色粗粒砂【SP28埋土】
- 5. 10YR5/6 黄褐色細粒砂【SP29埋土】
- 6. 10YR5/4 に赤い黄褐色細粒砂【SP31埋土】
- 7. 10YR5/3 に赤い黄褐色細粒砂【SP32埋土】
- 8. 10YR5/2 淡黄褐色細粒砂【SP33埋土】
- 9. 10YR5/2 淡黄褐色中粒砂【SK38埋土】
- 10. 10YR5/2 淡黄褐色中粒砂【SK43埋土】
- 11. 10YR5/3 に赤い黄褐色中粒砂「堆山土」
- 12. 10YR6/6 明黄褐色中粒砂「堆山土」【SK43埋土】
- 13. 10YR6/3 に赤い黄褐色中粒砂【SK46埋土】
- 14. 10YR6/4 に赤い黄褐色中粒砂【SK47埋土】
- 15. 10YR7/4 に赤い黄褐色中粒砂【SK48埋土】
- 16. 10YR6/3 に赤い黄褐色粗粒砂【SP54埋土】
- 17. 7.5YR6/6 綠褐色中粒砂【SP55埋土】
- 18. 7.5YR6/3 に赤い黄褐色粗粒砂「しまりわい」【SD67埋土】
- 19. 10YR6/6 に赤い黄褐色粗粒砂「しまりわい」【SD67埋土】
- 20. 10YR7/4 に赤い黄褐色中粒砂「堆山アース多く混」【平均地1の造成土】
- 21. 7.5YR6/4 に赤い黄褐色中粒砂「平均地1の造成土」
- 22. 7.5YR6/4 に赤い黄褐色粗粒砂「堆山ブロック層 塩化物層【平均地2の造成土】
- 23. 10YR7/4 に赤い黄褐色細粒砂「堆山」

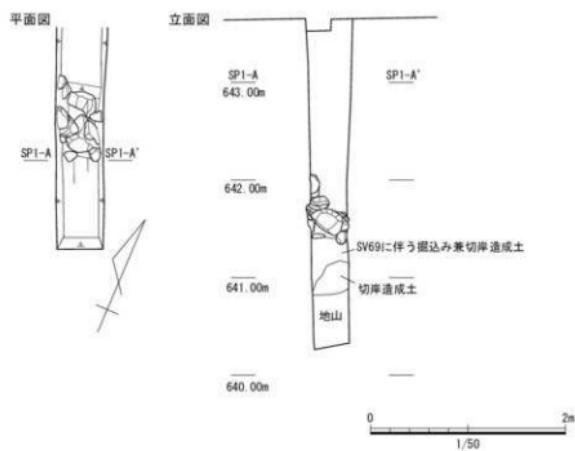
SB68 個別図



SA66 個別図



石垣SV69 個別図



第153図 向小島城跡 個別遺構図

第73表 向小島城跡土坑・柱穴等一覧表(1)

調査記号	遺構種別	遺構番号	位置 トランク 番号	横出面	法量(m)				埋土	備考 (切り合い、出土遺物等)		
					堆積状況	断面形状	上層					
							長径	短径				
AMK19 SP 01 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.50	0.36	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 02 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.33	0.25	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 03 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.35	0.34	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 04 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.33	0.31	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SK 05 TR 1	造成土	-	不 定	不 定	-	1.26	0.84	-	-	-		
AMK19 SP 06 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.53	0.44	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 07 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.30	0.26	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 08 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.49	0.33	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 09 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.32	0.31	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 10 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.22	0.21	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 11 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.28	0.26	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 12 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.35	0.34	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1 SP12~SP13		
AMK19 SP 13 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.52	0.40	-	褐色中粒砂	10YR4/1 SP12~SP13		
AMK19 SP 14 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.31	0.31	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 15 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.43	0.40	-	褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 16 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.50	0.17	0.20	にぶい 黃褐色中粒砂	10YR5/3		
AMK19 SP 17 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.42	0.16	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 18 TR 1	造成土	-	-	円	-	0.35	0.16	0.20	灰黃褐色中粒砂	10YR5/2		
AMK19 SP 19 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.19	0.18	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 20 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.30	0.27	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 21 TR 2	造成土	-	不 定	不 定	-	0.46	0.40	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 22 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.25	0.25	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 23 TR 2	造成土	-	不 定	不 定	-	0.46	0.45	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 24 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.37	0.26	-	にぶい 黃褐色中粒砂	10YR6/3		
AMK19 SP 25 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.22	0.21	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 26 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.26	-	褐色中粒砂	10YR6/1		
AMK19 SP 27 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.22	0.22	-	褐色中粒砂	10YR6/1		
AMK19 SP 28 TR 2	造成土	單 様跡	円	円	0.34	0.15	0.40	明黄色顔粒砂	10YR6/6 SP28~SP29 小刀の柄等 181			
AMK19 SP 29 TR 2	造成土	單 平坦	円	円	0.27	0.07	0.36	明黄色顔粒砂	10YR6/6 SP28~SP29			
AMK19 SP 30 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.23	0.21	-	褐色中粒砂	10YR6/1 地山ブロック面		
AMK19 SP 31 TR 2	造成土	單 様跡	円	円	0.49	0.48	0.20	灰黃褐色中粒砂	10YR6/2			
AMK19 SP 32 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.30	0.22	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1		
AMK19 SP 33 TR 2	造成土	-	不 定	不 定	-	0.38	0.36	-	褐色中粒砂	10YR5/1 SP33~SP34		
AMK19 SP 34 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.28	-	褐色中粒砂	10YR6/1 SP33~SP35		
AMK19 SP 35 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.33	0.31	-	褐色中粒砂	10YR5/1		
AMK19 SP 36 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.35	0.22	-	褐色中粒砂	10YR5/1		
AMK19 SP 37 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.39	0.32	-	灰黃褐色中粒砂	10YR6/2 SP37~SK38 地山ブロック面		
AMK19 SK 38 TR 2	造成土	單 方 室	円	円	1.60	0.80	0.17	にぶい 黃褐色中粒砂	10YR5/3 SP37~SK38~SK40			
AMK19 SP 39 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.26	0.24	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SK 40 TR 2	造成土	-	不 定	不 定	-	1.09	0.65	-	褐色中粒砂	10YR4/1 植が侵入		
AMK19 SP 41 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.34	0.32	-	褐色中粒砂	10YR6/1 地山ブロック面		
AMK19 SP 42 TR 2	造成土	-	不 定	不 定	-	0.51	0.46	-	褐色中粒砂	10YR4/1 SK68を構成、地山ブロック面		
AMK19 SK 43 TR 2	造成土	單 手 印	円	円	0.30	0.12	0.17	にぶい 黃褐色中粒砂	10YR5/3 SK43~SP56 増山ブロック面			
AMK19 SP 44 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.26	0.23	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 45 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.44	0.42	-	褐色中粒砂	10YR4/1 SK68を構成、地山ブロック面		
AMK19 SP 46 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.33	0.26	-	灰黃褐色中粒砂	10YR6/2 地山ブロック面		
AMK19 SP 47 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.26	0.19	-	黒褐色中粒砂	10YR3/1 SP47~SP57~SP58		
AMK19 SP 48 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.42	0.41	-	褐色中粒砂	10YR4/1 SK68を構成、地山ブロック面		
AMK19 SP 49 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.28	-	灰黃褐色中粒砂	10YR6/2		
AMK19 SP 50 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.36	0.32	-	褐色中粒砂	10YR6/1		
AMK19 SP 51 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.49	0.35	-	褐色中粒砂	10YR4/1 SK68を構成		
AMK19 SP 52 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.29	0.13	-	褐色中粒砂	10YR4/1		
AMK19 SP 53 TR 2	造成土	-	-	円	-	0.40	0.40	-	褐色中粒砂	10YR4/1 SK68を構成		
AMK19 SP 54 TR 2	造成土	單 様跡	円	円	0.31	0.17	0.30	にぶい 黃褐色粗粒砂	10YR6/3 薄口美濃玉皿			

第74表 向小島城跡土坑・柱穴等一覧表(2)

遺跡名	遺構別	遺構番号	位置 トランシ ット番号	検出面	堆積状況	断面形状	平面形状	遺物形狀	法量(m)			堆土	備考 (切り合い、出土遺物等)
									上端 長径	下端 短径	深さ		
AMK19	SP	55	TR	2	造成土	單	平坦	円	0.33	0.28	0.17	にぶい・黄褐色細粒砂	10YR5/3
AMK19	SP	56	TR	2	造成土	單	楕円	円	0.19	0.17	0.19	明黄褐色中粒砂	10YR6/6 SK43・SP56
AMK19	SP	57	TR	2	造成土	單	楕円	不定	0.38	0.33	0.18	にぶい・黄褐色中粒砂	10YR6/4 SP47・SP57・SP58
AMK19	SP	58	TR	2	造成土	單	楕円	円	0.43	0.40	0.18	にぶい・黄褐色中粒砂	10YR7/4 SP47・SP57・SP59
AMK19	SP	59	TR	2	造成土	單	平坦	円	0.37	0.28	-	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2 -
AMK19	SK	60	TR	2	造成土	單	三角	円	0.63	0.38	0.34	灰黄褐色細粒砂	10YR5/2 SK38・SK60
AMK19	SP	61	TR	1	造成土	單	楕円	円	0.53	0.31	0.28	にぶい・黄褐色細粒砂	10YR5/3 -
AMK19	SP	62	TR	1	造成土	單	楕円	円	0.22	0.20	0.40	にぶい・黄褐色細粒砂	10YR6/3 -
AMK19	SP	63	TR	1	造成土	單	楕円	-	0.44	-	0.12	にぶい・黄褐色細粒砂	10YR5/3 -
AMK19	SP	64	TR	1	造成土	單	楕円	-	0.22	-	0.18	灰黄褐色中粒砂	10YR5/2 -
AMK19	SP	65	TR	1	斜面の造成土	單	楕円	-	0.40	-	0.60	にぶい・黄褐色細粒砂	10YR6/4 SA66を構成
AMK19	SK	66	TR	2	造成土	單	半円	-	0.59	-	0.17	にぶい・黄褐色中粒砂	10YR6/3 -
AMK19	SD	67	TR	2	造成土	單	半円	-	(0.25)	0.57	0.28	にぶい・黄褐色粗粒砂	10YR5/3 -

5 遺物(第154図、第75・76表)

柱穴 SP17から中国製磁器染付碗180が出土した。内外面の口縁部に界線が巡る。口縁部が直線的に開く。染付碗B群に属する。SP28から小刀の柄181が出土した。全体的に緑青が覆い、材質が素銅か赤銅と考えられる。SP54から土師器皿が1点、瀬戸美濃焼が1点出土した。182は口縁部内面をヨコナデにより面取りする。外面は口縁部に一段のヨコナデを施し、下半部は未調整である。7類に属する。183は瀬戸美濃焼の丸皿である。底部内面に印花文を施し、内外面全体に浅黄～淡黄色の灰釉を施す。体部がほぼ直線的に開き、高台が低く小さい。器形から大窯第2段階後半のものと考えられる。

土坑 SK66から白磁1点が出土した。184は白磁碗の口縁部破片である。口縁部が外反し、端部を丸く仕上げる。器形から白磁E類のものと考えられる。

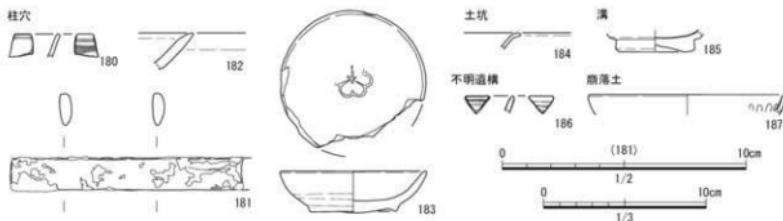
溝 SD67から瀬戸美濃焼の天目茶碗185が出土した。内面に黒褐色の鉄釉を施す。内反り高台であり、大窯第2段階のものと考えられる。

不明遺構 SX40から中国製磁器染付碗の口縁部破片186が出土した。縁部が直線的に開き、口縁部内外面に界線を施す。

崩落土 青磁1点が出土した。187は青磁碗の口縁部破片である。内面に凹凸による菊花文を施す。

6 特記事項

向小島城1期 今回の調査では、遺構面を1面確認した。平坦地1が造成され、土留めのために石垣SV69が組まれる。南側上端には、柵列SA66が設けられ、その内側には掘立柱建物SB68が建てられる。遺物は、土師器皿7類182、大窯第2段階の天目茶碗185、第2段階後半の丸皿183が出土する。これらから、それ以降の時期の大窯第2～3段階に造られたものと考えられる。



第154図 向小島城跡 出土遺物図

第75表 向小島城跡出土遺物一覧表

遺物番号	土層	土師器皿							瀬戸美濃					珠洲	青磁	白磁	染付	金属	その他	合計	
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	丸皿	端反皿	天目茶碗	すり鉢	その他	要	鏡	碗	皿	鏡				
1	斜面の造成土	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
柱穴	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	6
土坑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	
溝	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
不明遺構	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	
崩落土	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	
検出	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	3	
合計		0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	2	1	1	1	0	2	1	2	14	
2																					
4																					

第76表 向小島城跡出土遺物観察表

遺物番号	層位	トレランチ	種類	基盤	法寸 (cm, 括弧内は推定)			色調			成形・文様等			接觸層番号	
					口径	底径	器高	内面	外面	断面	内外面凹凸ナメ	施釉	施釉		
180	SP17	1	染付	網	-	-	1.3	2.5G18/1 明緑灰色	7.5G18/1 明緑灰色	358/1 灰白色	内外面凹凸ナメ	施釉	施釉	154	
181	SP28	2	金風製品	小刀の柄	9.5	1.3	0.55	-	-	-	-	-	-	-	154
182	SP54	2	土師器	皿	-	-	2.4	7.5W7/4 にぶい褐色	7.5W7/4 にぶい褐色	7.5W7/3 にぶい褐色	外沿口縁部模様ナメ	下部	7.5W7/3 にぶい褐色	7.5W7/3 にぶい褐色	154
183	SK66	2	瀬戸美濃	丸皿	9.0	5.4	2.6	358/3 淡黄色	358/3 淡黄色	10W8/4 淡黄色	内外面全体に施釉	内面	10W8/4 淡黄色	10W8/4 淡黄色	154
184	SK66	2	白磁	網	-	-	1.0	7.5W8/1 灰白色	7.5W8/1 灰白色	7.5W8/1 灰白色	内外面凹凸ナメ	施釉	白磁 E種	154	
185	SW67	2	瀬戸美濃	天目茶碗	-	4.5	1.35	10W8/1 黒褐色	5W6/6 橙色	10W8/2 灰白色	内外面凹凸ナメ	施釉	10W8/2 灰白色	10W8/2 灰白色	154
186	SX49	2	染付	網	-	-	1.1	5G8/1 灰白色	2.5G8/1 灰白色	2.5G8/1 灰白色	内外面凹凸ナメ	施釉	2.5G8/1 灰白色	2.5G8/1 灰白色	154
187	崩落土	2	青磁	網	12.0	-	1.25	5G76/1 オリーブ灰	5G76/1 オリーブ灰	2.5Y7/1 灰白色	内外面凹凸ナメ	施釉	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/1 灰白色	154

第7節 自然科学分析

1 調査の目的

今回の調査では、限られた調査面積による遺構・遺物の検討で年代や変遷を検討してきた。これらに加えて炭化物の加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行い、年代観に齟齬がないかの検討を行う。また、同一試料で樹種同定も行った。分析は、須山貴史(㈱イビソク飛騨営業所)が実施した。

2 試料と方法

試料は、古川城跡、小島城跡、小鷹利城跡、向小島城跡の4城から出土した炭化物6点である(第77表)。古川城跡では、最高所の平坦地の調査において、B-B'の8層・造成土Aから出土した試料No.1(現場取り上げNo.6、測定番号PLD-45562)、B-B'の12層・造成土Cから出土した試料No.2(現場取り上げNo.14、測定番号PLD-45563)、8号トレンチA-A'の13層・造成土Cから出土した試料No.3(現場取り上げNo.70、測定番号PLD-45567)を対象とした。小島城跡では、5号トレンチ9層・土坑7埋土から出土した試料No.4(現場取り上げNo.28、測定番号PLD-45564)を対象とした。小鷹利城では、礎石建物SB73を構成する礎石の抜き取り穴SS47から出土した試料No.5(現場取り上げNo.58、測定番号PLD-45566)を対象とした。向小島城跡では、斜面の造成土23層から出土した試料No.6(現場取り上げNo.15、測定番号PLD-45565)を対象とした。

試料は、前処理による調整を行った後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製 1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、曆年代を算出した。

樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柾目)について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)にて検鏡および写真撮影を行なった。

3 分析の結果

同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した¹⁴C年代を測定した(第78表)。また、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために、下1桁を丸めていない曆年較正結果も示す(第155図)。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、曆年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C 年代の曆年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ : IntCal20、曆年較正結果が 1950 年以降にのびる試料については Post-bomb atmospheric NH₂) を使用した。なお、1 σ 曆年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ¹⁴C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の曆年代範囲であり、同様に 2 σ 曆年代範囲は 95.45% 信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ¹⁴C 年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

樹種同定は、試料 No. 1・2・4・6 がコナラ属コナラ節、試料 No. 5 がトチノキ、試料 No. 3 は分析不能であった（第 156 図）。

4 小結

古川城跡の B-B' 8 層・造成土 A の試料 No. 1 (PLD-45562) は、1457-1523 cal AD (55.38%) および 1573-1630 cal AD (40.07%) で、15 世紀中頃～17 世紀前半の曆年代を示した。同じく、B-B' の 12 層・造成土 C の試料 No. 2 (PLD-45563) は、1026-1051 cal AD (26.68%) および 1080-1154 cal AD (68.77%) で、11 世紀前半～12 世紀中頃の曆年代を示した。一方、A-A' の 13 層・造成土 C から出土した試料 No. 3 (PLD-45567) は、1454-1520 cal AD (68.37%) および 1588-1621 cal AD (27.08%) で、15 世紀中頃～17 世紀前半の曆年代を示した。試料 No. 2 (PLD-45563) は最終形成年輪が残っており、測定結果は枯死もしくは伐採年代を示す。それ以外の 2 点は、最終形成年輪が残っていないかったため、測定結果は、実際に枯死もしくは伐採された年代以前のものであると考えられる。

試料 1 と 3 は、ほぼ同じ年代観を示す。造成土 C による山城造成の時期は、少なくとも 15 世紀中頃以降と考えられる。また、今回の調査では須恵器・灰釉陶器が出土している。試料 2 の曆年代は、古川城跡では、古代から中近世にかけて断続的に人の営みがあった可能性を推測させる。

小島城跡の 5 号トレンチ 9 層の土坑 7 から出土した試料 No. 4 (PLD-45564) は、1470-1526 cal AD (43.46%) および 1555-1633 cal AD (51.99%) で、15 世紀後半～17 世紀前半の曆年代を示した。土坑 7 は第 2 遺構面から掘り込む遺構であり、小島城 1 期に属する。小島城跡の始期に関わる可能性がある。しかし、試料 No. 4 も最終形成年輪が残っていないかったため、測定結果は実際より古い年代を示した可能性を考慮しておく必要がある。

小鷹利城跡の礎石の抜き取り穴 SS47 から出土した試料 No. 5 (PLD-45566) は、1455-1521 cal AD (64.84%)、1579-1585 cal AD (1.11%)、1586-1622 cal AD (29.50%) で、15 世紀中頃～17 世紀前半の曆年代を示した。SS47 は礎石建物 SB73 を構成し、小鷹利城 2 期に属する。それ以前に小鷹利城 1 期の柱穴 SP68 を確認したが年代についての知見を得ることが出来ていなかった。炭化物の示す 15 世紀中頃の年代は、小鷹利城跡の始期に関わる可能性がある。なお、試料 No. 5 も最終形成年輪が残っていないかったため、測定結果は実際より古い年代を示している可能性がある。

向小島城跡の斜面の造成土 23 層から出土した試料 No. 6 (PLD-45565) は、1496-1601 cal AD (77.02%) および 1614-1639 cal AD (18.43%) で、15 世紀末～17 世紀前半の曆年代を示した。なお、試料 No. 5 も最終形成年輪が残っていないかったため、測定結果は実際より古い年代を示している可能性がある。

今回の測定結果から、古川城跡においては古代から中近世にかけて断続的に人の営みがあった可能性を、小島城跡では 15 世紀後半以降、小鷹利城跡では 15 世紀中頃以降、向小島城跡では 15 世紀末以降に使用が開始された可能性を想定することができた。また、植生はコナラ及びトチノキという広葉樹であり、原植生を示すものと考えられた。

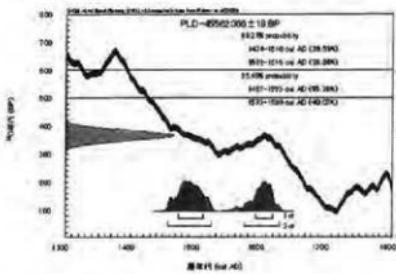
第77表 測定試料および処理一覧表

試料No.	遺跡データ	試料データ	前処理
1	現場取り上げNo. 6 測定番号 PLD-45562 遺跡名：古川城跡 位置：平坦地 1 層位：造成土 A	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
2	現場取り上げNo. 14 測定番号 PLD-45563 遺跡名：古川城跡 位置：平坦地 1・B-B' 層位：12層・造成土 C	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
3	現場取り上げNo. 70 測定番号 PLD-45567 遺跡名：古川城跡 位置：平坦地 1・A-A' 層位：13層・造成土 C	種類：炭化材 樹種：分析不能 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
4	現場取り上げNo. 28 測定番号 PLD-45564 遺跡名：小島城跡 位置：5号トレンチ・土坑 7 層位：9層・土坑 7 埋土	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
5	現場取り上げNo. 5 測定番号 PLD-45566 遺跡名：小鷹利城跡 位置：礎石抜き取り穴 SS47 層位：SS47 埋土	種類：炭化材 樹種：トチノキ 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)
6	現場取り上げNo. 15 測定番号 PLD-45565 遺跡名：向小島城跡 位置：斜面の造成土 層位：23層	種類：炭化材 樹種：コナラ属コナラ節 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L)

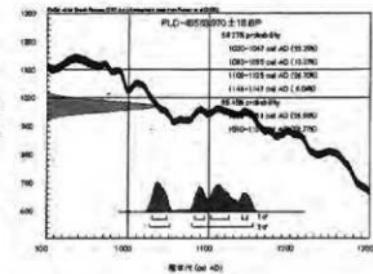
第78表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果一覧表

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	曆年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{13}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{13}C 年代を歴年代に較正した年代範囲	
				1 σ 歴年代範囲	2 σ 歴年代範囲
試料 No. 1 PLD-45562	-25.73 \pm 0.20	366 \pm 18	365 \pm 20	1474-1510 cal AD (39.59%) 1592-1619 cal AD (28.68%)	1457-1523 cal AD (55.38%) 1573-1630 cal AD (40.07%)
試料 No. 2 PLD-45563	-24.81 \pm 0.19	970 \pm 18	970 \pm 20	1030-1047 cal AD (22.25%) 1083-1095 cal AD (13.27%) 1102-1125 cal AD (26.70%) 1141-1147 cal AD (6.04%)	1026-1051 cal AD (26.68%) 1080-1154 cal AD (68.77%)
試料 No. 3 PLD-45567	-25.32 \pm 0.20	378 \pm 17	380 \pm 15	1459-1496 cal AD (53.05%) 1601-1614 cal AD (15.22%)	1454-1520 cal AD (68.37%) 1588-1621 cal AD (27.08%)
試料 No. 4 PLD-45564	-24.65 \pm 0.19	354 \pm 17	355 \pm 15	1480-1520 cal AD (36.66%) 1589-1621 cal AD (31.61%)	1470-1526 cal AD (43.46%) 1555-1633 cal AD (51.99%)
試料 No. 5 PLD-45566	-23.42 \pm 0.23	375 \pm 17	375 \pm 15	1460-1501 cal AD (50.23%) 1600-1616 cal AD (18.04%)	1455-1521 cal AD (64.84%) 1579-1585 cal AD (1.11%) 1586-1622 cal AD (29.50%)
試料 No. 6 PLD-45565	-23.20 \pm 0.19	324 \pm 17	325 \pm 15	1513-1514 cal AD (0.84%) 1517-1529 cal AD (10.14%) 1540-1547 cal AD (5.53%) 1549-1590 cal AD (38.05%) 1620-1635 cal AD (13.71%)	1496-1601 cal AD (77.02%) 1614-1639 cal AD (18.43%)

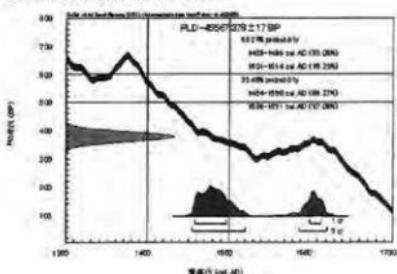
試料1：古川城跡（造成土A）



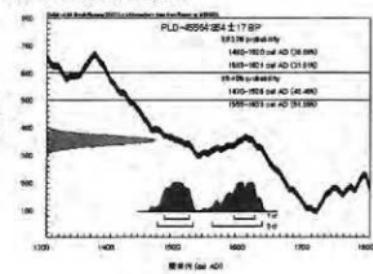
試料2：古川城跡（造成土C）



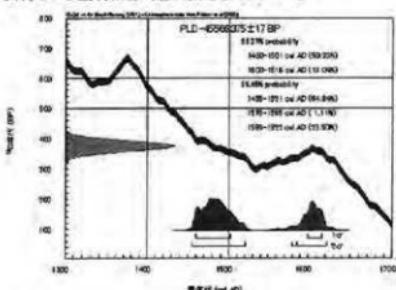
試料3：古川城跡（造成土C）



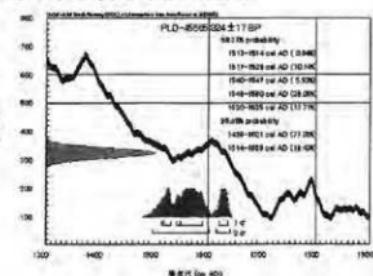
試料4：小島城跡（土坑7）



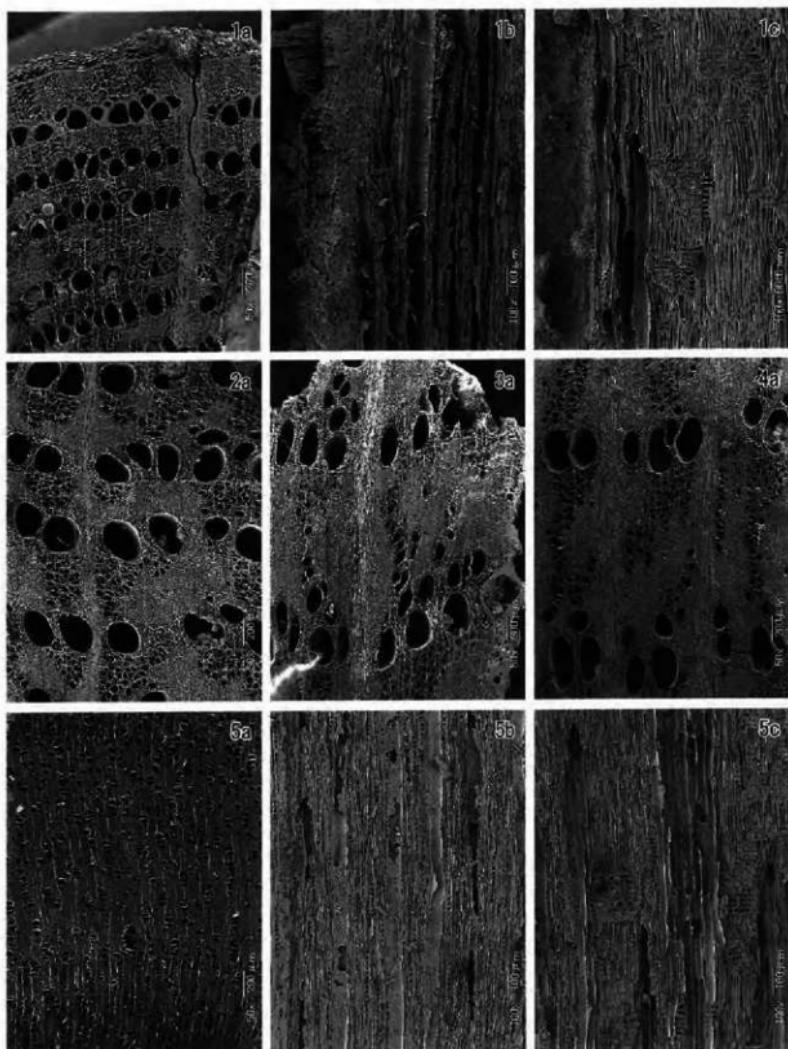
試料5：小鹿利城跡（礎石抜き取り穴 SS47）



試料6：向小島城跡（斜面の造成土）



第155図 年代測定暦年校正図



第156図 姉小路氏城館跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. コナラ属コナラ節 (No.2)、2a. コナラ属コナラ節 (No.1)、3a. コナラ属コナラ節 (No.4)、4a. コナラ属コナラ節 (No.6)、5a-5c. トチノキ (No.5)

a: 横断面、B: 接線断面、c: 放射断面

第8節 小結

1 出土遺物の組成と傾向

山城や調査地区の性格の違いを示す可能性を想定し、各調査区から出土した土器・陶磁器の出土点数を集計した（第79表）。

各山城の最高所か最も広い平坦地での土師器皿の点数を見ると、古川城跡 51 点、小島城跡 9 点、野口城跡 178 点と、3 つの山城では土師器皿の出土点数が最も多い。土師器皿は饗応に使用されるものであるため、古川城跡・小島城跡・野口城跡では、山城の最高所か最も広い平坦地にこのような場

第79表 出土遺物一覽表

	吉川城跡			小島城跡			野口城跡		小糸利城跡		向小島城跡		総計
	虎口通路 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	虎口通路 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最高所の 平坦地 (点数)	合計 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	最も広い 平坦地 (点数)	
須恵器	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
灰釉陶器	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
土師器	12	51	63	0	9	10	19	178	4	2	2	266	
3種	4	3	7	0	1	0	1	0	0	0	0	0	8
4種	2	21	23	0	4	2	6	25	3	0	0	0	55
5種	2	3	5	0	0	0	0	15	0	0	0	0	20
6種	1	1	2	0	0	0	0	10	0	0	0	0	12
7種	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
不明	3	23	26	0	3	8	11	128	3	1	1	1	169
彌戸美濃焼	5	9	12	4	3	2	9	2	10	4	4	4	37
丸皿	3	1	4	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1
端反皿	0	2	2	1	1	0	2	1	0	0	0	0	5
天目茶碗	0	1	1	0	1	2	3	0	0	0	1	1	5
すり鉢	0	1	1	1	1	0	2	0	1	0	0	0	4
その他	0	4	4	1	0	0	1	1	9	2	2	17	
珠派焼甕	0	0	0	0	0	3	3	1	39	1	1	1	44
青磁	0	0	0	0	0	0	0	2	6	1	1	1	9
輪	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	1	1	8
棲花瓶	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
白磁	1	4	5	1	0	0	1	0	2	1	1	1	9
輪	1	4	5	0	0	0	0	0	2	1	1	1	8
粗	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
中国製染付磁器	0	1	1	0	0	0	0	0	4	2	2	2	7
輪	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2	2	2	5
粗か粗	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
金風製品	0	6	6	1	2	1	4	5	2	1	1	1	18
その他	2	1	3	1	0	0	1	2	0	2	0	2	8
合計	18	77	95	7	14	16	37	190	67	14	14	14	403
調査面積	55.7	56.2	111.9	48.1	22.1	-	70.2	90.1	128.7	59.3	460.2		
あたり	0.32	1.37	0.85	0.15	0.63	-	0.53	2.11	0.52	0.24	0.88		

が設定されていた可能性を想定することができる。古川城跡 56.2 m²、小島城跡 22.1 m²、野口城跡 90.1 m²であるため、出土点数に各山城の調査面積を加味すると、m²当たりの密度では古川城跡 0.90 点 / m²、小島城跡 0.40 点 / m²、野口城跡 1.98 点 / m²となる。野口城跡が他の城跡より突出している状況である。

各山城からは、土師器皿の3類～7類が出土している（第80表）。3類が出土するのは古川城跡と小島城跡であり、両城跡とも4類とともに出土する。その4類が最も多く出土するのは野口城跡である。しかし、野口城跡では3類の出土は無く、4類が最も点数が多い。また、5類、6類の順で割合が徐々に低くなっていく。これに対し、古川城跡では5類の割合が低く、小島城跡では5・6類の出土はない。このように、土師器皿の出土点数が最も多い古川城跡・小島城跡・野口城跡では、土師器皿の分類ごとに出土傾向の違いが認められる。

この3城に対して、小鷹利城跡では瀬戸美濃焼10点、中国製陶磁器12点と、土師器皿4点より多く出土する。また、向小島城跡でも瀬戸美濃焼5点、中国製陶磁器4点と、土師器皿2点より多く出土する。このように、古川城跡・小島城跡・野口城跡と、小鷹利城跡・向小島城跡では、出土遺物の種別による組成が異なる。

山城の場所ごとで出土傾向の比較ができるのは、2ヶ所以上を調査した古川城跡と小島城跡である。古川城跡では、最高所の平坦地と通路で、小島城跡では最も広い平坦地と通路で調査を行っている。 m^2 当たりの点数を見ると、古川城跡では、最高所の平坦地で 1.37 点 / m^2 、虎口通路で 0.32 点 / m^2 である。小島城跡では最高所の平坦地で 0.63 点 / m^2 、虎口通路で 0.15 点 / m^2 である。これは調査場所の性格の違いを示しているものと考えられる。

第80表 時期・分類ごとの土師器一覧表

		土器器皿									
		3類	4類	5類	6類	7類	不明	小計	合計		
姉小路Ⅰ	~吉瀬戸後IV(古)	古川1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小鷹利1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
姉小路Ⅱ	吉瀬戸後IV(新) ~大窯1	古川2	2	13	0	0	0	4	19	23	
		小島1	0	2	14	0	0	0	7		
		小鷹利2	0	1	0	0	0	3	4		
姉小路Ⅲ	大窯1~2	野口1	0	0	4	4	4	0	2	2	10
姉小路Ⅳ	大窯2~3	古川3	1	3	2	0	0	7	13	102	
		野口2	0	1	18	21	9	7	0	53	87
		向小島1	0	0	0	0	1	1	1	2	
姉小路Ⅴ	大窯3~4	古川4	0	1	5	2	1	0	4	6	15
		小島2	1	4	0	0	0	0	2	7	
近世以降		古川	4	6	1	1	0	11	23	116	
		小島	0	2	0	0	1	9	12		
		野口	0	4	3	11	2	3	73	93	
		小鷹利	0	0	0	0	0	0	0	0	
		向小島	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計			8	55	20	12	2	169	266		

2 遺構の分布と変遷

各山城の発掘調査で明らかとなった遺構の分布と変遷をまとめる。また、前項において、最も出土点数が多く分類ごとの出土傾向に違いが認められた土師器皿についても、層位と分類ごとの出土傾向を記述する（第81表）。

なお、自然科学分析では下限となる曆年代を示すことができたが、最終形成年輪の残る試料が1点のみであった。このため、曆年代については第7章で検討することとし、ここでは参考として記述するに留める。

姉小路氏城館I期 トレンチで部分的に確認した。古川城1期と小鷹利城1期が該当する。古川城跡では平坦地1で第4遺構面の地山上面から掘り込む土坑4、小鷹利城では第2遺構面である地山上面で、柱穴SP67を確認した。土師器皿のみならず、伴う遺物は認められず、時期は不明である。

自然科学分析では、I期に関する試料を得ることができなかつた。

姉小路氏城館II期 古川城2期、小島城1期、小鷹利城2期が該当する。古瀬戸後IV期（新）～大窓第1段階の時期である。

古川城跡では、地山の傾斜地に斜面の造成土で盛土し、その上層に造成土Cを施し、第3遺構面が構築される時期である。その上面から柱穴7を掘り込む。小島城跡では、斜面の造成土下層の地山上面で、土坑7を確認した。小鷹利城跡では曲輪造成土上面で遺構を検出した。2間四方の礎石建物SB72、曲屋形状の礎石建物SB73が、平坦地1の東・西側を取り囲むように配置される。また、平坦地2において、平坦地1との間の斜面下に溝SD68が位置する。

土師器皿では、古川城跡において、土師器皿4類が主体をなし、土師器皿3類が混入する時期である。小鷹利城跡では土師器皿4類が出土する。

自然科学分析の成果では、古川城跡の試料1・3より15世紀中頃以降、小島城跡の試料4より15世紀後半以降、小鷹利城跡の試料5より15世紀中頃以降の数値を得ることができた。ここから、II期の始期は15世紀後半以降の曆年代と想定することができる。

姉小路氏城館III期 野口城1期が該当する。大窓第1～2段階の時期である。野口城跡では、造成土IVで平坦地1全面を覆う。平坦地1を囲む土塁も、この時期に整備された可能性がある。1号トレンチにて、土坑SK143・SK148・SK156の3基を確認した。また、古川城跡・小島城跡においては後続する時期にも遺物が見られるものの、小鷹利城跡では遺物が確認できなくなる。このため、古川城2期、小島城1期は継続しており、小鷹利城2期はII期で終期を迎えていたものと想定される。

土師器皿では、土師器皿4類と5類が出土する。3類は認められない。

自然科学分析では、III期に関する試料を得ることができなかつた。

姉小路氏城館IV期 古川城3期、野口城2期、向小島城1期が該当する。大窓第2～3段階の時期である。

古川城跡では、平坦地1の全面を覆う造成土Bを基礎とする礎石建物1が建てられた。礎石建物1は5間×3間の建物であり、建物周囲の礎石は半間ごとに配されている。また、平坦地3から4へ通じる通路5が造成され、平坦地3と通路の間の斜面には石垣2、通路5の南側斜面には土留め石垣が構築された。なお、この2つの石垣は、地山と接する箇所に礫を集中させて切岸上部まで積まないこと、礫の大きさが10～40cm程度と不揃いなことが一致するため、同時期と考えられた。石垣2には裏込め土が伴い、土留め石垣には裏込め土が伴わない点で、異なる特徴もある。

野口城跡では、平坦地1を囲む土塁が構築される。北側土塁の上端平坦面には柵列SA162が、西側

土壘の上端平坦面には柵列 SA163 が設けられる。その内側には、造成土Ⅲ上面で掘立柱建物 SB160・161 を検出した。また、歓状堅堀群からの遺物の出土はなかったものの、地表面に近い山城の最終段階ということから、当期のものと考えられる。

向小島城跡では、平坦地 1 の南側斜面に土留めのために石垣 SV69 が組まれて、造成が行われる。平坦地 1 の南側上端には、柵列 SA66 が設けられ、その内側には掘立柱建物 SB68 を確認した。平坦地 2 には、平坦地 1 との間の斜面下に、溝 SD67 が設けられた。

土師器皿は、4～7 類が出土する。3 類も出土するが前段階のⅢ期を構築する土層から出土が認められないため、混入したものと考えられる。また、6・7 類の出土はⅢ期までは認められず、当該時期のⅣ期の土層から初めて出土する。このため、小島城 2 期は当該期まで継続していたものと想定される。

自然科学分析では、向小島城の試料 6 より 15 世紀末以降の暦年代と想定することができた。

姉小路氏城館跡Ⅷ期 古川城 4 期、小島城 2 期が該当する。大窯第 3～4 段階の時期である。

古川城跡では、平坦地 1 に礎石 40 等が残存するため、礎石建物が建てられていたものと考えられる。平坦地 2 でも曲輪造成土を基礎とする礎石建物 2 を確認した。そこに南接する石列 3 は、北東側の隅が直角を呈し、外側に向けて面を持ち、一段目の高さが揃う。石材を据える土層は平坦地 2 から平坦地 1 へ向かって徐々に厚く堆積する。このため、平坦地 2 から平坦地 1 へ登る施設の基底部の可能性が想定される。

平坦地 3 と平坦地 4 の間の斜面には、1 m 程度の石材を用いて舟形形状となる石垣 1 が構築される。

また、平坦地 4 から平坦地 3 へ至る通路 5 に路面造成が施される。石垣 1 の北側石垣西半部では裏込め土がなく、スロープ造成土が施される。その幅は 3.8 m であり、通路 5 の幅と一致する。このため、通路 5 からはスロープ造成土の箇所を通り、平坦地 3 へ上がっていた可能性を想定することができる。

小島城跡では、平坦地 1 に礎石 8 が残存し、礎石建物があったものと想定された。平坦地 1 の南側斜面では、石垣 2・石垣 3 を確認した。その上方にも平坦地 1 まで達する裏込め疊を確認したため、3 段の石垣があったものと想定された。また、平坦地 2 と通路 3 の間の斜面には、1 m 程度の石材も用いた石垣 1 が構築される。

土師器皿は 3～5 類が出土する。Ⅳ期で出土した 6・7 類の出土が認められないため、混入したものと考えられる。同時期の増島城跡からは土師器皿は細片しか出土していない（飛騨市教育委員会 2010）。このため、当該時期には土師器皿を使用しなくなったものと考えられる。

第 81 表 姉小路氏城館跡の時期対応表

時期		古川城跡	小島城跡	野口城跡	小鷹利城跡	向小島城跡
I 期	時期不明	古川 1			小鷹利 1	
II 期	古瀬戸後 IV 期（新）～大窯 1	古川 2	小島 1		小鷹利 2	
III 期	大窯 1～2	↓	↓	野口 1		
IV 期	大窯 2～3	古川 3	↓	野口 2		向小島 1
V 期	大窯 3～4	古川 4	小島 2			

【第5章 主要引用参考文献】

- 国立歴史民俗博物館 1993 『日本出土の貿易陶磁 西日本編 1』 国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書 4
- 中井均編 2019 『戦国時代における石垣技術の考古学的研究 平成 28～31 年度学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（一般）研究成果報告書（織豊期城郭研究会 2019 年度彦研究集会資料集）』『戦国時代における石垣技術の考古学的研究』成果報告会実行委員会
- 萩原三雄・中井均編 2014 『中世城館の考古学』 高志書院
- 松井一明 2016 「戦国期～織豊系城郭の門跡－門遺構研究の方向性を探る－」『織豊城郭』 第 16 号 織豊期城郭研究会
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』 高志書院
- 三好清超 2021 「姉小路氏関連遺跡で出土する中世土師器皿の編年試案』『城郭研究と考古学 中井均先生退職記念論集』中井均先生退職記念論集刊行会
- 吉岡康鶴 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館